EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度　シラバス
- 学部生対象（入門科目） -

最終更新日：　2017 年　10 月　18 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	EU論基礎−制度と経済−
科目ナンバリングコード	KED-ASC2231J
講義題目	
授業科目区分	高年次基幹教育科目 KIKAN education subjects for students in the second year and above
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	岩田 健治 フェニック M. D.
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	箱崎地区
使用言語	英語及び日本語を併用(E/J)
使用言語 (自由記述欄)	岩田が担当する講義は日本語で、Fenwick(フェニック)が担当する講義は英語で、それぞれ行います。
教室	大講義室
その他 (自由記述欄)	本講義は、経済学部の岩田健治と法学部のMark Fenwick(マーク・フェニック)の2名が担当する学際的講義ですが、上記2学部以外の全ての学部生の受講を歓迎します。

授業概要	EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっています。この講義では、EUの基本的なことがらについて、経済学・法律学の視点から総合的に学びます。経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、また、法制度編では、EU進展の歴史、EUの組織と制度の概要、EU立法手続き、EU法の諸原則、欧州裁判所の役割と代表的な判例などを、それぞれ学びます。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得することができるでしょう。 Since the establishment of the ECSC in 1951, the European Union (EU) has performed both a “deepening” by establishing the Internal Market and the Single Currency and a “widening” by increasing Member States from the original 6 to 28. In doing so, it has been able to establish its influence in the world. This course covers basic topics of the EU from the viewpoint of economics, as well as law. The economic part of the course deals with theories and the history of the EU economic integration and the current situations of the EU economy etc. The legal part deals with the background and development of the EU, an outline of EU institutions, the EU’s legislative procedures, general principles of EU law, the role of the Court of Justice, including a look at selected cases etc. Students are expected to receive a thorough exposure to a wide range of current EU-related topics at an introductory level.
キーワード	EU(欧州連合)、ヨーロッパ、経済統合、単一市場法
履修条件等	特にありません。

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	経済学・法律学の基礎知識があると理解が容易となりますが、なくてもヨーロッパや地域的統合に何らかの関心があれば履修可能です。フェニックが担当するEU法に係る授業と成績評価(レポート)は英語で行われるため、英語で授業を正確に理解し、それに基づいて英語でレポートを作成する能力が求められます。

到達目標

No	観点	詳細
1.	EUに関する経済学的知識	ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。
2.	EUに関する法律学的知識	EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1講 (岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について	○		
2.	第2講 (岩田) 経済統合の論理とEUの機構	○		
3.	第3講 (岩田) 関税同盟と単一市場(1)	○		
4.	第4講 (岩田) 関税同盟と単一市場(2)	○		
5.	第5講 (岩田・畑山敏夫) 特別講義:フランス大統領選挙とEU(仮)	○		
6.	第6講 (岩田) 通貨協力と単一通貨(1)	○		
7.	第7講 (岩田) 通貨協力と単一通貨(2)	○		
8.	第8講 (岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える	○		
9.	第9講 (Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case	○		
10.	第10講 (Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case	○		
11.	第11講 (Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case	○		
12.	第12講 (Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases	○		
13.	第13講 (Fenwick) The Euro Crisis & the Law	○		
14.	第14講 (Fenwick) Brexit	○		
15.	第15講 (岩田・Fenwick) Class Review & Exam Preparation	○		

授業以外での学習にあたって	EUやヨーロッパに関するニュースや新聞記事を積極的に活用して下さい。
テキスト	特定のテキストは利用しません。
参考書	全体を通した参考図書: 庄司克宏『はじめてのEU法』有斐閣, 2015年。 羽場久美子編『EU(欧州連合)を知るための63章』明石書店, 2013年。 森井裕一編著『ヨーロッパの政治経済・入門』 有斐閣, 2012年。 Herman Lelieveldt, Sebastiaan Princen, The Politics of The European Union, Cambridge University Press, 2011. この他の参考図書については、講義の進行に沿って提示します。
授業資料	

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								

		◎							

成績評価基準に関わる補足事項	岩田が担当する経済編は学期末試験により評価し(50点)、フェニックが担当する法制度編はレポートにより評価し(50点)、両者の合計点(100点満点)をもとに成績を出します。
ルーブリック	☆EU論基礎2017.pdf
学習相談	授業内容その他に関してわからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員にコンタクトをとって質問して下さい。 経済分野:岩田 健治 iwata@econ.kyushu-u.ac.jp 政治分野:Mark Fenwick mark@law.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html EU-DPs科目の中でもEUそのものを扱う「入門科目」ですので、同プログラム登録者は是非受講して下さい。
更新日付	2017-03-30 20:05:13.815

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	歴史学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1131J
講義題目	大航海時代における西洋文明の自己、他者認識
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	岡崎 敦
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	

授業概要	西洋文明は、世界の一体化と近代化によって、地球上のさまざまな諸文明、文化に圧倒的な影響を及ぼしてきました。他方、その普遍性への主張に対する懐疑もまた、西欧文明のなかから生まれてきたのです。 21世紀の現在、西洋文明は、現在もなおさまざまな領域で世界秩序を基礎付けている近代文明の母胎として、また多様な諸文化の一つとして、西洋人自身のみならず、世界の多様な人々によって研究され続けています。特に、中世と呼ばれる時代は、西洋近代文明のはじまりとみなされ続けた一方で、西洋人自身にとってすら「異文化」と感じられる固有な性格も有しています。 この授業では、中世末期から大航海時代と称される時期における、西洋人の世界認識と自己認識について論じるとともに、異文化接触における相互変容について考えます。 This course provides an in-depth examination of specific aspects of the European history. The course especially touches on relevant topics on the encounters of the Western and Eastern Civilizations.
キーワード	西洋史、交流史、世界認識、他者認識、大航海時代
履修条件等	
履修に必要な 知識・能力	

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標	1.	A:知識・理解	専門分野の基礎知識に基づいて、人間と社会のあり方とそれへの多様なアプローチを理解できる。
	2.	B:専門的技能	系統立てて整理する論理的思考能力を、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へ活用できる。
	3.	C:汎用的技能	知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。
	4.	D:態度・志向性	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	序論:ガイダンス、授業の趣旨	○		
2.	第1部:大航海時代直前の西欧における世界認識	○		
3.	第2部:プレスター・ジョンとポルトガル人	○		
4.	第3部:新大陸の発見とはなにか。スペイン人と先住民	○		
5.	第4部:インディオとは何か。他者との公正な関係とは何か	○		
6.	おわりに:自己認識と他者認識という構図	○		

授業以外での学習にあたって	参考文献リストに提示した文献、資料等を参照すること。
テキスト	
参考書	参考文献リストを、授業で配布する。
授業資料	授業資料を、配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎	◎					

成績評価基準に関わる補足事項	レポート(Report) 100%
ルーブリック	
学習相談	授業の前後に対応する。
添付ファイル	
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html
更新日付	2017-04-05 17:40:13.234

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	文学･言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	スタンダール『赤と黒』を読む
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	髙木 信宏
開講学部･学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	本講義で取り上げるのは、19世紀フランスの作家スタンダールが書いた長編小説『赤と黒』です。フランス本国のみならず世界的にも古典として位置づけられている作品であり、各国語に翻訳され、読み継がれています。日本でも岩波文庫、新潮文庫、光文社古典新訳文庫から邦訳が刊行されていて、すでに数多くの読者をもっています。授業では、歴史と近代小説の関係、作者のパーソナリティと創作行為との関係、本作品に特有の執筆方法、さらにはテクストの諸テーマがもつ意味や構成上の役割について考察していきながら、『赤と黒』を味読したいと考えています。 This course provides a foundation for the close reading of french modern novel by focusing on Stendhal's "The Red and the Black". This includes analysis of basic diction, style and fiction device.
キーワード	フランス文学 近代小説 スタンダール
履修条件等	テクストにはフランス語原典ではなく邦訳を使用しますが、それでも上･下巻を合わせるとかなり頁数となります。これを読破する意欲が履修の条件です。
履修に必要な知識･能力	異文化に対する知的好奇心。他の国の歴史･社会･文化に対する理解力。文学作品に対する関心。

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標

1.	A:知識・理解	作品のもつ文学史的な意義や独創性を文学史的に位置づけられること。
2.	B:専門的技能	作品中の挿話や登場人物の心理・行動がもつ意味を、フランスの歴史・社会状況に照らして解釈できること。テーマや構成、技法について掘り下げて考察できること。
3.	C:汎用的技能	他の文学作品へと関心をひろげるとともに，現代社会に対する批評的な視点をもつこと。
4.	D:態度・志向性	協調性を重んじ，他の人の意見を尊重しつつ，持論を展開できること。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	初回オリエンテーション（授業内容の説明と作家の紹介）	○		

授業以外での学習にあたって

授業中に言及する他の作家の作品についても積極的に翻訳を読み、仏文学に関する知見を深めてください。

テキスト

テキストには『赤と黒』の邦訳を使用します。九大生協の書籍部等で文庫版の『赤と黒』（上下2巻）を入手しておいてください。

参考書

参考文献については授業中に指示します。

授業資料

適宜プリントを配布します。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	○						
	○	○	○						
	○	○	○						

成績評価基準に関わる補足事項

毎回出席調査をおこないます。

ルーブリック

ルーブリック参照

学習相談

授業後に対応します。

添付ファイル

その他

この科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）開講科目です。同プログラムについて、
詳しくは以下のサイトをご参照ください。
http://www.euij-kyushu.com/jp/home /index.html

更新日付

2017-03-21 11:11:45.761

検索結果一覧へ戻る

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	文学･言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	恋愛と読書
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	小黒 康正
開講学部･学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	2306
その他 (自由記述欄)	

授業概要	恋愛を主題とするヨーロッパの文学作品には、主人公の読書の姿をさりげなく描くものが多い。文学における新しい美の創造は、新しい「恋愛観」の提示であるばかりではなく、新しい「読書観」の検証でもある。本講義では、「愛すること」と「読むこと」との混淆という視点から、ヨーロッパ文学の名著をひもとく。具体的には『ドン・キホーテ』、『若きウェルテルの悩み』、『赤と黒』などを中心に扱い、併せて近現代日本文学の『三四郎』、『友情』、『ノルウェイの森』と比較検討する。 This lecture course focuses on selected works by Cervantes, Wieland, Goethe, Stendhal, Maupassant, Thomas Mann, Soseki Natsume, Saneatsu Mushano, Haruki Murakami in order to provide an overview of the basic perspectives and concepts of live and reading in modern European and Japanese literature.
キーワード	恋愛、読書、セルバンテス、ヴィーラント、ゲーテ、スタンダール、モーパッサン、トーマス･マン、夏目漱石、武者小路実篤、村上春樹
履修条件等	
履修に必要な 知識･能力	

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標

1.	A:知識・理解	西洋文学に対する理解を深める。
2.	B:専門的技能	文学研究の基礎を学ぶ。
3.	C:汎用的技能	自らの思索を自らの言葉で論述する技能を学ぶ。
4.	D:態度・志向性	人文学全般に対する視座を学ぶ

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	導入	○		
2.	夏目漱石『三四郎』(1908)〔新潮文庫〕	○		
3.	武者小路実篤『友情』(1919)〔新潮文庫〕	○		
4.	村上春樹『ノルウェイの森』(1987)〔講談社文庫、上・下〕	○		
5.	セルバンテス『ドン・キホーテ』(1605、1615)〔岩波文庫、正編一～三、永田寛定訳〕	○		
6.	ヴィーラント『王子ビリビンカー物語』(1764)①〔同学社、小黒康正訳〕	○		
7.	ヴィーラント『王子ビリビンカー物語』(1764)②〔同学社、小黒康正訳〕	○		
8.	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1774)①〔新潮文庫、高橋義孝訳〕	○		
9.	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1774)②〔新潮文庫、高橋義孝訳〕	○		
10.	ゲーテ『親和力』(1809)〔講談社文芸文庫、柴田翔訳〕	○		
11.	スタンダール『赤と黒』(1830)〔新潮文庫、上・下、小林正訳〕	○		
12.	モーパッサン『女の一生』(1883)〔新潮文庫、新庄嘉章訳〕	○		
13.	トーマス・マン『魔の山』(1924)①〔新潮文庫、上・下、高橋義孝訳〕	○		
14.	トーマス・マン『魔の山』(1924)②〔新潮文庫、上・下、高橋義孝訳〕	○		
15.	まとめ	○		

授業以外での学習にあたって

テキスト

①夏目漱石『三四郎』〔新潮文庫〕、②ヴィーラント『王子ビリビンカー物語』〔同学社、小黒康正訳〕、③ゲーテ『若きウェルテルの悩み』〔新潮文庫、高橋義孝訳〕は、必ず購入してください。他の作品に関しましては、各自の判断に任せます。

参考書

小黒康正『水の女 トポスへの船路』、九州大学出版会、2012年。

授業資料

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	○			○					
	◎	◎							

成績評価基準に関わる補足事項

本授業の終了後、ならびにオフィスアワー(火曜3限)にて相談に応じる。

ルーブリック

ルーブリック参照

学習相談	本授業の終了後、ならびにオフィスアワー（火曜3限）にて相談に応じる。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-02 21:53:10.427

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	東口 豊
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。 **** 他の「藝術学入門」では視覚芸術、主に美術作品をテーマにしたものばかりなので、本講義ではそれらを補完し、藝術学という学問の総合的理解を促すために、美学思想、音楽、写真を題材に講義する。 In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word “art” tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one’s heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.
キーワード	美学、音楽、写真、映画
履修条件等	特になし。ただし、初回時受講者多数の場合、受講制限を行う可能性がある。

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	哲学史、音楽理論、写真史等に関する初歩的知識と関心がないと、講義の内容を理解し単位を修得する事は困難である。

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	美学や様々なジャンルの藝術に関する知識や理解を得る。
2.	B:批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。
3.	C:主体的学習	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。
4.	D:幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	初回オリエンテーション 以下、2～4について各4回程度講義を行う。	○		
2.	藝術や美的経験を扱う哲学的学科である「美学」を概観する。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成
3.	音楽作品の成り立ちや、その文化的・社会的意義を問う。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成
4.	写真の藝術的側面、現実との関係や日常への影響を考える。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成
5.	まとめ			

授業以外での学習にあたって	
テキスト	講義中に適宜配布する。
参考書	講義中に適宜配布する。
授業資料	適宜配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	◎	◎					60%
	○		○						20%
課題提出		○		○					20%

成績評価基準に関わる補足事項	出席が2/3を下回る場合や、課題を全て提出しなかった者は、期末レポートを提出し、単位修得する権利を失うので注意してください。
ルーブリック	

学習相談	要予約
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-10 08:24:29.388

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	西洋初期近代／北方絵画史
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	青野 純子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2303
その他 (自由記述欄)	

授業概要	「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。 ＊＊＊＊＊ 「初期近代北方ヨーロッパ絵画を中心とした芸術学入門」 絵画をどのように見て、いかに理解するのか。美術史研究の基礎である絵画の見方を「授業計画」であげたテーマに沿って学んでいく。授業中に取り上げる対象は初期近代(17世紀まで)のオランダ、ベルギー地方のヨーロッパ絵画を中心とする。年代ごとに作家・作品を扱うのではなく、絵画作品を目の前にしたときに立ち上がってくる諸々の問題をどうとらえ、分析・議論していくのか、そうした絵画との対話を出発点に考察を深めていく。 In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world. ****** Introduction to Art Studies, with a special focus on Netherlandish panting of the early modern period. This course equips students with the fundamental skills and perspectives to understand Northern European art of the early modern period. Students learn how to look at and critically approach works of art in the cultural and social context in which they were created, viewed and evaluated. The course is designed to provide students with broad, humanistic knowledge and an analytic way of thinking, which serves a perfect preparation for advanced studies in a wide range of disciplines.

PAGE TOP

キーワード	西洋美術史、絵画史、美術史方法論、オランダ絵画
履修条件等	特になし。ただ、趣味としての美術鑑賞ではなく、学問としての美術史を学ぶことを目的とするので、作品を批判的・総合的に理解し、自分なりの絵画の見方を積極的に模索したいという意欲のある学生を求める（下記「成績評価基準に関する補足事項」も必ず参照のこと）。ただし、受講希望者が教員が決める定員をこえる際には、その都度検討した上で、受講制限をすることになるので要注意。また、必ずパソコンを持参のこと。
履修に必要な知識・能力	美術史に関する知識は問わないが、芸術に関心があり、絵画を見るのが好きだという態度が必須。

到達目標

No	観点	詳細
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。
2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	初回：オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○		
2.	①絵画の様式とは何か（作品記述、様式分析、構図分析、遠近法）	○	小テストあり	
3.	②絵画の意味解釈とは何か（イコノロジーとその限界）	○	小テストあり	
4.	③絵画が本物であること（authenticity）とは何か（1）：複製、真贋、鑑識眼（connoisseurship）の問題	○	小テストあり	
5.	④絵画が本物であること（authenticity）とは何か（2）：「物」としての絵画ー絵画の素材に関する科学的調査ー	○	小テストあり	
6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり	
7.	●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。		美術館訪問	各自で美術館見学、後日レポートを提出

授業以外での学習にあたって	次の授業の準備として課題を出すこともあるので、その場合には予習してから授業にのぞむこと。 中間テストは事前にテスト範囲を提示するので当日までに準備をし、また、レポートでは、課題にそった内容を各自準備し、期限までに提出のこと。提出期限をすぎたものは受領いたしません。 また、本授業では、「授業計画」にあるように、（教員の引率ではなく）各自、美術館・展覧会訪問を行ってもらうため、「学外（教室外）」活動を含む授業であります。
テキスト	授業中に適宜指示・配布する。（下記の「参考書」も参照のこと）
参考書	授業中に適宜指示する。e-portfolio system上に参考文献表をアップロードしてありますので、各自参照のこと。また伊都中央図書館の「課題文献コーナー」の「芸術学入門」（青野）のコーナーに参考文献の一部を常時置いてありますので、参照のこと。

授業資料	適宜配布するが、基本的には授業中に各自ノートを取ること。 授業内で用いた画像、資料などはコピーライトの関係で授業時間外には閲覧できないため、注意すること。(授業中に用いたパワーポイントは基本的にダウンロードなどはできません)。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)
	◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど
	◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)
		○	○	○					小テストと合わせておよそ10-20ほど
中間テスト									およそ30

成績評価基準に関わる補足事項	芸術学入門は「絵を見てなんとなく感想を言う」ような授業ではなく、積極的に学問としての美術史とその方法論を学ぶことを求めます。成績評価はその主体的学修と批判的考察を重視いたします。授業内小テスト、中間テスト、美術館レポートを課し、期末にはレポート課題または教場試験を課します。 注意1:)中間テストおよび美術館レポートを課しますが、それを提出した学生にのみ、期末レポートの提出資格または期末試験の受験資格を与えます。 注意2:)「不正行為(カンニング、出欠に関する不正、レポートにおける典拠の不明確な「切り貼り」行為と剽窃、等)」は一度であっても単位習得を妨げる行為です。『基幹教育 履修要項』11頁の「不正受験行為・指示違反等について」を参照のこと。
ルーブリック	芸術学入門Aonoルーブリック.pdf
学習相談	事前に予約のうえ随時行う。連絡先は授業中に指示。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-31 13:41:51.549

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	西洋初期近代／北方絵画史
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 木曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	青野 純子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2304
その他 (自由記述欄)	

授業概要	「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。 ＊＊＊＊＊ 「初期近代北方ヨーロッパ絵画を中心とした芸術学入門」 絵画をどのように見て、いかに理解するのか。美術史研究の基礎である絵画の見方を「授業計画」であげたテーマに沿って学んでいく。授業中に取り上げる対象は初期近代(17世紀まで)のオランダ、ベルギー地方のヨーロッパ絵画を中心とする。年代ごとに作家・作品を扱うのではなく、絵画作品を目の前にしたときに立ち上がってくる諸々の問題をどうとらえ、分析・議論していくのか、そうした絵画との対話を出発点に考察を深めていく。 In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their

PAGE TOP

meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.

******

Introduction to Art Studies, with a special focus on Netherlandish panting of the early modern period.

This course equips students with the fundamental skills and perspectives to understand Northern European art of the early modern period. Students learn how to look at and critically approach works of art in the cultural and social context in which they were created, viewed and evaluated. The course is designed to provide students with broad, humanistic knowledge and an analytic way of thinking, which serves a perfect preparation for advanced studies in a wide range of disciplines.

キーワード	西洋美術史、絵画史、美術史方法論、オランダ絵画
履修条件等	特になし。ただ、趣味としての美術鑑賞ではなく、学問としての美術史を学ぶことを目的とするので、作品を批判的・総合的に理解し、自分なりの絵画の見方を積極的に模索したいという意欲のある学生を求める（下記「成績評価基準に関する補足事項」も必ず参照のこと）。ただし、受講希望者が教員が決める定員をこえる際には、その都度検討した上で、受講制限をすることになるので要注意。また、必ずパソコンを持参のこと。
履修に必要な知識・能力	美術史に関する知識は問わないが、芸術に関心があり、絵画を見るのが好きだという態度が必須。

到達目標

No	観点	詳細
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。
2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	初回：オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○		
2.	①絵画の様式とは何か（作品記述、様式分析、構図分析、遠近法）	○	小テストあり	
3.	②絵画の意味解釈とは何か（イコノロジーとその限界）	○	小テストあり	
4.	③絵画が本物であること（authenticity）とは何か（1）：複製、真贋、鑑識眼（connoisseurship）の問題	○	小テストあり	
5.	④絵画が本物であること（authenticity）とは何か（2）：「物」としての絵画ー絵画の素材に関する科学的調査ー	○	小テストあり	
6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり	
	●美術館・展覧会見学		美	

2017/10/18更新

7.	絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。	術館訪問	各自で美術館見学、後日レポートを提出

授業以外での学習にあたって

次の授業の準備として課題を出すこともあるので、その場合には予習してから授業にのぞむこと。

中間テストは事前にテスト範囲を提示するので当日までに準備をし、また、レポートでは、課題にそった内容を各自準備し、期限までに提出のこと。提出期限をすぎたものは受領いたしません。

また、本授業では、「授業計画」にあるように、(教員の引率ではなく)各自、美術館・展覧会訪問を行ってもらうため、「学外(教室外)」活動を含む授業であります。

テキスト

授業中に適宜指示・配布する。(下記の「参考書」も参照のこと)

参考書

授業中に適宜指示する。e-portfolio system上に参考文献表をアップロードしてありますので、各自参照のこと。また伊都中央図書館の「課題文献コーナー」の「芸術学入門」(青野)のコーナーに参考文献の一部を常時置いてありますので、参照のこと。

授業資料

適宜配布するが、基本的には授業中に各自ノートを取ること。

授業内で用いた画像、資料などはコピーライトの関係で授業時間外には閲覧できないため、注意すること。(授業中に用いたパワーポイントは基本的にダウンロードなどはできません)。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)
	◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど
	◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)
		○	○	○					小テストと合わせておよそ10-20ほど
中間テスト									およそ30

成績評価基準に関わる補足事項

芸術学入門は「絵を見てなんとなく感想を言う」ような授業ではなく、積極的に学問としての美術史とその方法論を学ぶことを求めます。成績評価はその主体的学修と批判的考察を重視いたします。授業内小テスト、中間テスト、美術館レポートを課し、期末にはレポート課題または教場試験を課します。

注意1:)中間テストおよび美術館レポートを課しますが、それを提出した学生にのみ、期末レポートの提出資格または期末試験の受験資格を与えます。

注意2:)「不正行為(カンニング、出欠に関する不正、レポートにおける典拠の不明確な「切り貼り」行為と剽窃、等)」は一度であっても単位習得を妨げる行為です。『基幹教育 履修要項』11頁の「不正受験行為・指示違反等について」を参照のこと。

2017/10/18更新

ルーブリック	芸術学入門Aonoルーブリック.pdf
学習相談	事前に予約のうえ随時行う。連絡先は授業中に指示。
添付ファイル	
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）開講科目です。同プログラムについて、 詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html
更新日付	2017-09-29 15:13:08.008

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	米村 典子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2304
その他 (自由記述欄)	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です．同プログラムについて，詳しくは以下のサイトを参照してください． http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html」

授業概要	「芸術学入門」は，古今東西さまざまな時代と地域に生まれ，育まれた芸術を対象に，九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ，その鑑賞と理解，学問の対象としての意義について講義する．芸術というとどこか趣味的な世界を連想しがちであるが，人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を，人がどのように生み出し，また享受してきたのかについて，深いところで考察していく．芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり，優れた芸術に心を動かし，その意味を深く考えていくことは，さまざまな時代と地域の価値観を理解し，多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる． ＊＊＊＊＊ この授業では，西洋の芸術作品を主たる対象として講義を進めるが，特定の時代や芸術家や作品について論じるのではない．教室では，世界各地に散らばった様々の時代の芸術作品が次々とほぼ同じ大きさで映写される．また，本や雑誌などでは印刷された画像が，コンピュータ上ではデジタルな画像が，作品として示される．そのために，われわれは絵画や彫刻が「モノ」であることを忘れがちである．「誰が描いたのか」，「何が描かれているのか」ではなく，「絵画とは何か」，「彫刻とは何か」を物質的な成り立ちや作品を取り巻く環境などから考察していくことで，芸術に関する理解を深めることを目指す． In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word “art” tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one’s heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.

PAGE TOP

キーワード	絵画，彫刻，写真，美術館
履修条件等	特別な条件はないが，できるだけ多くの視覚芸術作品に接するよう心がけること.
履修に必要な知識・能力	西洋美術についての知識は特に必要とはしない. しかし，視覚芸術に関心があることは必須条件である. この授業はEU研究ディプロマプログラムの科目でもあり，西洋とくにEUに関心がある人に適している.

到達目標

No	観点	詳細
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.
2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す.
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する ＊以下の授業計画は変更の可能性がある.	○		
2.	モノとしての絵画（1）：支持体，絵の具，顔料，メディウム	○		
3.	モノとしての絵画（2）：タブロー，テクノロジーの発展と芸術	○		
4.	モノとしての彫刻：塑像，鋳造，ロダン，ブランクーシ	○		
5.	オリジナルと複製：銅版画，石版画，シルクスクリーン	○		
6.	美術館見学（1）：見学とレポート提出にむけて，展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.	○		
7.	美術館見学（2）：授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.			
8.	カメラと写真：カメラ・オブスクーラ，写真の発明，ダゲレオタイプ，タルボット	○		
9.	写真と絵画：ドガ，マイブリッジ，ピクトリアリズム，ストレートフォト	○		
10.	「開いた窓」としての絵画：フレーム，遠近法	○		
11.	フレームと絵画：額縁，印象派	○		
12.	モノとなる彫刻：台座をおりる彫刻，ピカソ，ウォーホル ＊小テスト課題と実施要領を発表する.	○		
13.	モノとなる絵画：外れる額縁，キュビスム，コラージュ，抽象絵画	○		
14.	小テスト：12回目の授業で発表した課題について，小テストを実施する.	○		
15.	授業のまとめ，小テストの解説・コメントなど	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	なし.
参考書	授業中に配布するプリントで紹介する.
授業資料	毎回プリントを配布する.

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・

成績評価										割合）
		◎	◎	◎	◎					40%
		◎	◎	◎	◎					30%
		◎	◎	◎	◎					20%
										10%

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	芸術学入門のルーブリック.pdf
学習相談	適宜応じる.（要予約）
添付ファイル	
その他	教室の収容人数を超えた場合，受講制限を行う可能性がある.
更新日付	2017-03-24 00:25:15.248

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	知識の理論
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	新島 龍美
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	(共通部分)この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行なう講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。 (本授業の進め方)「知る」とは何か。この問いをめぐって、出来るだけ基礎的な考察を試みる。 取り扱われる可能性のある主題は、懐疑主義、信念、真理、正当化、合理性、ゲティア問題、条件説、基礎づけ主義、斉合説、内在主義と外在主義、知識の諸形態(知覚、記憶、帰納)など。 This lecture considers the basic question of 'What is knowledge?'. Possible topics may include scepticism, belief, truth, justification, Gettier-problem, foundationalism, etc.
キーワード	知識、知る・知っている、プラトン、ゲティア
履修条件等	1. 履修者は、上記の主題について、自分で思考する積極的な姿勢が求められる。 2.(公用掲示板の掲示にもあるように)この授業シラバスをプリント・アウトしたものを、第一回目の授業に出席の際、必ず持参すること(履修の必須条件。印刷については、下記「その他」の項目を参照)。 3.「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」へログインし、当該科目へ「自己登録」すること。詳細は、下記「その他」の項目を参照。 4. 授業中にインターネットを利用することがあるので、各自持参したパソコンが教室内から無線LANを通じてインターネットに接続できる設定になっていることを確認しておくこと。 5. 遅刻・早退・私語は認めない。

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	配布資料に基づき、講義形式で進める。重要事項や注意事項等は、受講者が自らの判断で積極的に書き留めること。 第一回目にレポートを作成してもらうので、受講希望者は必ず出席のこと。

到達目標

No	観点	詳細
1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。
2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	ガイダンスとレポート作成: ＜レポート作成＞以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)～(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のものを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)～(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)～(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。
2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。	
3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○		
4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○		
5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○		
6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○		
7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○		
8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○		
9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	教科書は使用せず、随時資料を配付する。配付資料は毎回忘れずに持参すること。(配付資料は再配布しない。)
参考書	講義の中でも適宜指示するが、先ずは、次のものを挙げておく(いずれも図書館で見ることが出来る)。 戸田山 和久『知識の理論』、産業図書、2002年 黒田 亘『経験と言語』、東京大学出版会、1975年 黒田 亘『知識と行為』、東京大学出版会、1983年 R. M. チザム『知識の理論』、上枝美典訳、世界思想社、2003年 配布資料等に記載の参考資料の殆どは、図書館で読むことが出来る。受講者は図書館を大いに利用して、自ら積極的に学習を進めることが期待される。
授業資料	

成績評価	<table><tr><th>評価方法・観点</th><th>観点No.1</th><th>観点No.2</th><th>観点No.3</th><th>観点No.4</th><th>観点No.5</th><th>観点No.6</th><th>観点No.7</th><th>観点No.8</th><th>備考(欠格条件・割合)</th></tr><tr><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>55</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>15</td></tr></table>
成績評価基準に関わる補足事項	1. 成績評価は、出席点、第一回目の授業中に作成するレポート、及び、授業時間中に数回行われる論述試験によって行われる。 2. 論述試験では、講義中に提示された内容に関する基本的な理解と、それに基づいた応用的思考力を評価の対象とする。 3. 病欠(要略式診断書)そのほか正当な理由のない場合、上記の方法以外の追試験(eg. レポート提出)等は行わない。
ルーブリック	
学習相談	講義内容に関する質問は、講義時間中もしくは講義時間終了後に対応する。
添付ファイル	
その他	このシラバスの印刷を伊都キャンパス内で行いたい場合は、シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、そのファイルを学内設置のプリンタ付きパソコンまで持参して印刷することになります。プリンタ付きパソコンの配置場所は、センター1号館1階東側のSALC(旧情報学習室)、センター2号館4階の嚶鳴天空広場(Q-Commons)、伊都図書館2階などです(有料)。(これらのプリンタでは、ネットワーク等からインターネット上の画面を直接印刷は出来ません。シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、プリンタまで持参して下さい。) ＜自己登録方法＞九州大学のHPから「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」にログインします。1.「コースを検索する」からコースを見つけ、クリックします。2. 登録オプションが表示されるので、授業名を確認し、「私を受講登録する」をクリックします。 本科目は、EU研究ディプロマ・プログラム(EU-DPs)の入門科目です。本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。同プログラムについて、詳しくはEUIJ-KyushuのWebページ(http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html)内の「教育プログラム」をご参照ください。 なお、この「哲学・思想入門」は、本年度はこの授業を含め、複数の担当教員によって開講されます。講義題目と授業内容(アプローチの方法)は各担当教員の専門分野に沿ってそれぞれ異なっています。どの担当教員の授業を履修するかは、個々によく考えて選択してください。
更新日付	2017-03-17 17:30:26.727

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	知識の理論
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	新島 龍美
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	(共通部分)この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行なう講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。 (本授業の進め方)「知る」とは何か。この問いをめぐって、出来るだけ基礎的な考察を試みる。 取り扱われる可能性のある主題は、懐疑主義、信念、真理、正当化、合理性、ゲティア問題、条件説、基礎づけ主義、斉合説、内在主義と外在主義、知識の諸形態(知覚、記憶、帰納)など。 This lecture considers the basic question of 'What is knowledge?'. Possible topics may include scepticism, belief, truth, justification, Gettier-problem, foundationalism, etc.
キーワード	知識、知る・知っている、プラトン、ゲティア
履修条件等	1. 履修者は、上記の主題について、自分で思考する積極的な姿勢が求められる。 2.(公用掲示板の掲示にもあるように)この授業シラバスをプリント・アウトしたものを、第一回目の授業に出席の際、必ず持参すること(履修の必須条件。印刷については、下記「その他」の項目を参照)。 3.「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」へログインし、当該科目へ「自己登録」すること。詳細は、下記「その他」の項目を参照。 4. 授業中にインターネットを利用することがあるので、各自持参したパソコンが教室内から無線LANを通じてインターネットに接続できる設定になっていることを確認しておくこと。 5. 遅刻・早退・私語は認めない。

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	配布資料に基づき、講義形式で進める。重要事項や注意事項等は、受講者が自らの判断で積極的に書き留めること。 第一回目にレポートを作成してもらうので、受講希望者は必ず出席のこと。

到達目標

No	観点	詳細
1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。
2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	ガイダンスとレポート作成: ＜レポート作成＞以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているもの・ことを10個挙げなさい((1)～(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のものを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)～(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)～(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。
2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。	
3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○		
4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○		
5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○		
6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○		
7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○		
8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○		
9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	教科書は使用せず、随時資料を配付する。配付資料は毎回忘れずに持参すること。(配付資料は再配布しない。)
参考書	講義の中でも適宜指示するが、先ずは、次のものを挙げておく(いずれも図書館で見ることが出来る)。 戸田山 和久『知識の理論』、産業図書、2002年 黒田 亘『経験と言語』、東京大学出版会、1975年 黒田 亘『知識と行為』、東京大学出版会、1983年 R. M. チザム『知識の理論』、上枝美典訳、世界思想社、2003年 配布資料等に記載の参考資料の殆どは、図書館で読むことが出来る。受講者は図書館を大いに利用して、自ら積極的に学習を進めることが期待される。
授業資料	

成績評価	<table><tr><th>評価方法・観点</th><th>観点No.1</th><th>観点No.2</th><th>観点No.3</th><th>観点No.4</th><th>観点No.5</th><th>観点No.6</th><th>観点No.7</th><th>観点No.8</th><th>備考(欠格条件・割合)</th></tr><tr><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>55</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>15</td></tr></table>
成績評価基準に関わる補足事項	1. 成績評価は、出席点、第一回目の授業中に作成するレポート、及び、授業時間中に数回行われる論述試験によって行われる。 2. 論述試験では、講義中に提示された内容に関する基本的な理解と、それに基づいた応用的思考力を評価の対象とする。 3. 病欠(要略式診断書)そのほか正当な理由のない場合、上記の方法以外の追試験(eg. レポート提出)等は行わない。
ルーブリック	
学習相談	講義内容に関する質問は、講義時間中もしくは講義時間終了後に対応する。
添付ファイル	
その他	このシラバスの印刷を伊都キャンパス内で行いたい場合は、シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、そのファイルを学内設置のプリンタ付きパソコンまで持参して印刷することになります。プリンタ付きパソコンの配置場所は、センター1号館1階東側のSALC(旧情報学習室)、センター2号館4階の嚶鳴天空広場(Q-Commons)、伊都図書館2階などです(有料)。(これらのプリンタでは、ネットワーク等からインターネット上の画面を直接印刷は出来ません。シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、プリンタまで持参して下さい。) ＜自己登録方法＞九州大学のHPから「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」にログインします。1.「コースを検索する」からコースを見つけ、クリックします。2. 登録オプションが表示されるので、授業名を確認し、「私を受講登録する」をクリックします。 本科目は、EU研究ディプロマ・プログラム(EU-DPs)の入門科目です。本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。同プログラムについて、詳しくはEUIJ-KyushuのWebページ(http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html)内の「教育プログラム」をご参照ください。 なお、この「哲学・思想入門」は、本年度はこの授業を含め、複数の担当教員によって開講されます。講義題目と授業内容(アプローチの方法)は各担当教員の専門分野に沿ってそれぞれ異なっています。どの担当教員の授業を履修するかは、個々によく考えて選択してください。
更新日付	2017-03-17 17:36:24.11

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	経済史入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1521J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2407
その他 (自由記述欄)	

授業概要	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。 経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とを通じて、我々が現在抱える様々な問題を、経済の歴史的歩みを辿ることによって考察する。経済学部の専攻科目【経済史】を担当する各教員が、九州大学に入学してきた一年生諸君に、様々な個別経済現象との「歴史的対話」を通じて、我々が今どのような人類史の地平に立っているのか、考える契機を提供することがこの授業の主目的である。 In the 21st century, new difficulties came to face us, such as the gap between the North and the South in the World, that between rich and poor even within a developed country, and worldwide environmental problems, etc., but it is not easy to find the reason and to arrive at the solution of them. The main purpose of this course is to offer you some opportunities, by lecture on the European Economic History and/or on the Japanese Economic History, to be able to understand how the present problems arose in the course of human history, and to consider by yourself on what historical stage we are standing.
キーワード	西洋経済史、世界経済史、グローバル・ヒストリー
履修条件等	特になし。
履修に必要な	高等学校までの「世界史」に関する基礎知識があると理解が容易となる講義である。また、社会・経済的事象の原

PAGE TOP

知識・能力	因と結果に関する関係を読みほどく能力や、自ら考えたことを、正確な文章にする能力が求められる。

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	経済史の史実を理解し、歴史的現象の相互関連を必要な用語を用いて説明できる。
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	人間の経済的歴史を史実に基づいて的確に説明でき、自己の見解を明瞭に述べることができる。
4.	D:態度・志向性	経済の史的現象を深く洞察することによって、現代的問題関心を深めることができる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	導入部(第1回) ＊オリエンテーション 授業の進め方、資料入手の方法などの説明 ＊キックオフレクチャー 「経済史」とは何か、の説明	○		
2.	第Ⅰ部(第2回～第3回) 古代の世界経済 ～経済的営みと成長の開始～	○		
3.	第Ⅰ部(第2回～第3回) 古代の世界経済 ～経済的営みと成長の開始～	○		
4.	第Ⅱ部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
5.	第Ⅱ部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
6.	第Ⅱ部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
7.	第Ⅱ部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
8.	第8回 中間小テスト 30分程度の小テストを行う	○		
9.	第Ⅲ部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
10.	第Ⅲ部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
11.	第Ⅲ部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
12.	第Ⅲ部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
13.	第Ⅳ部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
14.	第Ⅳ部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
15.	第Ⅳ部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		

授業以外での学習にあたって	事前にパワーポイントによるスライド資料を配信するので、予習と復習を十分にすることができる。
テキスト	特に定めない。パワーポイントを中心とした講義とする。
	(1)明石和康『ヨーロッパがわかる－起源から統合への道のり－』(岩波ジュニア新書)・・・平易な入門書。(2)奥

参考書	西孝至・鳩澤歩(他)『西洋経済史』(有斐閣アルマ)・・・西洋経済史の基礎的テキスト。(3)金井雄一・中西聡(他)『世界経済の歴史ーグローバル経済史入門ー』(名古屋大学出版会)・・・上級向けテキスト
授業資料	パワーポイント資料を事前に配信。下記のURLから各自ダウンロードすること。ただし、詳細は初回授業中に説明する。特に初回はPCを持参すること。 http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm
成績評価	

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎		◎	◎					
	○		○	○					

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	後期2017(H29)年度経済史入門ルーブリック.pdf
学習相談	随時受付。事前にメールで予約のこと。fujii@econ.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	授業中は事前の配信資料以外にノート筆記を義務付けるので、受講に当たってはノート筆記の準備を常にしておくこと。なお、本講義は経済学部生にとっての「推奨科目」のため、受講希望者が教室の収容数を超える場合、他学部生に対して受講制限を設ける場合がある。この科目は『学部EU研究ディプロマプログラム(学部EUーDPs)』科目としても開講するものである。 【EU-DPs 科目分類】 (B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。
更新日付	2017-03-07 17:25:52.526

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	大学とは何か
科目ナンバリングコード	KED-GES1114J
講義題目	ー大学の歴史を中心にー
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	吉岡 斉 折田 悦郎 藤岡 健太郎 山野 善郎
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	現在、東京大学・京都大学等の旧帝国大学系の大学や、早稲田大学・慶應大学・同志社大学といった伝統的私立大学では、いわゆる「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されています。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、約17 年の歴史を持っています。法人化を迎えた国立大学は、常に自らの歴史を振り返り、有るべき姿を模索し続ける必要があります。当科目はこのような視点に立ち、九州大学の歴史と大学を巡るいくつかの問題について考えます。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まりましたが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、更に、明治初期の福岡医学校まで遡ります。百四十年を越える伝統ある大学です。わが国の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考えます。 Nowadays, in Japan's former Imperial Universities as well as in those amongst its private universities which have a long and distinguished tradition, as part of academic education regular lectures on what is called 'The history of one's own educational institution' are given. Within the ranks of this country's National Universities, Kyūshū University was the very first to introduce this subject of education, that allows students to learn about the history of their Alma mater, aims to promote their understanding of it, in 1997. A university must always reflect on its own history, needs to continuously explore how to become what it ought to be. With such a perspective in mind, in this class we, all together, will discuss different kinds of problems and issues related to Kyūshū University and its history.
キーワード	高等教育制度 九州大学史
履修条件等	

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	

到達目標

No	観点	詳細
1.	A：知識・理解	
2.	B：専門的技能	
3.	C：汎用的技能	
4.	D：態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	4月12日 はじめに(オリエンテーション)・高等教育制度史概説Ⅰ(日本の高等教育) 折田悦郎大学文書館教授	○		
2.	4月19 日 大学の歴史 吉岡斉比較社会文化研究院教授	○		
3.	4月26 日 世界と日本の大学 吉岡斉比較社会文化研究院教授	○		
4.	5月10 日 高等教育制度史概説Ⅱ(日本の高等教育) 折田悦郎大学文書館教授	○		
5.	5月17 日 大学生とはなにか(1)―「学徒出陣」と「大学紛争」から考えてみる― 藤岡健太郎大学文書館准教授	○		
6.	5月24日 大学とキャンパス空間 山野善郎氏(建築史塾Archist・非常勤講師)	○		
7.	5月31日 大学生とはなにか(2)―「大衆化」し「下流化」している大学の中から考えてみる― 藤岡健太郎大学文書館准教授	○		
8.	6月7日 高等教育制度史概説Ⅲ(九州帝国大学) 折田悦郎大学文書館教授	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	教科書として新谷恭明・折田悦郎編『大学とはなにか―九州大学に学ぶ人々へ―』(海鳥社)を使用します。 また、講義では資料を配付することもあります。
参考書	
授業資料	
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-30 09:17:21.418

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	映画の世界
科目ナンバリングコード	KED-GES1221J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限 春学期 水曜日 5時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	鈴木 右文
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2306
その他 (自由記述欄)	

授業概要	映画を単なる娯楽としてではなく、歴史や異文化を学ぶ手段として分析的に鑑賞する態度を養います。今回はヨーロッパ、朝鮮半島、米国の作品を扱います。 We will learn how to appreciate films in an analytic manner not as entertainment but as a means to understand history and other culture.
キーワード	映画 アジア 歴史 異文化
履修条件等	＊この授業は5月に授業が実施されるため、4月の授業期間第1週に教室で受講許可の有無を決定することができません。受講希望の方は、ウェブの履修登録システム上で4月14日(金)までに登録を行った後、4月16日(日)24時までに授業オーガナイザー鈴木右文(yubun@flc.kyushu-u.ac.jp)に学生基本メールで、件名を「映画の世界受講申込」として、「氏名」「学部・学科・学年」「学生番号」とともに、登録を行った旨をお送り下さい。履修登録かメール連絡のいずれかが間に合わなかった方は単位認定できません。 ＊授業は5/17, 5/24. 5/31, 6/7の4, 5限連続4回になります。全回出席を強く要請します。 ＊第1回目を含めて4回とも冒頭から上映がありますので、遅刻は厳禁、途中での出入りはマナー違反です。
履修に必要な 知識・能力	

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標	1.	A：知識・理解	映画を分析的に理解できるようになる。
	2.	B：専門的技能	映画が描く歴史や異文化が理解できるようになる。
	3.	C：汎用的技能	作品について評論を書くことができるようになる。
	4.	D：態度・志向性	映画を芸術として鑑賞することができるようになる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1日（5・17） ビフォア・ザ・レイン 上映と講義	○		
2.	第2日（5・24） 安重根、伊藤博文を撃つ 上映と講義	○		
3.	第3日（5．31） 風の輝く朝に/等待黎明 上映と講義	○		
4.	第4日（6・07） マジソン郡の橋 上映と講義	○		

授業以外での学習にあたって	レポートを書くための調査や関連作品の鑑賞
テキスト	定めない
参考書	
授業資料	適宜プリントを配布
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	レポートと出欠状況が極めて重要。
ルーブリック	
学習相談	授業後に教室にて。鈴木は適宜アポをとっていただいた上で研究室での面談も可。
添付ファイル	
その他	＊最終回は、授業評価アンケートに対応できる端末を持参して下さい。 ＊遅刻せずにおいで下さい。 ＊上映を妨げるので授業開始時刻以降の授業中の入退室は原則として禁止。トイレも事前に済ませて下さい。 ＊携帯はマナーモード等にして使用はしないでください。携帯画面の光も上映の妨げになります。 ＊16：20－40は休憩の予定ですが、上映の都合で若干時間帯をずらしたり、短縮させていただくことがあります。 ＊急遽の休講の場合は、掲示にて対応の連絡を行います。 この科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）開講科目です。同プログラムについて、 詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html ＊履修要項にある理由で教務係に正規手続するか公認部活動の正式の大会の遠征証明書が出る場合のみ公欠扱いにします。診断書や交通機関の遅延証明等は受け取りますが、扱いは最終成績判定時に決します。 ＊メールのやりとりは学生基本メールでお願いします。
更新日付	2017-04-04 21:52:54.403

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	女性学･男性学 I
科目ナンバリングコード	KED-GES1116J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	阿尾 安泰 瀬口 典子 武内 真美子 谷口 秀子 中村 美亜 山下 亜紀子 野々村 淑子
開講学部･学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	「女性学･男性学Ⅱ」との連続受講が望ましい。 【複数担当教員】田中友佳子、坂岡庸子、阿尾安泰、石岡学、青野純子

PAGE TOP

授業概要	本講義は，両性がよりよく共生しうる社会を担うために，既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。 The aim of this course to help students know the various problems and phenomenon in the present ‘gender equal society’, and acquire the ability of critical thinking about them. The lecturers of this class speak important themes from the perspectives and methods of each disciplines, including the many assumptions of ‘gender’ embedded in the society and academic disciplines.
キーワード	女性、男性、性差、ジェンダー、セクシュアリティ
履修条件等	
履修に必要な 知識･能力	授業概要に記載された内容、授業各回のテーマについて、講義をもとに深く考察し、それを表現する意欲を持っていること。

到達目標	<table><tr><th>No</th><th>観点</th><th>詳細</th></tr><tr><td>1.</td><td>A:知識・理解</td><td>生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。</td></tr><tr><td>2.</td><td>B:専門的技能</td><td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独創的知見を述べることができる。</td></tr><tr><td>3.</td><td>C:汎用的技能</td><td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べることができる。</td></tr><tr><td>4.</td><td>D:態度・志向性</td><td>労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。</td></tr></table>
授業計画	<table><tr><th>No</th><th>進度・内容・行動目標</th><th>講義</th><th>演習・その他</th><th>授業時間外学習</th></tr><tr><td>1.</td><td>4/12 田中友佳子／野々村淑子「オリエンテーション」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.</td><td>4/19 田中友佳子「家族社会史1—＜母＞の誕生」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.</td><td>4/26 田中友佳子「家族社会史2—戦時体制下の生/性/政」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4.</td><td>5/10 坂岡庸子「命と性を社会とリンクさせるイエ制度」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>5.</td><td>5/17 阿尾安泰「メデイアにおける女性という表象」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>6.</td><td>5/24 阿尾安泰「歴史における女性という表象」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>7.</td><td>5/31 石岡学「虚構としての男らしさ」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>8.</td><td>6/7 青野純子「美術史とジェンダー」</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>
授業以外での学習にあたって	講義内で紹介された文献等を積極的に読みましょう。
テキスト	適宜配布する。
参考書	適宜紹介する。
授業資料	適宜配付する。
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	●評価について 1. 出席点 毎回出席カードにて出席をとります。 2. レポート 《課題》 第1回から第8回までの5人の教員が、それぞれ1つずつのレポート課題を講義中に提示します。 《形式》 出席カードとは別に配布するB5版OCR用紙に、レポートを記入する。 手書きでも、指定用紙へのワープロ印刷、またはワープロで印刷し、指定用紙へのホチキスどめ、いずれも可。 分量は、手書きであれば指定用紙表裏に常識的な字のサイズで記入。800字～1000字程度を基準とする。 指定用紙への氏名、学籍番号の記入、マーク記入は必須。 《提出要領・締切》 それぞれの教員の講義の最終に課題を出すので、次週の水曜日14時までに提出すること。 1回のみ担当する教員の講義を欠席した場合、講義を聞かずにレポート課題は書くことはできないので、レポートは受理しない。 《提出先》 基幹教育教務係のレポート・ボックス 4. 評価方法 出席点とレポートの評価点を勘案し、総合的に評価します。
ルーブリック	女性学・男性学講義ルーブリック.pdf

学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-10 11:29:47.204

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	女性学･男性学Ⅱ
科目ナンバリングコード	KED-GES1117J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	夏学期
曜日時限	夏学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	阿尾 安泰 瀬口 典子 武内 真美子 谷口 秀子 中村 美亜 山下 亜紀子 野々村 淑子
開講学部･学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	「女性学･男性学Ⅰ」との連続受講が望ましい。 【複数担当教員】野依智子、山下亜紀子、谷口秀子、瀬口典子、中村美亜、野々村淑子

PAGE TOP

授業概要	本講義は，両性がよりよく共生しうる社会を担うために，既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。 The aim of this course to help students know the various problems and phenomenon in the present ‘gender equal society’, and acquire the ability of critical thinking about them. The lecturers of this class speak important themes from the perspectives and methods of each disciplines, including the many assumptions of ‘gender’ embedded in the society and academic disciplines.
キーワード	女性、男性、性差、ジェンダー、セクシュアリティ
履修条件等	
履修に必要な 知識･能力	授業概要に記載された内容、授業各回のテーマについて、講義をもとに深く考察し、それを表現する意欲を持っていること。

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。
2.	B:専門的技能	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独創的知見を述べることができる。
3.	C:汎用的技能	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べることができる。
4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	6/14 野依智子「女性労働の現状と歴史」	○		
2.	6/21 野依智子「男女共同参画社会の実現をめざして」	○		
3.	6/28 山下亜紀子「ケアをめぐるジェンダー問題を考える」	○		
4.	7/5 谷口秀子「児童文学、ポップカルチャーをめぐる女性学・男性学」	○		
5.	7/12 瀬口典子「自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリテイー」	○		
6.	7/19 中村美亜「LGBT:性とアイデンティティをめぐる科学と政治」	○		
7.	7/26 野々村淑子「まとめ」		Ⅰ、Ⅱを通したふりかえりとディスカッションを行う。	

授業以外での学習にあたって

講義内で紹介された文献等を積極的に読みましょう。

テキスト

適宜配布する。

参考書

適宜紹介する。

授業資料

適宜配付する。

成績評価

成績評価基準に関わる補足事項

●評価について

1. 出席点
毎回出席カードにて出席をとります。

2. レポート
《課題》
第1回から第7回までの5人の教員が、それぞれ1つずつのレポート課題を講義中に提示します。
《形式》
出席カードとは別に配布するB5版OCR用紙に、レポートを記入する。
手書きでも、指定用紙へのワープロ印刷、またはワープロで印刷し、指定用紙へのホチキスどめ、いずれも可。
分量は、手書きであれば指定用紙表裏に常識的な字のサイズで記入。800字～1000字程度を基準とする。
指定用紙への氏名、学籍番号の記入、マーク記入は必須。
《提出要領・締切》
それぞれの教員の講義の最終に課題を出すので、次週の水曜日14時までに提出すること。
1回のみ担当する教員の講義を欠席した場合、講義を聞かずにレポート課題は書くことはできないので、レポートは受理しない。
《提出先》
基幹教育教務係のレポート・ボックス

4. 評価方法
出席点とレポートの評価点を勘案し、総合的に評価します。

ルーブリック	女性学・男性学講義ルーブリック.pdf
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-08 14:07:04.896

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	科学の進歩と女性科学者 I
科目ナンバリングコード	KED-GES1148J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	渡邊 壽美子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。 The purposes of taking this course are to know and understand woman scientists through their experiences and to obtain some of the wisdom they had gained. In each of the course's 8 lessons, I introduced a woman scientist and her work, her co-workers and her affiliations, using slides and other materials.As an evaluation of the course, I had the students complete a questionnaire survey and write a report about woman scientists.
キーワード	時代背景、研究者の資質と責任、性別、家族・友人関係
履修条件等	なし
履修に必要な 知識・能力	高校卒業レベル

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標

1.	A:知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる
2.	B:専門的技能	科学者の文献･資料等を検索後、要約できる
3.	C:汎用的技能	科学者の業績および人生から学び取ったことを説明できる
4.	D:態度・志向性	授業2／3以上出席し、アンケート等に回答できる

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	DNA二重らせん構造発見にまつわる人々	○		
2.	ロザリンドフランクリン	○		
3.	ドロシー･ホジキン	○		
4.	バーバラ・マクリントック	○		
5.	リータ・レーヴィ・モンタルチーニ	○		
6.	ガートルード･ベル・エリオン	○		
7.	レイチェル・カーソン	○		
8.	レポート作成			

授業以外での学習にあたって

女性科学者に関して、図書館、ネット等で調べる

テキスト

なし

参考書

生命とは何か(Erwin Schrödinger(岡小天･鎮目恭夫訳):岩波書店)、細胞工学 別冊『分子生物学の誕生 奇跡の年1953年 上』(鈴木理:秀潤社)、トートラ 人体の構造と機能 第4版(桑木共之他共訳:丸善)、ダークレデイと呼ばれて(ブレンダ･マドックス:化学同人)、The Third Man of the Double helix (Maurice Wilkins:Oxford University Press)、The Double Helix (James D Watson:A Norton critical Edition)、分子生物学の軌跡: パイオニアたちのひらめきの瞬間(野島博:化学同人)、お母さんノーベル賞をもらう(中村桂子･友子訳:工作舎)、美しき未完成(自伝)(リータ・レーヴィ・モンタルチーニ:平凡社)、科学者の女性史(宮田新平:創知社)、シンプル病理学(笹野公伸:南江堂)、20世紀の女性科学者たち(ルイス･ハーバー(石館三枝子･中野恭子訳):晶文社)、A FEELING FOR THE ORGANISM(Evelin Fox Keller:W.H.Freeman and Company)、レイチェル・カーソン(上岡克己･上遠恵子･原強 編著:ミネルヴァ書房)、Silent Spring(Rachel Carson:Penguin Books)、レイチェル レイチェル・カーソン『沈黙の春』の生涯(リンダ・リア(上遠恵子訳):東京書籍)、MOLECULAR STRUCTURE OF NUCLEIC ACID(J.D. Watson,F.H.C.Click:NATURE vol.171, 737-738, 1953)

授業資料

教員から配布

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎	○					80%
				◎					10%
アンケート	○	○	○	○					10%

成績評価基準に関わる補足事項

2／3の出席をレポート提出要件とする。レポート課題は5月中に発表する。

ルーブリック	ルーブリック：平成29年度 科学の進歩と女性科学者 I.pdf
学習相談	授業終了後、もしくは watanabs@med.kyushu-u.ac.jpまでメールを下さい。
添付ファイル	
その他	『科学の進歩と女性科学者 I』受講だけでも構いませんが、できれば『科学の進歩と女性科学者 II』と合わせて受講していただけると、理解しやすくなると思います。
更新日付	2017-03-30 15:14:50.321

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	科学の進歩と女性科学者 II
科目ナンバリングコード	KED-GES1149J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	夏学期
曜日時限	夏学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	渡邊 壽美子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	『科学の進歩と女性科学者 II』では『科学の進歩と女性科学者 I』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。 The purposes of taking this course are to know and understand woman scientists through their experiences and to obtain some of the wisdom they had gained. In each of the course's 8 lessons, I introduced a woman pioneer scientist and her work, her co-workers and her affiliations, using slides and other materials.As an evaluation of the course, I had the students complete a questionnaire survey and write a report about woman scientists.
キーワード	時代背景、社会的地位、研究者の資質と責任、性別、家族・友人関係
履修条件等	なし
履修に必要な 知識・能力	高校卒業レベル

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる

PAGE TOP

到達目標

2.	B：専門的技能	科学者の文献･資料等を検索後、要約できる
3.	C：汎用的技能	先駆的科学者の業績から将来解決すべき問題点を述べられる
4.	D：態度・志向性	授業2／3以上出席し、アンケート等に回答できる

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	マリー・キュリー	○		
2.	イレーヌ・ジョリオ・キュリー	○		
3.	リーゼ・マイトナー	○		
4.	マリア･ゲッペルト･マイヤー	○		
5.	エレン･スワロウ・リチャーズ	○		
6.	保井コノ、湯浅年子	○		
7.	レポート作成			
8.	まとめ	○		

授業以外での学習にあたって

女性科学者に関して、図書館、ネット等で調べる

テキスト

なし

参考書

生命とは何か（Erwin Schrödinger（岡小天･鎮目恭夫訳）：岩波書店）、お母さんノーベル賞をもらう（中村桂子･友子訳：工作舎）、科学者の女性史（宮田新平：創知社）、シンプル病理学（笹野公伸：南江堂）、マリー･キュリー フラスコの中の闇と光（B・ゴールドスミス（竹内喜訳）：WAVE出版）、リーゼ・マイトナー嵐の時代を生き抜いた女性科学者（R・L・サイム（鈴木淑美訳）：シュプリンガー・フェアラーク東京）、20世紀の女性科学者たち（ルイス･ハーバー（石館三枝子･中野恭子訳）：晶文社）、ELLEN SWALLOW – The Woman Who Found Ecology（Robert Clarke （工藤秀明訳）：新評論）

授業資料

教員から配布

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	◎	○					80%
				◎					10%
アンケート	○	○	○	○					10%

成績評価基準に関わる補足事項

2／3の出席をレポート提出要件とする。

ルーブリック

ルーブリック：平成29年度 科学の進歩と女性科学者 II.pdf

学習相談

授業終了後、もしくは watanabs@med.kyushu-u.ac.jpまでメールを下さい。

添付ファイル	
その他	『科学の進歩と女性科学者 II』受講だけでも構いませんが、できれば『科学の進歩と女性科学者 I』と合わせて受講していただけると、理解しやすくなると思います。
更新日付	2017-03-30 15:15:53.268

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度　シラバス
- 学部生対象（M1:経済） -

最終更新日：　2017 年　10 月 18 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	国際金融
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	岩田 健治
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 （自由記述欄）	
教室	中講
その他 （自由記述欄）	

授業概要	基本科目「国際経済学Ⅱ(国際マクロ編)」で学んだ各種ツール(国際収支、外国為替と為替相場理論、国際マクロ経済学等々)を用いて、グローバル化のもとで現代国際金融が直面する諸問題について、歴史・制度を含む多様な視点から考察を進める。具体的には、国際通貨の理論と現状、国際通貨制度の歴史、グローバル化と為替相場制度、通貨協力・通貨統合とユーロ危機、世界金融経済危機などについて考える。 This lecture approaches some issues on international monetary economics from various aspects including history and social system, using such tools earned in International Economics Ⅱ as Balance of Payments, Foreign Exchange and Theory of Exchange Rate, and International Marco Economics. Specifically, students are expected to learn theory and current situation of International Money, History of International Monetary System, Globalization and Foreign Exchange Rate Systems, Monetary Corporation and Integration and Euro Crisis and World Financial Crisis etc.
キーワード	国際通貨、国際通貨制度、グローバル化、為替相場制度、通貨協力、通貨統合、ユーロ危機、世界金融経済危機
履修条件等	基本科目「国際経済学Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。
履修に必要な知識・能力	国際金融に関する基礎知識

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標	1. 国際金融に係る専門知識
授業計画	

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	ガイダンス	○		
2.	Ⅰ. 国際通貨の理論と現状（第2-3回：教科書第4章）	○		
3.	Ⅱ. 国際通貨システムの歴史（1870-1970年代） ＊国際金本位制・IMF固定相場制（第4-6回：教科書第14-16章）	○		
4.	Ⅲ. 金融グローバル化と国際金融（1980年代以降） ＊金融グローバル化と通貨危機（第7回：教科書第12章） ＊世界各国の為替相場制度（第8回：教科書第12章）	○		
5.	Ⅳ. 地域的通貨協力と通貨統合（第9-11回：教科書第16章）	○		
6.	Ⅴ. 金融危機 と国際金融通貨システムの諸課題（2000年代以降） ＊世界金融危機(第12回：教科書第16章) ＊ユーロ圏政府債務危機(第13-14回：教科書第16章) ＊国際金融・通貨システムの諸課題（第15回：教科書第18章）	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	上川 孝夫, 藤田 誠一編著(2012),『現代国際金融論 第4版』有斐閣ブックス。
参考書	講義の進行の中で順次紹介する。
授業資料	パワーポイントのプリントアウト版を配布する。 必要に応じて関連資料も配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎								

成績評価基準に関わる補足事項	試験(100%)により評価する。
ルーブリック	
学習相談	授業終了後受け付ける。 より時間を要する相談は、メールで事前にアポイントをとること。
添付ファイル	
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）開講科目です。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html
更新日付	2017-10-05 10:23:31.435

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	西洋経済史
科目ナンバリングコード	
講義題目	市場社会の成立と発展—現代の世界経済を見据えて—
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 （自由記述欄）	日本語
教室	中講
その他 （自由記述欄）	

授業概要	経済史は、19世紀に西欧で確立した学問分野であり、必然的に「西洋」経済史として発展し、とりわけ16世紀以降の西欧諸国による経済的・政治的世界支配＝資本主義化を様々な角度から見て、理論化しようとしてきた。その時の考察空間は当然「西洋文明社会」に置かれることとなった。 しかしながら、21世紀に入って西洋経済史が前提としていた政治や経済の区切りが、かつてほど明確でなくなることによって、いわば「世界史」の位置づけが再検討されるようになってきた。今や西洋経済史も「世界経済史」の部分として捉え直す必要が叫ばれてきているのである。 本講義は、19世紀初頭から現在に至る世界経済の歩みを、覇権国の変遷および構造転換局面の位相という形で考察していく。 Since its establishment as a science in the 19th century, The Economic History has developed as The European Economic History during the 20th century. The principal target of the researches were, initially and inevitably, the European Society and its civilization. From the beginning of the 21st century on, however, we see the necessity to review The European Economic History as a part of The World Economic History because the old frame work cannot explain the new difficulties that arose in the 21st century world. The main purpose of this course is to offer you some opportunities to be able to understand what The World Economic History is and to consider by yourself on what stage of the human history you are standing.
キーワード	世界経済史、市場経済の史的構造転換
履修条件等	基本科目「経済史Ⅱ」を履修済であることが望ましい。

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	世界史の基礎知識があり、基本科目「経済史Ⅱ」を履修済であることが望ましい。講義資料をウェブで配信することがあるため、そのための備えが必要である。

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	以下の諸点について、西洋経済史の史実、用語などを十分に説明できる。 ・産業革命 ・世界市場の成立 ・資本主義の構造転換 ・現代資本主義の特質
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	近代西洋経済史の史実、用語などを文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができる。
4.	D:態度・志向性	近代西洋経済の史的現象について深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1回・第2回 世界経済の捉え方	○		
2.	第1回・第2回 世界経済の捉え方	○		
3.	第3回～第5回 自由主義局面	○		
4.	第3回～第5回 自由主義局面	○		
5.	第3回～第5回 自由主義局面	○		
6.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○		
7.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○		
8.	第6回～第8回 構造転換の諸局面	○		
9.	第9回 中間試験	○		
10.	第10回～第12回 パクス・アメリカーナの時代	○		
11.	第10回～第12回 パクス・アメリカーナの時代	○		
12.	第10回～第12回 パクス・アメリカーナの時代	○		
13.	第13回～第15回 新自由主義局面	○		
14.	第13回～第15回 新自由主義局面	○		
15.	第13回～第15回 新自由主義局面	○		

授業以外での学習にあたって	教科書を主として参考図書的に利用しながら、講義はパワーポイント画像を中心として進める。必要な箇所では、他に有用な文献や視聴覚資料を受講者の理解を助ける手段に活用する。後者の内容も試験の範囲とするので、十分に留意すること。
テキスト	石見徹(著)『世界経済史—覇権国と経済体制—』(東洋経済新報社)
参考書	長岡新吉(他著)『世界経済史入門』(ミネルヴァ書房)／馬場哲他・山本通(他著)『エレメンタル欧米経済史』(晃洋書房)／奥西孝至・鳩澤歩(他著)『西洋経済史』(有斐閣)
授業資料	資料のダウンロードサイト http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office F(main).htm

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎		◎	◎					
	○		○	○					

成績評価基準に関わる補足事項	単位認定に際しては、定期試験の結果を重視する(80～90%)。またそれ以外に、出席の状況や講義中行なう臨時試験あるいはレポート等の点数も加味することがある(10～20%)。
ルーブリック	◎前期2017(H29)年度西洋経済史ルーブリック(アップ済).pdf
学習相談	オフィスアワーは随時。ただし、電子メールを通じて事前に予約すること(fujii@econ.kyushu-u.ac.jp)。
添付ファイル	
その他	第9回を簡単な中間試験とする。なお、最終回で教場試験とすることがある。 講義の詳細かつ具体的な仕方については、初回の講義時に行う。 なお、本講義はEUIJ九州の『学部EU研究ディプロマプログラム(学部EU－DPs)』科目(経済モジュール)としても開講する。 【EU-DPs 科目分類】 (B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。http://www.euij-kyushu.com /jp/home/index.html本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。
更新日付	2017-03-14 17:05:02.333

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	経済史Ⅱ
科目ナンバリングコード	
講義題目	グローバリズムと欧米経済
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 3時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 （自由記述欄）	日本語
教室	201
その他 （自由記述欄）	

授業概要	授業の概要：経済史Ⅱは、資本主義システムによる経済社会の空間的な膨張と構造的変化を探求することを基本テーマとする。欧米側の視点から、資本主義世界システムの展開と構造を明らかにし、その歴史的意義を考察していく。 The main theme of this lecture is to elucidate the historical mechanism of the expansion of capitalism and the structural change of the economic society. By following the lecture, students will be able to understand the historical process of capitalism and its natre as a world system.
キーワード	資本主義、世界システム、パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカーナ
履修条件等	きちんと出席し、授業に取り組む姿勢を必要とする。
履修に必要な知識・能力	世界史の基礎知識を持つことが望ましい。

No	観点	詳細
1.	A：知識・理解	経済史の基本的な流れを理解することができる。

PAGE TOP

到達目標	2.	B：専門的技能	
	3.	C：汎用的技能	経済史の史実を的確に把握し、自らの見解を述べることができる。
	4.	D：態度・志向性	経済の史的現象について考察し、現代的問題関心へ接続できる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1回 授業の概要説明 1.1「経済史の対象と課題」	○		
2.	第2回 1.2「経済史の方法（理論と実証：様々な歴史観）」	○		
3.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀：世界システム論へ」	○		
4.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀：世界システム論へ」	○		
5.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀：世界システム論へ」	○		
6.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀：世界システム論へ」	○		
7.	第3回～第7回 2.1「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2「長期の16世紀：世界システム論へ」	○		
8.	中間試験（予定）	○		
9.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		
10.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		
11.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		
12.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		
13.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		
14.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		
15.	第9回～第15回 2.3「市民革命と産業革命」 3.1「パクス・ブリタニカ」 3.2「パクス・アメリカーナ」	○		

授業以外での学習にあたって	特定のテキストは定めず、パワーポイントによるノート講義とするため、一定の予習と復習を必要とする。
テキスト	パワーポイント配布資料による。
参考書	授業中適宜指示する。
授業資料	事前にパワーポイント資料を配信する。ダウンロード先のURLは以下の通り。

	http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office F(main).htm
成績評価	評価方法・観点 / 観点No.1 / 観点No.2 / 観点No.3 / 観点No.4 / 観点No.5 / 観点No.6 / 観点No.7 / 観点No.8 / 備考（欠格条件・割合） ◎ / ◎ / ◎ ○ / ○ / ○ ○ / ○ / ○
成績評価基準に関わる補足事項	中間ミニテストと定期試験の結果を総合して、成績評価を行う。
ルーブリック	◎後期2017(H29)年度経済史Ⅱルーブリック(アップ済).pdf
学習相談	オフィスアワーは随時としている。メールにて予約のこと。メールアドレスは以下の通り。fujii@econ.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。 【EU-DPs 科目分類】(B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。
更新日付	2017-03-14 17:42:01.119

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	外国書講読(仏語経済)①
科目ナンバリングコード	
講義題目	フランスのマネジメント・コントロールと管理会計を学ぶ
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	大下 丈平
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2，3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語、フランス語
教室	P21
その他 (自由記述欄)	学習意欲のある学生の参加を期待しています。

授業概要	フランスのモケ教授の研究を通して、最新のフランスのマネジメント・コントロール論と管理会計論を学びます。受講生は、本書の講読によって、フランスのマネジメント・コントロール論のみならず、ビジネス・フランス語の基礎を学ぶことができるでしょう。また、受講生のレベルに応じて適切な文法書を購入してもらい、それを解説しながら、併せて講義を進めることも考えられます。 In this class, we will learn the theory of management control and management accounting through current works of Professor A.C. Moquet. Students, in reading of the book, will be able to learn the basics of French business language, as well as that of French control theory. In addition to that, we can purchase the proper grammar book depending on the level of the students, and in explaining it, we can continue our class.
キーワード	マネジメント・コントロール、管理会計、パラドックス、フランス、社会責任戦略コントロール、ダノン
履修条件等	基礎的な初級フランス語文法を習得していることが望ましい
履修に必要な 知識・能力	語学力、経済・経営・会計の入門的な知識、言語習得に対する忍耐力

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標

1.	A:知識・理解	基本的なフランス語文法
2.	B:専門的技能	最低限、経営・会計の基礎が必要
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	ともかく出席すること、そして徹底した予習をおこなうこと

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	オリエンテーション			
2.	以下、指定したテキストを、指定された担当者が報告する形で、輪読していきます。			
3.	同上			
4.	同上			
5.	同上			
6.	同上			
7.	同上			
8.	同上			
9.	同上			
10.	同上			
11.	同上			
12.	同上			
13.	同上			
14.	同上			
15.	まとめ 総復習			

授業以外での学習にあたって

担当部分の徹底した予習が求められます。

テキスト

以下のテキストの関連個所のコピーを事前に配布しますので、受講を希望する人は大下の研究室まで取りに来てください。研究室は、経済の建物の5階にあります。部屋番号は511号です。よろしくお願いいたします。

Anne-Chatherine Moquet, Le Control societal, Vivert, 2010.

参考書

参考図書については、担当者が関わっている以下のものを掲げておきます。

①大下丈平著『フランス管理会計論—工業会計・分析会計・管理会計—』同文舘，1996年。

②アンリ・ブッカン著『ブッカン フランス管理会計』(大下丈平・丸田起大訳)同文舘，2000年。

③大下丈平著『現代フランス管理会計:会計、コントロール、ガバナンス』中央経済社、2009年など。

授業資料

講読に必要な補助的な資料は、随時コピーして配布します。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	○	◎					

◎	◎	◎	◎						
			◎						

成績評価基準に関わる補足事項	成績評価にあたって、出席を重視します。それに加えて、できるできないとは別に、予習をどれだけ真面目にやっているかを重視します。
ルーブリック	ルーブリック参照
学習相談	随時、行います。事前にメールでアポイントを取ってください。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-16 17:54:04.389

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	国際会計
科目ナンバリングコード	
講義題目	国際会計と多国籍企業
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 3時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	潮崎 智美
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 （自由記述欄）	日本語
教室	201
その他 （自由記述欄）	

授業概要	グローバル化の進行する社会のなかでも、会計基準のグローバル化は他の領域に先んじて進行しており、会計のグローバル・スタンダードが世界的に普及している状況にあります。 本講義では、経済的・政治的・社会的環境の影響を受けて形成されている各国の会計の状況、その国際的相違、ならびにその相違を減少させる取り組みについて学習し、会計を通じて見えるグローバル化の諸問題について考えます。
キーワード	国際会計基準（IFRS）、会計制度・実務の国際的相違
履修条件等	会計学Ⅰおよび会計学Ⅱを履修済みであること
履修に必要な知識・能力	現在世界に生じている未解決の諸問題に積極的に取り組もうとする意欲
到達目標	

No	観点	詳細
1.	A：知識・理解	
2.	B：専門的技能	

PAGE TOP

3.	C：汎用的技能	
4.	D：態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	オリエンテーション	○		
2.	国際会計と国際ビジネス	○		
3.	国際会計の類型、文化、発展	○		
4.	財務会計の国際比較Ⅰ	○		
5.	財務会計の国際比較Ⅱ	○		
6.	財務諸表の国際比較分析	○		
7.	透明性と情報開示	○		
8.	―中間試験―			
9.	会計基準の国際的統合化	○		
10.	企業結合、のれんおよび無形資産	○		
11.	セグメント報告	○		
12.	外貨の会計	○		
13.	コーポレート・ガバナンスとグローバル経営	○		
14.	国際監査における諸問題	○		
15.	―定期試験―			

授業以外での学習にあたって

参考書に挙げた英文文献を用いて、英語で同時に学習することを推奨します。

テキスト

参考書をベースとした授業資料を用いて講義します。

参考書

Radebaugh, L., S. J. Gray and E. L. Black (2006) International Accounting and Multinational Enterprises, Sixth Edition, John Wiley & Sons, Inc.（小津稚加子監訳[2007]『多国籍企業の会計』中央経済社）

授業資料

授業資料は九州大学e-Learning System Moodleにアップします。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	○	○	○						
	○								
				○					
中間試験	○	○	○						

成績評価基準に関わる補足事項	平素の成績（小テストおよび授業態度など）、中間試験、定期試験により評価します。
ルーブリック	
学習相談	メールでアポイントメントを取ったあと、研究室に来ること。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。
更新日付	2017-03-29 19:49:42.126

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	外国書講読(仏語経済)①
科目ナンバリングコード	
講義題目	フランス語で読む近代経済史
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2，3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	P11
その他 (自由記述欄)	

授業概要	Le Grand Coomerce maritime au XVIIIe siecle 中の 論文を講読することを通じて、大航海時代の国際貿易について知識を深めていく。 By reading the texte (one of the articles contained in Le Grand Comerce maritime au XVIIIe siecle), you will be able to understand the situaition of the trades executed globally during the 18th century.
キーワード	フランス語・西洋経済史・商業革命・大航海時代・近代世界システム
履修条件等	フランス語読解の基礎力があること。受講に積極的な姿勢を持つこと。
履修に必要な知識・能力	フランス語の基本的文法を理解し、社会科学的な思考力によってフランス語の文章を解釈することができること。

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	以下の諸点について、ヨーロッパの大航海時代を史実と共に説明できる。・大西洋システム・商業革命・東インド貿易

PAGE TOP

到達目標	2.	B：専門的技能	ヨーロッパ近世史に関する基本的知識や用語を、フランス語で理解することができる。
	3.	C：汎用的技能	
	4.	D：態度・志向性	ヨーロッパ近世の経済あるいは貿易について、深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。また、授業への積極的な関与によって、フランス語での理解や表現を練磨することが可能となる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1回 授業とテキストに関する説明。	○		予習が不可欠である。以下同様。
2.	第2回 受講生による輪読開始。以降同様。途中小テストを行うことがある。		演習。以下同様。	

授業以外での学習にあたって

予習が不可欠である。

テキスト

Le Grand Coomerce maritime au XVIIIe siecle.

参考書

適宜授業中に示す。

授業資料

適宜授業中に示す。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎		◎					
	○	○		○					
	○	○		○					
	○	○		○					
	◎	○		◎					

成績評価基準に関わる補足事項

おおむね、出席80%、定期試験20%で成績評価する。

ルーブリック

◎後期2017(H29)年度後期仏経ルーブリック(アップ済).pdf

学習相談

オフィスアワー・学習相談は随時。メールにて予約をすること。fujii@econ.kyushu-u.ac.jp

添付ファイル

その他

本講義は『学部EU研究ディプロマプログラム（学部EU－DPs）』科目（経済モジュール）としても開講する。
【EU-DPs 科目分類】
（B）歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。
「本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。

更新日付

2017-03-14 17:19:31.586

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	外国書講読(独語経済)①
科目ナンバリングコード	
講義題目	資本主義のゆくえ
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	潮崎 智美
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部2，3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 (自由記述欄)	主に日本語。テキストは独語。
教室	P21
その他 (自由記述欄)	

授業概要	経済・経営の専門用語や基礎知識を独語で身に付けるとともに、その知識を独語で表現するための基盤を作ることを目的として、独語で書かれた新聞・雑誌記事や文献を読む。 本授業では、グローバリゼーション、金融危機、移民、Brexit、トランプ政権など近年生じている様々な諸問題を取り込みつつ、ドイツ型資本主義をアングロ・アメリカン型資本主義との対比において考察・議論する。 The objective of this course is to understand and discuss present German economy and business with some readings written in German. The course topic for this semester is “German automotive companies in global economy”. Course materials, i.e. annual reports, articles or literatures, are provided in the class.
キーワード	ライン(ドイツ)型資本主義、アングロ・アメリカン(サクソン)型資本主義
履修条件等	独語を履修していることが望ましい。
履修に必要な 知識・能力	独語の読解能力。

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標	1.	A:知識・理解	経済独語の用語を理解している。
	2.	B:専門的技能	経済独語の文章を読むことができる。
	3.	C:汎用的技能	経済独語の文章が理解できる。
	4.	D:態度・志向性	自発的に継続的に、経済独語の学習に取り組んでいる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	オリエンテーション			

授業以外での学習にあたって	予習・復習を行うこと。
テキスト	授業中に配布する。
参考書	授業中に指示する。
授業資料	授業中に配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	○								
	○	○	○	○					
	○	○	○	○					
				○					

成績評価基準に関わる補足事項	平素の成績による。
ルーブリック	
学習相談	メールでアポイントを取った上で、来室のこと。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 経済学部棟503
添付ファイル	
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。
更新日付	2017-03-29 20:07:35.881

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	比較制度
科目ナンバリングコード	
講義題目	制度経済学の基礎と応用 Foundation and Appliication of Institutional Economics
授業科目区分	
開講年度	2017
開講学期	前期集中
曜日時限	前期集中 その他 その他
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	磯谷 明徳
開講学部・学府	経済学部
対象学部等	経済学部
対象学年	学部3，4年
開講地区	箱崎地区
使用言語	
使用言語 （自由記述欄）	日本語 Japanese
教室	
その他 （自由記述欄）	

授業概要	「制度が重要である」という認識は、20世紀末からの現代経済学における多くの研究者たちによって共有されてきたものである。この共通の認識の下、研究者たちによる制度の「再」発見を通じて、制度経済学は新たな再生を遂げた。この再生から、新制度派経済学や現代制度派経済学、比較制度分析、企業と組織の経済学、制度と進化の経済理論など、多様なアプローチが登場した。 本講義では、20世紀末からの制度経済学の多様な展開から得られる知見を踏まえた上で、制度経済学の基礎的枠組みを、「貨幣」、「労働」、「動学」という3つの視点から理解し学習することを目的とする。 The conception that institutions matter has been shared by many researchers in the field of modern economics since the late 20th century. Under thiis common conception, institutions were 're'discovered by many researchers, and instituitional economics made a newly resurgence. From this resurgence, many approaches to the institution, such as New Institutional Econmics (NIE), Modern Institutional Economics, Comparative Institutional Economics (CIA), Economics of Firm Organizations and Economics of Instituitions and Evolution, have emerged. In light of the inshights which were obtained from the various development in the revival of institutional economics since the late 20th century, this class aims at understanding and studying the fundamental framework of institutional economics from the three viewpoints of 'money', 'labour', and 'dynamics'.
	制度経済学、社会経済システムの制度分析、多様性と進化、制度的補完性、制度階層性、制度動学

PAGE TOP

キーワード	Institutional economics, Institutional analysis of socio-economic systems, Diversity and evolution, Institutional complementality, Institutional hierarchy, Institutional dynamics
履修条件等	特になし。
履修に必要な知識・能力	

到達目標

No	観点	詳細
1.	制度経済学の基本的枠組みとその応用	現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。
2.	現代経済学の多様性	新古典派経済学とは異なる現代経済学のメニューは多様であることを理解する。
3.	制度動学の理論的枠組みの理解	新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学、特にポスト・ケインジアンマクロ経済学の理論的枠組みを学習する。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	・イントロダクション ・社会経済システムへの制度論アプローチ① （制度経済学の諸潮流）	○		
2.	社会経済システムへの制度論アプローチ② （制度とは何か／制度経済学の基本視点）	○		
3.	市場への制度論アプローチ① （制度としての貨幣・市場／市場システムの制度的特徴）	○		
4.	市場への制度論アプローチ② （寡占市場と価格の硬直性／価格調整と数量調整）	○		
5.	貨幣的生産の制度分析① （有効需要論の貨幣的基礎／貨幣需要と流動性選好）	○		
6.	貨幣的生産の制度分析② （内生的貨幣供給／金融システムの不安定性）	○		
7.	労働市場と賃金・雇用① （2つの労働市場像／賃金と雇用の決定）	○		
8.	労働市場と賃金・雇用② （雇用システムの制度的多様性）	○		
9.	企業への制度論アプローチ① （新古典派経済学の企業像／企業組織への2つのアプローチ）	○		
10.	企業への制度論アプローチ② （株式会社と企業統治／雇用システムと企業統治の制度的補完性）	○		
11.	制度動学：短期分析①	○		
12.	制度動学：短期分析②	○		
13.	制度動学：長期分析①	○		
14.	制度動学：長期分析②	○		
15.	教場試験			

授業以外での学習にあたって	
	・植村博恭・磯谷明徳・海老塚明『新版 社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会、2007年。

テキスト	・宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門 社会経済学[第2版]』ナカニシヤ出版、2010年。
参考書	・ベルナール・シャバンス『入門 制度経済学』ナカニシヤ出版、2007年。 ・Boyer, R., Uemura, H. and Isogai, A. (eds.) Diversity and Transformations of Asian Capitalisms, Routledge, 2012. (Paperback edition, August 2013) ・植村博恭・山田鋭夫・宇仁宏幸・磯谷明徳編『転換期のアジア資本主義』藤原書店、2014年。 ・磯谷明徳「制度経済学:一世紀の時を経て再生・復活、経済システムの多元性と進化の経済学へ」経済セミナー増刊『総力ガイド これからの経済学』日本評論社、2015年。
授業資料	適宜、配布する。 なお、講義資料については、集中講義第1日目の第1回時に指示する。
成績評価	

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎						
	◎	◎	◎						

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	
学習相談	毎回の講義終了時に受け付ける。
添付ファイル	
その他	本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。
更新日付	2017-04-04 00:05:44.779

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度　シラバス
- 学部生対象（M2:法と政治） -

最終更新日：　2017 年　10 月 18 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

外書講読（ラテン語）

最終更新日:2017年2月22日

授業科目名	外書講読（ラテン語）	標準年次	1
講義題目	『法学提要』を読む	開講学期	前 期
担当教員	五十君 麻里子	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Reading INSTITUTIONES
Course Overview	We will read INSTITUTIONES a textbook of law in ancient Rome codified by Imp. Justinian.
履修条件	特になし。
授業の目的	A．知識・理解：ラテン語読解能力を身につける。 B．専門的技能：古代ローマの法を知る。 C．汎用的技能：言語能力を高める。 D．態度・志向性：法の普遍性に触れる。
授業の概要・計画	受講者のラテン語能力に合わせCorpus Iuris Civilis中のInstisutionesの冒頭部分を読む。
授業の進め方	受講者のラテン語能力による。
教科書・参考書等	コピーを配布する。ラテン語の辞書を持参するのが望ましい。
成績評価の方法・基準	平常点。
その他（質問・相談方法等）	メールや講義後など、随時受け付ける。
過去の授業評価アンケート	

外国法律書講読（英語）

最終更新日：2017年3月20日

授業科目名	外国法律書講読（英語）	標準年次	2・3・4
講義題目	文化政策関連英語文献講読	開講学期	後 期
担当教員	小島 立	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	JPN & ENG	科目コード	

Course Title	English Reading Seminar on Cultural Policy
Course Overview	In this class, we will read English articles on cultural policy.
履修条件	特になし。どの学部に属しているかにかかわらず、「ものづくり」、「まちづくり」、文化芸術、クリエイティブ産業などに関心がある学生諸君の参加を歓迎する。なお、本授業は、大学院法学府修士課程の「国際関係法学外国書講読第二」との共同開講である。
授業の目的	本授業の目的は、受講者と一緒に、文化政策に関連する問題を検討することを通して、現代社会の諸課題について、受講者自らが批判的に考察する力を高めることにある。本授業が目指す具体的な到達目標は、以下のとおりである。 （1）知識・理解 受講者が、英語文献を正確に読む力、および、文化政策に関する諸問題について自ら考えることができる力を養うこと。 （2）専門的技能 受講者が、漁業政策に関する諸問題について、自ら考えることができる力を養うこと。 （3）汎用的技能 受講者の英語運用能力を高めること。また、受講者が、現代社会における諸課題について考えるに当たり、可能な限り正確に社会を観察し、それを踏まえて客観的な分析を行える能力を養うこと。 （4）態度・指向性 受講者が、外国語と日本語の両方についての感度を高められるようにすること。また、受講者が、国内外で生じている様々な現代的課題に接する際の感受性を高められるようにするとともに、社会で生じている問題を「自分のこと」として捉えて考察できる態度を養うこと。
授業の概要・計画	「文化政策」とは、文化や芸術に関する政策のあり方を論じる学問領域である。文化政策には、法学、政治学、経済学、社会学、歴史学、考古学、文化人類学、美学芸術学、農学、建築学、デザインなどの様々な領域が関係しており、学際的かつ複合的な色彩を強く帯びている。 論じられるテーマも多様であり、一例としては、「クリエイティブ産業」、「創造都市」、公立文化施設における指定管理者制度、文化芸術施設や文化芸術関係者への補助金のあり方、アートNPO、企業メセナ、著作権政策などが挙げられる。文化政策は、理論的にはいまだ発展途上の段階にあるといえるものの、逆にその事実は、この領域が理論面と実践面の双方において大変に興味深い「宝の山」であることを示している。 近時、文化政策の領域でも、いわゆる「地方創生」に関係する諸問題の一つとして、農山漁村の活性化について議論される機会が増えている。この問題に文化政策の観点からアプローチするためには、農林水

	産業に関する諸問題の実態や基本構造について、より深くかつ正確に知ることが不可欠である。 そこで、昨年度の農業政策に関する英語文献講読に引き続き、今年度は、漁業政策に関する英語文献を取り上げる。国際連合食糧農業機関（FAO）が公表した下記のレポートの第1部（pp.1-105）について、以下のスケジュールに従って講読を進める予定である。 The State of World Fisheries and Aquaculture (SOFIA) 2016: Contributing to Food Security and Nutrition for All (2016) 10/11： イントロダクション 10/18： pp.1-9 10/25： pp.10-17 11/1： pp.18-31 11/8： pp.32-37 11/15： pp.38-44 11/22： pp.45-50 11/29： pp.51-62 12/6： pp.62-69 12/13： pp.70-79 12/20： pp.80-92 1/10： pp.92-101 1/17： 予備日 本授業の開始前に、漁業政策に関連する問題について書かれた、より適切と思われる英語文献が見つかった場合には、講読する対象をそちらに差し替えることもありうる。
授業の進め方	授業で講読を行う際には、特に担当者は決めない。また、文章の全訳を求めることはないものの、文章のまとまり（意味の固まり）を自分で把握し、その要約を行なってほしい。上記のスケジュールのとおり、講読文献について、毎回5〜10ページ前後を読み進める予定である。授業には、英和辞書（電子辞書も可）を必ず携帯されたい。 予習を行う際には、何が文章の主題として取り上げられているのか、何と何が対比（比較）して書かれているのか、従前の問題状況はどういった内容で、筆者はそれに対してどのような分析を加え、従来の考え方とどのように違った意見を持っているのか、といった点について、意識的に注意を払っていただきたい。 担当教員のこれまでの教育経験に照らすと、学生諸君は、個々の単語および熟語の意味を辞書で調べることに意を用いすぎ、一定の長さの文章が固まりとして何を言っているのか、ということを把握するのが苦手であるように見受けられる。そのような「木を見て森を見ない」状況に陥らないように気をつけながら、予習を行なってほしい。 また、重要な法的概念や社会科学上の概念について、担当教員が受講者に質問を行なうこともある。法的概念や社会科学上の概念の中には、日本が「近代化」した後に、西洋から「翻訳」の形で取り入れられたものも少なくない。翻訳という営みについて意識的かつ自覚的に考えることは、私たちが外国の社会や文化をいかに把握するのかという試みを行う際の感覚を鋭敏にしてくれるだろうし、私たちに日本社会や日本文化を相対化する契機を与えてくれるだろう。さらには、私たちが外国語を学ぶ際の「心構え」にも大きな示唆を与えてくれるはずである。
教科書・参考書等	本授業で取り上げる文献については、ウェブサイトから検索および出力した上で授業に持参すること。授業には、英和辞書（電子辞書も可）を必ず携帯されたい。 文化政策についての基本的知識を得たい場合には、野田邦弘『文化政策の展開――アーツ・マネジメントと創造都市』（学芸出版社、2014年）、後藤和子編『文化政策学――法・経済・マネジメント』（有斐閣、2001年）、小林真理＝片山泰輔監修『アーツ・マネジメント概論〔3訂版〕』（水曜社、2009年）、池上惇＝植木浩＝福原義

	春編『文化経済学』（有斐閣、1998年）などを参照されたい。 日本の漁業の現状について知るには、水産庁が毎年5月頃に公表する「水産白書」のほか、濱田武士『魚と日本人――食と職の経済学』（岩波新書、2016年）、片野歩『魚はどこに消えた?――崖っぷち、日本の水産業を救う』（ウェッジ、2013年）、勝川俊雄『漁業という日本の問題』（NTT出版、2012年）、小松正之『海は誰のものか――東日本大震災と水産業の新生プラン』（マガジンランド、2011年）などが参考になる。 担当教員の文化政策についての考え方の一端を示したものとしては、小島立「現代アートと法――知的財産法及び文化政策の観点から」知的財産法政策学研究36号（2011年）1頁がある（この論文については、インターネット上で検索すれば見つけることができる）。 翻訳の意義については、柳父章『翻訳語成立事情』（岩波新書、1982年）、丸山眞男＝加藤周一『翻訳と日本の近代』（岩波新書、1998年）などを参照のこと。私たちが外国語を学ぶ際の「心構え」については、斎藤兆史『英語達人列伝――あっぱれ、日本人の英語』（中公新書、2000年）、斎藤兆史『英語達人塾――極めるための独習法指南』（中公新書、2003年）、鳥飼玖美子『本物の英語力』（講談社現代新書、2016年）などを参照されたい。
成績評価の方法・基準	授業への出席（毎回、授業終了後に、出席カードの提出を求める）と平素の態度により評価を行う。受講者から自発的な発言がない場合には、こちらから適宜指名し、発言を求める（その際に、発言者の氏名を尋ねる）。 授業中の発言回数や発言内容などが成績評価に反映されることになるため、授業中に積極的な発言がない受講者には、自ずと低い成績評価しか与えられない。
その他（質問・相談方法等）	質問や相談等がある場合には、担当教員にメールで連絡を取り、面談の日時を予約されたい（担当教員のメールアドレスは、kojima［アットマーク］law.kyushu-u.ac.jp）。授業終了後にも質問や相談等を受け付ける。 本授業について不明な点があれば、担当教員まで尋ねられたい。
過去の授業評価アンケート	

外国語法律書講読（フランス語）

最終更新日：2017年3月1日

授業科目名	外国語法律書講読（フランス語）	標準年次	3・4
講義題目	フランス法律書辞典を読む	開講学期	前 期
担当教員	南野・井上 （南野森・井上武史）	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Introduction to Legal French
Course Overview	
履修条件	フランス語文法の基礎を学習済みである者。
授業の目的	辞書を使いながら、フランス語で書かれた専門的な法学論文を読めるようになるための方法論を身に付けること。
授業の概要・計画	毎回参加者が文献を逐語訳する。それに対し、担当教員が適宜文法的解説を加える。
授業の進め方	アトランダムに参加者を指名し、１～２文ずつ逐語訳してもらう。
教科書・参考書等	参加者から特に強い希望がなければ、 O. CAYLA et J.-L. HALPERIN (sous la dir. de), Dictionnaire des grandes oeuvres juridiques, Paris, 2008 のなかから、一人の法学者・思想家を選択する予定。同書の詳細な目次は、 http://spminamino.web.fc2.com/JP/dicogoj.htm を参照。講読部分はコピーを配付する。 なお、2015年度前期にモーリス・オーリウ、後期にカレ・ド・マルベール、2016年度前期にシーエスを読み終えているので、今年度はそれ以外から選択する予定である。
成績評価の方法・基準	予習の成果、および毎回の授業態度を総合的に評価する。
その他（質問・相談方法等）	曜日・時限についても、受講者の希望があれば変更する可能性がある。 参加を希望する者は、早めに南野までメールで連絡をしてほしい（初回の文件等の準備のため）。 minamino【アットマーク】law.kyushu-u.ac.jp なお、この講義は、井上武史准教授との共同開講である。
過去の授業評価アンケート	

外国政治書講読（英語）

最終更新日：2017年2月25日

授業科目名	外国政治書講読（英語）	標準年次	3・4
講義題目	政治理論・政治哲学の原典を読む	開講学期	前 期
担当教員	関口 正司	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	政治理論・政治哲学の原典を読む

Course Title	Reading English Classics of Political Theory
Course Overview	Reading English Classics of Political Theory (John Stuart Mill, Considerations on Representative Government) and working out its implications for the political philosophy of our time.
履修条件	授業目的を達成するためには、やむを得ない場合を除き、毎回の予習と出席が必須です。精読型の授業ですので、多読・速読の訓練を希望する人は、別の授業を選んで下さい。 大学受験からしばらくたった今の時点で英語から縁遠くなってしまうと、社会に出てから、英語を情報源・コミュニケーションツールとして実用的に使えないままになりがちです。この機会をぜひ活用して下さい。 ★２年生でも、各自の時間割上の都合さえよければ、基盤科目として受講・単位取得ができます。
授業の目的	【知識・技能】 ・英語で書かれた哲学や思想の文章について、精密な読解ができるようになる。（重要な付随効果として、日本語の読解力も向上する。） ・政治理論・政治哲学の古典を英語で読むことにより、英語における政治学の基礎的な語彙や表現が習得される。 【態度】 ・重要な情報源の一つとして、英語文献に抵抗なく取り組めるようになる 【達成水準】 ・大学院修士課程の入試問題レベルに対応できる力の獲得。
授業の概要・計画	授業の目的や内容の特性のため、授業内容の段階的な展開はありません。単語、フレーズ、パラグラフ、節・章の構成に配慮しながら、古典テクストをひたすら読み続けます。ただし、原文に慣れてくるにつれて読みが深まるよう指導のレベルを徐々に上げていきます。
授業の進め方	●授業の目的をふまえ、速読ではなく、熟読で進めます。構文は複雑に見えますが、文法の知識を駆使しつつ、政治学的な内容の論理的つながりを把握できれ ば、必ず読み解けます。この点の強化が、本授業の実際上のメリットです。 ●たとえば、democracyやpeopleが不可算名詞か可算名詞か、冠詞がつくかつかないか、単数扱いか複数扱いかなどに配慮して正確に訳すのは簡単ではありません。文法の知識と政治学の知識の両方が不可欠です。この例のような政治学の基本的語彙の英語版が頻出しますので、歴史的背景なども含めて可能な限り徹底解説します。他の政治学関係の英文（および和文）を読む基礎ともなります。 ●順番に訳出を割りあえてる他に、予習の徹底を図るため、受講者全員が、毎回、予習範囲の内容要約と、分からなかった単語のリスト（合わせてＡ４で１枚）提出を★必須★としています。
教科書・参考書等	Ｊ・Ｓ・ミル『代議政治論』（John Stuart Mill, Considerations On Representative Government）を読み進めます。公刊から150年余りを経

	たこの書物は、現代デモクラシーのあり方を考える上で、依然として非常に価値のある古典 です。テクストは、ウェブ上に公開されているＰＤＦファイルを利用します。授業開始時にＵＲＬを案内します。
成績評価の方法・基準	学期末の試験で、テクストの一部を邦訳してもらい、その完成度を手掛かりに、英語面での読解力、政治学の概念や語彙の理解など、授業目的とした知識・理解の面を評価します。 通常時の予習状況も評価に加味します。 試験はとくに難問を出していませんが、ふだんの予習は必須です。また、過去の経験から言えば、欠席が４回程度を超えると単位取得が難しくなるようです。
その他（質問・相談方法等）	授業内容に関する質問は、原則として授業内にお願いします。その他の質問・相談は、授業終了時およびそれ以外随時受け付けます。したがって、オフィスアワーは設定しません。
過去の授業評価アンケート	

外国政治書講読（英語）

最終更新日：2017年2月25日

授業科目名	外国政治書講読（英語）	標準年次	2・3・4
講義題目	政治理論・政治哲学の原典を読む	開講学期	後 期
担当教員	関口 正司	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Reading English Classics of Political Theory
Course Overview	Reading English Classics of Political Theory (John Stuart Mill, Considerations on Representative Government) and working out its implications for the political philosophy of our time.
履修条件	授業目的を達成するためには、やむを得ない場合を除き、毎回の予習と出席が必須です。精読型の授業ですので、多読・速読の訓練を希望する人は、別の授業を選んで下さい。 大学受験からしばらくたった今の時点で英語から縁遠くなってしまうと、社会に出てから、英語を情報源・コミュニケーションツールとして実用的に使えないままになりがちです。この機会をぜひ活用して下さい。とくに２年生は積極的に受講に積極的に挑戦してください。
授業の目的	知識・技能】 ・英語で書かれた哲学や思想の文章について、精密な読解ができるようになる。（重要な付随効果として、日本語の読解力も向上する。） ・政治理論・政治哲学の古典を英語で読むことにより、英語における政治学の基礎的な語彙や表現が習得される。 【態度】 ・重要な情報源の一つとして、英語文献に抵抗なく取り組めるようになる 【達成水準】 ・大学院修士課程の入試問題レベルに対応できる力の獲得。
授業の概要・計画	授業の目的や内容の特性のため、授業内容の段階的な展開はありません。単語、フレーズ、パラグラフ、節・章の構成に配慮しながら、古典テクストをひたすら読み続けます。ただし、原文に慣れてくるにつれて読みが深まるよう指導のレベルを徐々に上げていきます。
授業の進め方	●授業の目的をふまえ、速読ではなく、熟読で進めます。構文は複雑に見えますが、文法の知識を駆使しつつ、政治学的な内容の論理的つながりを把握できれ ば、必ず読み解けます。この点の強化が、本授業の実際上のメリットです。 ●たとえば、democracyやpeopleが不可算名詞か可算名詞か、冠詞がつくかつかないか、単数扱いか複数扱いかなどに配慮して正確に訳すのは簡単ではありません。文法の知識と政治学の知識の両方が不可欠です。この例のような政治学の基本的語彙の英語版が頻出しますので、歴史的背景なども含めて可能な限り徹底解説します。他の政治学関係の英文（および和文）を読む基礎ともなります。 ●順番に訳出を割りあえてる他に、予習の徹底を図るため、受講者全員が、毎回、予習範囲の内容要約と、分からなかった単語のリスト（合わせてＡ４で１枚）提出を★必須★としています。
教科書・参考書等	Ｊ・Ｓ・ミル『代議政治論』（John Stuart Mill, Considerations On Representative Government）を読み進めます。公刊から150年余りを経たこの書物は、現代デモクラシーのあり方を考える上で、依然として非常に価値のある古典 です。テクストは、ウェブ上に公開されているＰＤＦファイルを利用します。授業開始時にＵＲＬを案内します。
成績評価の方法・基準	学期末の試験で、テクストの一部を邦訳してもらい、その完成度を手

	掛かりに、英語面での読解力、政治学の概念や語彙の理解など、授業目的とした知識・理解の面を評価します。 通常時の予習状況も評価に加味します。 試験はとくに難問を出していませんが、ふだんの予習は必須です。また、過去の経験から言えば、欠席が４回程度を超えると単位取得が難しくなるようです。
その他（質問・相談方法等）	授業内容に関する質問は、原則として授業内にお願いします。その他の質問・相談は、授業終了時およびそれ以外随時受け付けます。したがって、オフィスアワーは設定しません。
過去の授業評価アンケート	

外国政治書購読（英語）

最終更新日:2017年3月7日

授業科目名	外国政治書購読（英語）	標準年次	3・4
講義題目	21世紀に東アジアと中国	開講学期	前 期
担当教員	李 弘杓	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	China and East Asian International Relations in the 21st Century
Course Overview	Focusing on China’s external strategy, this class examines the dynamics of East Asian International politics and its implications for the region’s security environment in the 21st Century
履修条件	別になし。
授業の目的	参加する学生に21世紀に国際政治と経済の中心国家に成る可能性が多き中国の対外関係と安全保障政策を集中的に検討する機会を与えて、東アジア地域の国際政治についての基本的な理解を広げることを目的にする
授業の概要・計画	1. イントロダクション 2. 講義：21世紀における中国と東アジア 3. 脱冷戦期中国の外交政策：概観 4. 脱冷戦期中国の安全保障政策：概観 5. 脱冷戦期中国の朝鮮半島政策：趨勢と展望 6. 中国と北朝鮮の核開発問題 7. 脱冷戦期中国の統一政策：概観 8. 21世紀中国と台湾関係：趨勢と展望 9. 中国の浮上と東アジアの安全保障 10. 21世紀中国と日本関係：趨勢と展望 11. 21世紀中国と米国関係：趨勢と展望 12. 21世紀中国の国家大戦略 13. まとめる
授業の進め方	本科目は参加者の発表を中心に進行することを原則とする。事前に報告者を決めておき、報告者は該当資料を熟読し、演習進行のために問題点と重要な懸案を整理しておくことにする。
教科書・参考書等	Wang Gungwu and Zheng Yongnian,(eds.) China and the New International Order(London and New York: Routledge, 2010) Mel Gurtov, Will This Be China’s Century?: A Skeptics View (Boulder and London: Lynne Rienner, 2013)
成績評価の方法・基準	出席と授業参加 25%、発表 25% レポート 50%（具体的な内容は、のちほど発表する予定）
その他（質問・相談方法等）	
過去の授業評価アンケート	

外国政治書講読（ドイツ語）

最終更新日:2017年2月20日

授業科目名	外国政治書講読（ドイツ語）	標準年次	3・4
講義題目	戦後ドイツ政治史	開講学期	前 期
担当教員	熊野 直樹	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	German politics after 1945
Course Overview	Through an in-depth study of a selected topics in German political history, students will acquire and develop the practical specialist knowledge and skill needed for research in German studies.
履修条件	ドイツ語履修者。
授業の目的	本授業の目的は、「知識・理解」と「専門的能力」の観点から、以下のようになります。 １．ドイツ語の政治書テキストを正確に理解するようになる。 ２．ドイツ語の政治書テキストの読解を通じて、ドイツ政治史の知識を習得する。 ３．ドイツ語の政治書テキストの読解を通じて、政治用語や歴史用語を始めとした専門的な分析概念を身につける。 以上です。
授業の概要・計画	戦後ドイツ政治史に関する幾つかの重要な論文を精読していきます。 受講生には、実力に応じて、１回あたり読む分量を決める予定です。 平均的に１回の授業では、１～２頁を予定しています。
授業の進め方	毎回参加者全員に音読の上、日本語に訳出してもらいます。その後、必要に応じて文法的な説明及び戦後ドイツ政治史や当時の政治状況並びに研究動向についての解説を行います。
教科書・参考書等	Heinrich August Winkler: Von der deutschen zur europaeischen Frage. Gedanken zu einem Jahrhundertproblem, in: Vieteljahrshefte fuer Zeitgeschichte, Jg.63 (2015), S.473-486. Josef Forscheporth: Rolle und Bedeutung der KPD im deutsch-deutschen Systemkonflikt, in: Zeitschrift fuer Geschchtswissenschaft, Jg.56 (2008), S.889-909.
成績評価の方法・基準	平素。 但し、授業の目的の達成度に従って評価します。すなわち「知識・理解」及び「専門的能力」の観点から評価します。具体的には、１．テキストを正確に読めるようになったか、２．テキストの読解を通じて、ドイツ戦後政治史の知識を正確に習得できたか、３．政治用語や歴史用語を始めとした専門的な分析概念をどの程度身につけたか、です。 なお、無断欠席、遅刻は厳禁です。４回以上の欠席の場合は、除籍となります。また、遅刻の場合は、平常点から５点を差し引きます。
その他（質問・相談方法等）	大学院との共同授業となります。 テキストは初回に配布します。
過去の授業評価アンケート	

外国政治書講読（ドイツ語）

最終更新日:2017年2月20日

授業科目名	外国政治書講読（ドイツ語）	標準年次	2・3・4
講義題目	戦後ドイツ政治史	開講学期	後 期
担当教員	熊野 直樹	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	German politics after 1945
Course Overview	Through an in-depth study of a selected topics in German political history, students will acquire and develop the practical specialist knowledge and skill needed for research in German studies.
履修条件	ドイツ語履修者。
授業の目的	本授業の目的は、「知識・理解」と「専門的能力」の観点から、以下のようになります。 １．ドイツ語の政治書テキストを正確に理解するようになる。 ２．ドイツ語の政治書テキストの講読を通じて、ドイツ政治史の知識を習得する。 ３．ドイツ語の政治書テキストの読解を通じて、政治用語や歴史用語を始めとした専門的な分析概念を身につける。 以上です。
授業の概要・計画	戦後ドイツ政治史に関する幾つかの重要な論文を精読していきます。受講生には、実力に応じて、1回あたり読む分量を決める予定です。平均的に１回の授業では、１～２頁を予定しています。
授業の進め方	毎回参加者全員に音読の上、日本語に訳出してもらいます。その後、必要に応じて文法的な説明及び戦後ドイツ政治史や当時の政治状況並びに研究動向についての解説を行います。
教科書・参考書等	Heinrich August Winkler: Von der deutschen zur europaeischen Frage. Gedanken zu einem Jahrhundertproblem, in: Vierteljahrshefte fuer Zeitgeschichte, Jg.63 (2015), S.473-486. Josef Forschporth: Rolle und Bedeutung der KPD im deutsch-deutschen Systemkonflikt, in: Zeitschrift fuer Geschichtswissenschaft, Jg.56 (2008), S.889-909.
成績評価の方法・基準	平素。 但し、授業の目的達成度に従って評価します。すなわち「知識・理解」及び「専門的能力」の観点から評価します。具体的には、１．テキストを正確に読めるようになったか、２．テキストの読解を通じて、ドイツ戦後政治史の知識を正確に習得できたか、３．政治用語や歴史用語を始めとした専門的な分析概念をどの程度身につけたか、です。 なお、無断欠席、遅刻は厳禁です。４回以上の欠席の場合は、除籍となります。また、遅刻の場合は、平常点から５点を差し引きます。
その他（質問・相談方法等）	大学院との共同授業となります。 テキストは初回に配布します。
過去の授業評価アンケート	

民事訴訟法

最終更新日:2017年3月2日

授業科目名	民事訴訟法	標準年次	3・4
講義題目	民事判決手続の基礎	開講学期	前 期
担当教員	浅野 雄太	単位数	4単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	General Civil Procedure
Course Overview	General Civil Procedure (from action to judgement)
履修条件	特になし。ただし、民法について基礎的な知識を有していることが望ましい。
授業の目的	この講義は、民事訴訟法が規律する判決手続のうち、総論、訴訟要件論、第一審の手続（訴えの提起、訴訟審理、判決）、判決効論までを主な対象に講義を行う。 到達目標としては、「知識・理解・専門的能力」の観点からは、各用語の定義および重要な問題点に関する判例・学説等を正確に理解することが、「汎用性能力・態度・志向性」の観点からは、上述の理解を踏まえたうえで、具体的な事案を適切に解決できることが求められる。
授業の概要・計画	授業計画は次の通りである。付された番号は講義回数とは一致しない。 １ イントロダクション、民事訴訟法とは ２ 民事訴訟の構造と基本原則 ３ 裁判所、管轄 ４ 当事者 ５ 訴え ６ 訴訟要件（１）総論、訴えの利益 ７ 訴訟要件（２）当事者能力、当事者適格 ８ 審判の原則 ９ 訴訟手続の進行（１）争点整理 １０ 訴訟手続の進行（２）訴訟行為 １１ 証拠調べ手続 １２ 証明責任 １３ 判決の成立 １４ 判決の効力 １５ 裁判によらない訴訟の終了
授業の進め方	主に講義形式による。適宜レジュメを配布しながら進める予定である。 各項目終了時、次の項目を予習するために読むべき参考書の箇所等を指示する。
教科書・参考書等	以下を講義で適宜参照する。 【教科書】 三木浩一・笠井正俊・垣内秀介・菱田雄郷『民事訴訟法〔第2版〕（有斐閣LEGAL QUESTシリーズ）』（有斐閣、2015年） 高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂編『民事訴訟法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2015年）
成績評価の方法・基準	期末試験による。講義への出席は考慮しない。小テスト等も実施しない。 期末試験では、上記の授業目的である、各用語の定義や重要な論点に関する判例・学説等の正確な理解、そしてそれらを用いて具体的な事

	案を解決することのできる応用力を求める。
その他（質問・相談方法等）	質問があれば、授業終了後に来ていただくか、またはメールで受け付けます。アドレスについては初回の授業で連絡します。
過去の授業評価アンケート	

民法Ⅱ【債権各論】

最終更新日:2017年8月21日

授業科目名	民法Ⅱ【債権各論】	標準年次	2
講義題目	債権各論講義	開講学期	後 期
担当教員	七戸 克彦	単位数	4単位
教 室	中講(火・２)、大講(金・４)	科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	The Law of Obligations-Special Rules
Course Overview	
履修条件	民法Ⅰ（総則・物権総論）を履修済であることが望ましいです。
授業の目的	民法典第３編「債権」のうち、第２章「契約」＋第３章「事務管理」＋第４章「不当利得」＋第５章「不法行為」につき、債権関係改正（平成２９年６月２日法律４４号）の条文に沿って講述します。
授業の概要・計画	債権関係改正に対応した教科書は、目下のところ、ほとんど刊行されていません。 本講義では、潮見佳男教授（京都大学）の下記書籍を教科書として使用し、同書に即して話を進めることにします。
授業の進め方	潮見佳男教授の教科書の章立ては以下の通りですので、講義も、おおむねこの順番に沿って行いたいと思います。 第１章 契約の基本原則 第２章 契約の成立 第３章 契約の効力 第４章 契約の解除と危険負担 第５章 売買（１） 第６章 売買（２） 第７章 贈与 第８章 貸借型契約総論・消費貸借 第９章 使用貸借 第１０章 賃貸借（１） 第１１章 賃貸借（２） 第１２章 賃貸借（３） 第１３章 賃貸借（４） 第１４章 雇用 第１５章 請負 第１６章 委任 第１７章 寄託 第１８章 組合 第１９章 和解 第２０章 事務管理 第２１章 不当利得制度 第２２章 侵害利得 第２３条 給付利得 第２４章 特殊の給付利得 第２５章 三当事者間の不当利得 〔不法行為〕 第１章 不法行為制度 第２章 権利侵害 第３章 故意・過失 第４章 因果関係 第５章 損害 第６章 損害賠償請求権の主体 第７章 損害賠償請求に対する抗弁（１）

	第８章 損害賠償請求に対する抗弁（２） 第９章 使用者の責任・注文者の責任 第１０章 物による権利侵害 第１１章 共同不法行為・競合的不法行為 第１２章 差止請求と損害賠償 第１３章 名誉毀損および人格権・プライバシー侵害 第１４章 医療過誤・説明義務違反 第１５章 自動車損害賠償保障法上の運行供用者責任
教科書・参考書等	潮見佳男『基本講義・債権各論Ⅰ契約法・事務管理・不当利得（第３版）』（新世社、２０１７年６月） 潮見佳男『基本講義・債権各論Ⅱ不法行為法（第２版増補版）』（新世社、〔５刷〕２０１７年５月）
成績評価の方法・基準	期末試験のみで評価します。 評価基準は、１００点満点中、６０点未満を「Ｆ（不可）」とし（絶対評価）、６０点以上の者に関しては、９１点以上「Ａ（優上）」１０％、８１点以上「Ｂ（優下）」２０％，７１点以上「Ｃ（良）」４０％、６０点以上「Ｄ（可）」３０％の相対評価とします。
その他（質問・相談方法等）	質問・相談については、メールまたは研究室まで。
過去の授業評価アンケート	

2017/10/18更新

行政学

最終更新日:2017年2月10日

授業科目名	行政学	標準年次	3・4
講義題目	行政学	開講学期	後 期
担当教員	嶋田 暁文	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Public Administration
Course Overview	Lecture on Public Administration of Central and Local Government.
履修条件	現時点での学力等は問いませんが、「できるだけ毎回出席し、真剣に学ぶ」という真摯な姿勢を持っている方に履修してほしいと思っています。
授業の目的	次々と噴出する公共的課題を解決していくためには、情報・財源・権限・人材・技術といったさまざまな資源を組み合わせながら、社会制御を行わなければなりません。そうした社会制御のメカニズムを具現化したものが「行政システム」です。 本講義では、「法と行政」「政治と行政」「管理（組織）と行政」という三つの概念連関を意識しながら、「政治と行政」「国と地方」「政府と民間」という三つの視角から行政システムを考察していきます。 本講義の目的は、①行政システムを体系的に理解する上で不可欠な各種「基礎概念」を把握すること、②行政システムを深く考察していく上で必要な「物の見方」を獲得すること、③真摯に勉学に打ち込むという態度を身につけることの三つです。
授業の概要・計画	＜授業計画＞ 1．講義を始めるに当たって～行政学とはいかなる学問か 2．行政の展開と守備範囲の拡大・見直し 3．官僚制論 4．法治行政の原理とその限界 5．政治と行政の関係 6．議院内閣制と内閣機能の強化 7．中央省庁の組織・定員管理と大部屋主義 8．中央省庁再編 9．公務員制度①～総論＆採用・昇進 10．公務員制度②～退職・再就職 11. 公務員制度③～公務員制度改革総論＆政治任用 12．政策ネットワーク 13. NPO①～NPOとは何か 14．NPO②～NPOと行政の協働 15. 組織デザイン①～組織と分業 16．組織デザイン②～事前的調整と事後的調整 17．行政組織の動態①～形式的意思決定手続きとしての稟議制 18．行政組織の動態②～行政組織と実質的意思決定 19．行政組織の動態③～予算編成の過程と手続き 20．地方自治①～地方自治総論① 21．地方自治②～地方自治総論② 22．地方自治③～地方分権改革① 23．地方自治④～地方分権改革② 24. NPMとガバナンス 25．政策過程と政策作成 26．政策実施とストリートレベルの官僚制 27．政策評価と行政統制・行政責任
授業の進め方	講義形式です。できるだけ分かりやすく説明するつもりですが、大人

	数を相手にするため、どうしても一方的な授業にならざるを得ません。ですから、もしよく分からない部分があったら、授業終了後、気軽に質問しにきてください。
教科書・参考書等	講義内容をすべて網羅したテキストは存在しません。 そのため毎回の授業で、個別に関係文献について提示します。 なお、全般的な参考文献としては、以下のものがお勧めです。 ・西尾勝『行政学（新版）』有斐閣、2001年。 ・真渕勝『行政学』有斐閣、2009年。 ・曽我謙吾『行政学』有斐閣、2013年。 また、拙著『みんなが幸せになるための公務員の働き方』学芸出版社、2014年には、この授業の中で伝えるさまざまな思考方法やその具体例が載っていますので、ご一読をお勧めします。
成績評価の方法・基準	「試験」（＝穴埋め問題30点＋記述問題70点）＋「出席」（加点のみ）で、評価を行います。 ＊穴埋め問題は、授業中にキーワードとして強調します。 ＊記述問題については、出さない部分は明示します。逆に、特にそうした断りがない場合、出る可能性があるので注意してください。 上記のうち、「試験」は、本講義の目的である①行政システムを体系的に理解する上で不可欠な各種「基礎概念」を把握すること、②行政システムを深く考察していく上で必要な「物の見方」を獲得することに対応しています。 また、上記のうち、「出席」は、本講義の目的である③真摯に勉学に打ち込むという態度を身につけることに対応しています。
その他（質問・相談方法等）	①単位を確実にとりたい方は、授業にきちんと出席することをおすすめします。 ②たまに、「この単位を落とすと卒業できないのでどうにかお願いします」という要望が出てきますが、いかなる事情であっても、「不可」を「可」に変更することはしません。（真面目に勉強した方々に申し訳ないので。） その点は予めご了承ください。
過去の授業評価アンケート	

国際公法

最終更新日:2017年2月17日

授業科目名	国際公法	標準年次	2
講義題目	現代国際法の諸問題	開講学期	後 期
担当教員	明石 欽司	単位数	4単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Public International Law
Course Overview	Current Issues on Public International Law
履修条件	とくにありません。
授業の目的	国際法が内包する歴史性やイデオロギー性を踏まえつつ、現代国際法に関する基礎的・体系的な知識の涵養を目的とします。
授業の概要・計画	以下の順序で講義を行います。１．序論：国際社会と法 ２．国際法の法源（Ⅰ～Ⅳ） ３．条約法（Ⅰ～Ⅱ） ４．国際法と国内法の関係 ５．国際法の主体（総論） ６．国際法の主体（各論）（Ⅰ～Ⅵ） ７．外交・領事関係法 ８．領域 ９．海洋法 （Ⅰ～Ⅱ） １０．国際公域 １１．国家責任（Ⅰ～Ⅱ） １２．国際紛争の平和的処理 １３．平和と安全の維持 １４．武力紛争法
授業の進め方	現存する国際法上の諸制度について、各制度の形成過程を踏まえつつ、解説します。教科書の該当箇所を授業の前に読み、疑問点を考えながら授業に参加してください。
教科書・参考書等	初回授業時に紹介します。
成績評価の方法・基準	最終試験（筆記）によります。現代国際法の基礎的・体系的知識の理解度を基準とします。
その他（質問・相談方法等）	メールを通じての面会予約制とします。メールアドレスは初回授業時に知らせます。
過去の授業評価アンケート	

ローマ法I

最終更新日:2017年2月22日

授業科目名	ローマ法I	標準年次	3・4
講義題目	ローマ法史・ローマ刑事法・国法	開講学期	前 期
担当教員	五十君 麻里子	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Roman Law I
Course Overview	The course aims to give an overview on the history of Roman law, Roman criminal law, and Roman public law. It is suitable for non-law students as well.
履修条件	特になし。
授業の目的	A．知識・理解：古代ローマから現在に至るまでの法の展開を、ローマ法を中心に整理し、理解する。 B．専門的技能：現代法の背景を知ることにより、現代法の理解を深める。 C．汎用的技能：人間社会のあり方や権力のあり方などの普遍性に触れ、現代社会を洞察する視点・視野を身につける。 D．態度・志向性：進化論的史観から脱し、歴史の経験を踏まえ、より広い視点で物事を考える態度を志向する。
授業の概要・計画	1. イントロダクション 2. １２表法（BC450）の成立 3. 共和政 4. 元首政の成立 5. 刑事裁判 6. 元首政下での法の展開 7. 専主政期～東西分裂後のローマ法 8. ローマ法の継受
授業の進め方	講義形式。質問を歓迎する。
教科書・参考書等	必要に応じて、コピー等を配布する。
成績評価の方法・基準	古代ローマから現在に至るまでの法の展開を理解しており、これを現代社会と比較する態度を身につけているかを評価する。 評価方法については、授業内で受講者と相談し決定るする。
その他（質問・相談方法等）	講義中、講義後、メールで、など質問は随時受け付ける。
過去の授業評価アンケート	

2017/10/18更新

EU法特殊講義

最終更新日:2017年8月21日

授業科目名	EU法特殊講義	標準年次	3・4
講義題目	EU法	開講学期	前 期
担当教員	伊藤洋一	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	
Course Overview	
履修条件	国際公法の講義を聴講しておくことが望ましい.
授業の目的	下記「授業概要・授業計画」を参照.
授業の概要・計画	東西冷戦の終結とともに，ヨーロッパ連合は，安全保障をも視野にいれた広い権限を持つ地域的国際組織として，今や国際経済のみならず国際政治においても大きな意義を持つ存在となった. また，ヨーロッパ統合の進展とともに，ヨーロッパ共同体法の重要性は，近年増加の一途をたどっており，特に，EU法の基礎的知識は，EU加盟国の国内法理解に際しても今や不可欠となっている．ヨーロッパ法が，いかにして国内法においても重要性を獲得するようになってきたかは，国際レベルにおける法の支配の確立事例としても極めて興味深い問題である. 他方で，EUに対する政治的反発・批判が，近時のユーロ危機，移民問題等を巡り噴出しており，「ブリュッセル」を諸悪の根源とする主張がしばしばなされ，昨年2016年6月23日のイギリス国民投票によるEU脱退(Brexit)可決は世界を驚かし，今年5月のフランス大統領選挙においてもEU政策が重要な争点となった．6月のイギリス総選挙後に始まるBrexit交渉は，ヨーロッパ統合の意義を再確認する場となるであろう. 近時EUに関する報道は少なくないが，残念ながら，日本のマスコミ関係者でも，現実のEUにおける制度設計，法形成がどのようになされ，またどのように運用されているかにつき，正確な理解を持つ者は多くないのが現状である. しかし，グローバル化の進行する現在，EU法は，従来の古典的国際法とどのように異なるのか，加盟国の国内法との間にどのような影響関係があるのか，古典的な主権国家の枠を超える「民主的」な国際組織の設計はどのようなものであるべきかといった問題は，学問的にも重要な理論的意義を持つ. 本講では，上述のような近時の問題状況をも念頭に置きつつ，現行法たるリスボン条約を中心に講義を行う予定である．EU法の対象分野は，共同体管轄事項が拡張されてきた結果，今や多岐にわたっているが，EU組織法の理解は，個別のEU実体法理解のため不可欠の前提となる．本講では，EU法の総論部分にあたる組織法，具体的には，EUの機構，法源，争訟制度等について順次講じる予定である.
授業の進め方	講義形式.
教科書・参考書等	特定の教科書は使用しない(参考書等は開講時に紹介する)．しかし、EUの基本条約(英語版)の参照は不可欠であるので，予めEU官報(Official Journal C 202,7.6.2016)<http://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=OJ:C:2016:202:TOC>からダウンロードし，以下のEU条約/EU運営条約等(いずれもPDF版)を開講時に随時参照できるように準備しておくこと.

	(1) Consolidated versions of the Treaty on European (2) Consolidated versions of the Treaty on the Functioning of the European Union (3) Protocols (4) Declarations annexed to the Final Act
成績評価の方法・基準	筆記試験による.
その他（質問・相談方法等）	特になし.
過去の授業評価アンケート	

知的財産法【国際知的財産法】

最終更新日:2017年3月20日

授業科目名	知的財産法【国際知的財産法】	標準年次	3・4
講義題目	特許法・著作権法	開講学期	前 期
担当教員	小島 立	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Intellectual Property Law
Course Overview	This class deals with fundamental issues on intellectual property law, especially patent law and copyright law.
履修条件	2012年度から2014年度に開講された知的財産法特殊講義Ⅰ、または、知的財産法特殊講義Ⅱを履修した者には単位を認定しない。 本授業を受講するに当たっては、民法（民法Ⅰ、民法Ⅱおよび民法Ⅲ）、民事訴訟法、行政法（行政法Ⅰおよび行政法Ⅱ）、国際私法などの科目を履修済みか、あるいは、並行して履修することが望ましい。 どの学部に所属しているかにかかわらず、「ものづくり」、「まちづくり」、文化芸術、クリエイティブ産業などに関心がある学生諸君の参加を歓迎する。
授業の目的	本授業の目的は、受講者と一緒に、知的財産法に関連する問題を検討することを通して、現代社会の諸課題について、受講者自らが批判的に考察する力を高めることにある。本授業が目指す具体的な到達目標は、以下のとおりである。 （1）知識・理解 知的財産法が社会において果たすべき役割について、受講者が自ら考えることができる力を養うこと。 （2）専門的技能 知的財産法に関係する紛争が想定される事例において、原告と被告の双方の立場からどのような主張を行うべきか、そして、裁判所は当該事案についてどのような判断を下すべきか、ということについて、受講者が論じられる能力を養うこと。 （3）汎用的技能 現代社会における諸課題について考えるに当たり、受講者が可能な限り正確に社会を観察し、それを踏まえて客観的な分析を行える能力を養うこと。 （4）態度・指向性 受講者が、国内外で生じている様々な現代的課題に接する際の感受性を高められるようにするとともに、社会で生じている問題を「自分のこと」として捉えて、考察できる態度を養うこと。
授業の概要・計画	本授業では、知的財産法の中で、「創作物を保護する法」である特許法と著作権法を中心に検討する。授業の初めに、「創作物を保護する法」の全体像について概観した後、著作権法、特許法の順に検討を行う。 具体的な授業計画としては、知的財産法総論（6回）、著作権法（10回）、特許法（10回）を予定している（教場試験となる可能性に鑑み、全26回で予定を立てている）。
授業の進め方	担当教員による講義に加えて、受講者と問答を行う形で授業を進め

	る。教科書の予習箇所を事前に指定するので、その部分に予め目を通してから、授業に参加してほしい。授業に出席する際には、少なくとも、特許法および著作権法が収載されている六法または条文集と、指定された教科書を携帯されたい。 また、本授業では、「加工された裁判例」が収められている、いわゆる「判例集」や「判例百選」などの教材は用いず、「生の裁判例」を適宜取り上げ、受講者と問答を行いながら分析を行う。この作業をとおして、知的財産法に関係する紛争が想定される事例において、原告と被告の双方の立場からどのような主張を行うべきか、そして、裁判所は当該事案についてどのような判断を下すべきか、ということについて、受講者が自ら論じることができる力を養いたい。受講者がこの能力を身につけたかどうかを、期末試験で出題する事例問題で試すことになる。 授業の中で、検討する裁判例を予め指定するので、裁判所ウェブサイトの「裁判例情報」から当該裁判例を検索した上で、事前に読んできてほしい。特許法の裁判例を分析する際には、「特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）」のウェブサイトから特許公報を出力し、目を通すことが求められる。これらの情報へのアクセスの仕方については授業の中で説明する。
教科書・参考書等	●教科書（授業において予習範囲を指定する） 駒田泰土＝潮海久雄＝山根崇邦『知的財産法Ⅰ 特許法』（有斐閣、2014年） 駒田泰土＝潮海久雄＝山根崇邦『知的財産法Ⅱ 著作権法』（有斐閣、2016年） ●教科書に準ずるもの（授業の中で適宜参照する） 特許庁『知的財産権制度入門〔平成28年度版〕』（2016年） ※上記は、平成28年度知的財産権制度説明会（初心者向け）のテキストであり、特許庁のウェブサイトから出力可能である。本授業の途中で、平成29年度版が公表された場合には、追ってお知らせする。 ●参考書（必ずしも購入する必要はない） 中山信弘『マルチメディアと著作権』（岩波新書（赤426）、1996年）（この本は残念ながら絶版となっているが、図書館および法学部学生情報サロンに配置されている） 中山信弘『特許法〔第3版〕』（弘文堂、2016年） 中山信弘『著作権法〔第2版〕』（有斐閣、2014年） 大渕哲也ほか『知的財産法判例集〔第2版〕』（有斐閣、2015年） 小泉直樹ほか『ケースブック知的財産法〔第3版〕』（弘文堂、2012年）
成績評価の方法・基準	期末試験により成績評価を行う。期末試験では、知的財産法に関係する紛争が予想される事例問題を出題し、原告と被告の双方の立場からどのような主張を行うべきか、そして、裁判所は当該事案についてどのような判断を下すべきか、ということを問う。 授業への積極的な参加および授業における問答の内容については、平常点として、期末試験への加点事由とする。
その他（質問・相談方法等）	質問や相談等がある場合には、担当教員にメールで連絡を取り、面談の日時を予約されたい（担当教員のメールアドレスは、kojima［アットマーク］law.kyushu-u.ac.jp）。授業終了後にも質問や相談等を受け付ける。 本授業について不明な点があれば、担当教員まで尋ねられたい。
過去の授業評価アンケート	

政治学原論

最終更新日:2017年2月28日

授業科目名	政治学原論	標準年次	2
講義題目	現代政治学概説	開講学期	前 期
担当教員	蓮見 二郎	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Introduction to Contemporary Political Studies
Course Overview	This course provides a general overview of contemporary political studies. To do so, every lecture gives you basic concepts and theories in political studies and offers oopportunities for you to improve your analytical skills in politics.
履修条件	必須ではないが、「政治学入門」を履修していることが望ましい。教職科目に指定されているので、他学部からの受講も歓迎する。
授業の目的	本講義の目的は、現実政治の諸問題を取り扱った「政治学入門」（基幹教育・文系ディシプリン科目）を受け、政治学の現代における到達点とその全体像を広く解説することにある。そのために、政治学の基本的な概念や主要な理論について網羅的な概説を行い、それらを用いた政治社会分析の手法を磨くことを目指す。 本講義を通じて受講者に期待されること： １．【知識・理解】現代政治学の基本的な概念や理論について、その多様な論争を踏まえた説明ができる。 ２．【専門的技能】政治学の基本的な概念や理論を用いて、現実の政治を分析することができる。 ３．【汎用的技能】望ましい政治社会のあり方について自分の意見を論述することができる。 ４．【態度・志向性】望ましい政治社会のあり方について主体的に考えることができる。
授業の概要・計画	講義予定の主な内容 １．ガイダンス ２．政治とは何か ３．政治体制 ４．規範的政治理論 ５．民主主義 ６．国家とナショナリズム ７．国際関係と地方自治 ８．政治経済・政治文化 ９．選挙とマスコミュニケーション １０．政党と利益集団 １１．法と議会 １２．政治的リーダーシップと官僚制 １３．権力と政治過程 １４．政治学の方法と課題 １５．まとめ
授業の進め方	基本的には昨年度までの形式を踏襲して、次のように行う。詳細は初回の授業時に説明する。 １．予習のための文献を毎週指示し、Web学習システムに掲載する。授業や試験はこの予習を前提に行うので、授業前に読了してくることを期待する。 ２．授業の後半では、毎回のテーマに合わせた演習を行う。 ※Web学習システム(Moodle)： https://moodle.kyushu-u.ac.jp/

教科書・参考書等	講義内容については、英国の標準的な政治学入門用教科書である以下の構成に準拠する。 Heywood, A. (2013). Politics, 4th ed., Basingstoke: Palgrave Macmillan. 日本語のテキストは、以下を推薦する。 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦『現代政治学〔第4版〕』有斐閣・2012年 川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会・2012年 久米郁男ほか『政治学〔増訂版〕』有斐閣・2011年 堀江湛・岡沢憲芙編『現代政治学〔新版〕』法学書院・1997年
成績評価の方法・基準	定期試験と各回の演習とにより、次の方法で評価することを考えている。 １．【知識・理解】試験における説明問題により評価。 ２．【専門的技能】試験における論述問題により評価。 ３．【汎用的技能】試験における論述問題により評価。 ４．【態度・志向性】演習を通じて評価。
その他（質問・相談方法等）	授業後のほかにアポイントメントによっても質問・相談を受け付ける。
過去の授業評価アンケート	

比較法

最終更新日:2017年2月16日

授業科目名	比較法	標準年次	3・4
講義題目	比較民法学	開講学期	後 期
担当教員	遠藤 歩	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Comparative Law
Course Overview	
履修条件	特にありません。
授業の目的	フランス民法およびドイツ民法との三者間比較を通じて、日本民法の理解を深めることを目的としています。 より具体的には、次の二つです。 第一に、フランス民法およびドイツ民法における基礎的な概念を修得すること（「知識・理解の観点」）。 第二に、フランスおよびドイツとの比較のなかで、日本民法の特殊性を認識できるようになること（「専門的技能の観点」）。
授業の概要・計画	法は文化の一部であり、法典は全体として一つのまとまりを持ったテクストですから、外国法典の個々の規定を取り出して日本と比較しても、何の役にもたちません。日本法の独自性、特色を精確に理解するためには、まず、比較の対象たる外国法（本講義では、フランス民法およびドイツ民法）それ自体を一定の包括性をもって認識し、その後に、外国法の目で日本法を観察する必要があります。 そこで、この講義では、具体的なテーマごとにフランス民法およびドイツ民法の内容を解説し、日本法と比較するという手法を採りたいと思います。 現在のところ、以下のようなテーマを扱う予定です。 １．所有権の移転 ２．契約の成立、解釈、効力 ３．損害賠償 ４．不法行為 ５．売主の瑕疵担保責任 ６．保証 ７．抵当権 ８．家族 ９．相続 より詳細な講義計画は、授業の進行を通じて適宜示します。
授業の進め方	レジュメを用いた講義形式で授業を進めてゆきます。 各テーマごとにフランス民法、ドイツ民法、日本民法の順で講義し、関連条文と翻訳は資料としてレジュメに掲げておきます。
教科書・参考書等	教科書は指定しません。 参考書は初回の講義時に紹介します。また、関連文献はその都度紹介します。
成績評価の方法・基準	小テスト（１０％）、学期末に行う定期試験（９０％）により成績評価を行います。 なお、定期試験では、上記「授業の目的」に対応して、まず、フラン

	ス民法、ドイツ民法における基礎的な概念の理解度を試します。また、ある事例が、フランス、ドイツ、日本でそれぞれどのように解決されるのかを問い、日本法の特色はいかなる点にあるのかを考えてもらいます。
その他（質問・相談方法等）	質問や相談はいつでも受け付けます。
過去の授業評価アンケート	

比較政治学【政治動態分析 II ・基礎】

最終更新日:2017年2月14日

授業科目名	比較政治学【政治動態分析 II ・基礎】	標準年次	3・4
講義題目	比較政治学の基礎	開講学期	後 期
担当教員	大河原・岡崎 伸夫・晴輝	単位数	4単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Comparative Politics
Course Overview	The aim of this course is to acquire the basic knowledge of comparative politics. You are to learn some important concepts indispensable for understanding politics (Part I by Okawara). You are also to learn electoral systems employed in manor countries (Part II by Okazaki).
履修条件	以下の授業科目をすでに履修しているか、今学期に履修していることが望ましい。 １年前期 政治学入門（岡崎教授） １年後期 政治学原論（蓮見准教授） ２年後期 政治学基礎（出水教授） ２年後期 政治理論入門（関口教授） ２年後期 政治動態分析Ｉ・基礎（熊野教授）
授業の目的	◎知識 ・ 理解（50%） 評点Ａ 主要国の選挙制度を正確に理解したうえで、 自身の選挙制度論を丁寧に説明できる。 評点Ｂ 主要国の選挙制度は正確に理解しているが、 自身の選挙制度論は大まかにしか説明できない。 評点Ｃ 主要国の選挙制度は大まかにしか理解していないが、 自身の選挙制度論は丁寧に説明できる。 評点Ｄ 主要国の選挙制度を大まかにしか理解できず、 自身の選挙制度論も大まかにしか説明できない。 評点Ｆ 主要国の選挙制度を理解できていない。 ◎専門的技能（50%） 評点Ａ 諸種の概念を正確に理解したうえで、 それを応用できる。 評点Ｂ 諸種の概念は正確に理解しているが、 それを大まかにしか応用できない。 評点Ｃ 諸種の概念を大まかにしか理解しておらず、 それをほとんど応用できない。 評点Ｄ 諸種の概念を大まかにしか理解しておらず、 それを応用できない。 評点Ｆ 諸種の概念を理解できていない。
授業の概要・計画	第Ｉ部 政治の理論（大河原担当） １ はじめに ２ 通常性 ３ 構成的ルール ４ 象徴システム ５ 言語の種類 ６ 概念メタファー ７ ディスポジション ８ 行動 ９ 集合体 １０ 集合体の行動（１） １１ 集合体の行動（２） １２ 権力(1) １３ 権力(2) １４ 結び

	第Ⅱ部 選挙制度の比較政治学（岡崎担当） １ 序論 ２ 基礎理論（１）：抽選制と選挙制 ３ 基礎理論（２）：選挙制度 ４ 基礎理論（３）：政党システム ５ 「政治改革」再訪（１） ６ 「政治改革」再訪（２） ７ 小選挙区制（１）：イギリス ８ 小選挙区制（２）：イギリス(続) ９ 小選挙区制（３）：オーストラリア １０ 小選挙区制（４）：アメリカ １１ 比例代表制（１）：スイス １２ 比例代表制（２）：ドイツ １３ 比例代表制（３）：イタリア １４ 結論
授業の進め方	一、プリントを配布し、講義形式で進める。 一、授業後に復習をし、不明な点をインターネット等で調査する。
教科書・参考書等	【教科書】 なし 【参考書】 粕谷祐子『比較政治学』（ミネルヴァ書房、2014年）。
成績評価の方法・基準	◎ 知識・理解（50%） 授業の目的に記した基準に照らして、定期試験（第Ⅱ部）で評価する。 ◎ 専門的技能（50%） 授業の目的に記した基準に照らして、定期試験（第Ⅰ部）で評価する。
その他（質問・相談方法等）	2018年度は開講しませんので、ご注意ください。
過去の授業評価アンケート	

憲法II【人権論】

最終更新日:2017年2月10日

授業科目名	憲法II【人権論】	標準年次	2
講義題目	基本権	開講学期	後 期
担当教員	赤坂 幸一	単位数	4単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Constitutional Law II (Grundrechte / Grundrechtstheorie)
Course Overview	Lecture on constitutional rights
履修条件	とくになし。
授業の目的	1）第一に、日本国憲法の定める基本権の保障内容、この基本権の制約が許容される範囲、基本権主体に関する理論的考察など、基本権システムの概要につき、基礎的な知識を習得することを主要な目的とします（「知識・理解の観点」）。 2）第二に、憲法IIを含む憲法の学習に際して、憲法判例を理解するために必要な憲法訴訟上の知識を習得することを目的とします（「専門的技能の修得」）。
授業の概要・計画	以下の通りの概要を予定していますが、講義の進行度合いに応じて変更が生じる可能性もあります。 UNIT 01 基本権総論 Ⅰ 基本権の観念 Ⅱ 基本権の享有主体 Ⅲ 基本権の妥当範囲 1 未成年者・外国人の基本権 2 公務員の基本権 3 私人間効力 4 私法上の関係における基本的人権 Ⅳ 基本的人権の制約 1「公共の福祉」 2 二重の基準論 UNIT 02 個人の尊重と幸福追求権 Ⅰ プライヴァシーの権利 Ⅱ 自己決定権 UNIT 03 平等原則 UNIT 04 思想・良心の自由 UNIT 05 信教の自由と政教分離 UNIT 06 学問の自由 UNIT 07 表現の自由 Ⅰ 営利的言論／わいせつ表現の禁止 Ⅱ 表現の態様規制 Ⅲ 選挙運動の自由 Ⅳ 事前抑制と検閲の禁止 Ⅴ 報道・取材の自由 UNIT 08 集会・結社の自由 UNIT 09 経済活動の自由 Ⅰ 職業の自由 Ⅱ 財産権 UNIT 10 私的生活領域の不可侵・人身の自由 UNIT 11 社会権 Ⅰ 生存権 Ⅱ 教育を受ける権利 Ⅲ 労働基本権

	UNIT 12 国務請求権 Ⅰ 国家補償請求権 Ⅱ 裁判請求権
授業の進め方	下記の教科書をもとにしつつ、講義で配布するレジュメに依拠して進行する。受講生は、事前に配布されるレジュメ及び教科書の指定ページを精読した上で、講義に臨んで下さい。
教科書・参考書等	毛利透『グラフィック憲法入門〔補訂版〕』（新世社、2016年） 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第6版〕』(岩波書店、2015年） 浅野博宣ほか編著『判例プラクティス憲法〔増補版〕』（信山社、2014年）
成績評価の方法・基準	中間試験（40%）及び前期末定期試験（60%）による。後期末定期試験の範囲は、中間試験以降を主としつつも、全講義を出題範囲とする。その際、上述の「授業の目的」に対応して、基本権論に関する基礎的・原理的な理解ができているかを論述式によって評価する。
その他（質問・相談方法等）	講義に関する情報や復習情報などを教員HP（http://blog.livedoor.jp/akasaka_z-kougi/）で提供する場合もありますので、折に触れて参照して下さい。HPを更新した場合には、適宜、twitterでもお知らせいたします。 研究室に来室してのご質問は、事前にメイルをお願いします（宛先はanko@law.kyushu-u.ac.jp）。
過去の授業評価アンケート	

刑法Ⅱ【刑法各論】

最終更新日:2017年3月8日

授業科目名	刑法Ⅱ【刑法各論】	標準年次	2
講義題目	刑法各論	開講学期	後 期
担当教員	松生 光正	単位数	4単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Criminal Law2
Course Overview	In this Lecture the special part of criminal law are discussed.
履修条件	刑法Ⅰ（刑法総論）を履修していること。
授業の目的	刑法典各則に関する解釈論（刑法各論）の基礎的な知識を習得し、個別的事案に刑法を最終的に適用するためには重要な各犯罪類型についての解釈論的な分析能力を身につけることを目的とする。 各論の学習は総論と無関係ではなく、総論で学習する体系的な解釈理論の応用でもあるから、最終的には刑法的事案の解決能力を習得することを目指す。
授業の概要・計画	刑法典各則における犯罪類型の中で、まず個人的法益に対する罪の中で主要な犯罪類型を取り上げ、各構成要件の適用を検討し、争いとなっている重要な問題点については判例・学説を比較検討する。さらに社会的法益に対する罪及び国家的法益に対する罪の中では重要と思われる犯罪類型のみを取り上げ、同様に検討する。 具体的な項目としては、生命・身体に対する罪、自由に対する罪、私的領域の自由・名誉・信用・業務に対する罪、財産罪の基本構造、財産罪の諸類型（１）－窃盗・強盗－、財産罪の諸類型（２）－詐欺・恐喝－、財産罪の諸類型（３）－横領－、財産罪の諸類型（４)－背任－、財産罪の諸類型（５）－盗品等・毀棄－、公共の安全に対する罪、特に放火罪、交通を妨害する罪・わいせつ罪・賭博罪、偽造の罪（１）－文書偽造の罪－、偽造の罪（２）－通貨・有価証券・印章の偽造・支払用カードの不正使用、公務・司法に対する罪、汚職の罪を予定している。
授業の進め方	講義形式で行う。 教科書は使用せず、レジュメを配布する。したがって、受講者はレジメを参考にしながら各自が選択した基本書により、予習・復習することが求められる。
教科書・参考書等	教科書は指定しない。参考書等は授業中に指示する。
成績評価の方法・基準	成績評価は定期試験による。 定期試験においては、授業における学習により習得した事案の解決能力を判定する。
その他（質問・相談方法等）	質問は講義中あるいは講義後に随時受け付けるが、予め予約の上で研究室においても受け付ける。
過去の授業評価アンケート	

紛争管理論

最終更新日:2017年3月21日

授業科目名	紛争管理論	標準年次	3・4
講義題目	裁判外紛争解決手続の理論・実態・技術	開講学期	後 期
担当教員	入江 秀晃	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Conflict Management Theory and Dispute Resolution Practice
Course Overview	This lecture will provide the opportunity to understand theory of conflict management as well as practical mediation skills.
履修条件	特に定めません。他学部受講者、2年生も歓迎します。
授業の目的	紛争管理（conflict management）の理論と、調停技法（mediation skills）、裁判外紛争解決手続（Alternative Dispute Resolution）を学びます。ロールプレイなどの体験的な学習、グループ報告などの学生主体の活動を通じて、認知的にとどまらず、「態度を学ぶ」ことも目的とします。
授業の概要・計画	・紛争管理論（Conflict Management）の基礎的な理論 ・調停（Mediation）の技法 ・現実の紛争解決手続（Dispute Resolution Process）の現状と課題 を、この順で学びます。
授業の進め方	基礎的な知識を提供するために、教員による講義も行います。この説明に用いるパワーポイントは、Webサイトで提供します。期間中に小テストを実施しますが、解説した内容を正しく理解しているかについての基礎的な内容になります。 ライフスキルとも言われ、社会人としても様々な活用シーンが期待できる調停技法を修得するために、かなり時間を取って、体験・参加型のスキルプレイ、ロールプレイといった活動を行っていただきます。他の講義の雰囲気とは多少異なるでしょうが、手順については丁寧に説明した上で実施するので、心配されずに参加してください。 現実の紛争解決手続（ADR）について、課題論文をプレゼンテーションしていただく機会も作ります。 各講義の最後の5分程度を使って、ふりかえりを記入していただきます。（出欠確認あり）
教科書・参考書等	調停技法に関するテキストとしては、教員の連載記事「調停技法誌上講義」（JCAジャーナル）を電子ファイルとして参加者に配付します。 その他の参考文献として、レビン小林久子『解説同席調停』（日本加除出版）、山田文・山本和彦『ADR仲裁法』（日本評論社）を挙げます。 学生報告用の文献についても、電子ファイルとして提供します。
成績評価の方法・基準	小テスト4割、報告3割、授業への参加3割とします。 グループ報告は、学生同士のピア評価を反映します。 概念や理論を正しく理解しているか、実務的に重要となるポイントに対する知識が身についているかとともに、技能及び態度に関しても評価対象とします。
その他（質問・相談方法等）	オフィスアワーは特に設定しませんので、質問等は、授業時間後を含め適宜受け付けます。

過去の授業評価アンケート	

刑事政策

最終更新日:2017年2月23日

授業科目名	刑事政策	標準年次	3・4
講義題目	刑事政策	開講学期	前 期
担当教員	土井 政和	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	criminology and criminal policy
Course Overview	lectures on the causes of crime and criminal policy, prison and rehabilitation systems
履修条件	刑法、刑事訴訟法、少年法を受講している（する）ことが望ましい。2018年度以降、刑事政策（および少年法）は隔年開講となり、2018年度に開講されない可能性がありますので、両科目の履修を検討されている方は、履修計画にあたり、十分注意してください。
授業の目的	１．犯罪や非行の発生原因について多角的な分析ができるようにする。 ２．犯罪や刑事制裁の現状について正確な認識をもてるようにする。 ３．刑事政策と治安政策、福祉政策、教育政策など他の諸政策との関わりを理解し、刑事政策と行為者の人権保障との調和について考えることができるようにする。 ４．犯罪被害者と行為者および社会との相互関係を展望的に形成する思考を身につける。
授業の概要・計画	１．はじめに犯罪の原因やその学説についてアメリカ犯罪学を中心に説明する。しかし、時間の関係上、講義は、犯罪や非行が生じた後の処理の在り方や犯罪対策に重点が置かれる。統制機関の活動と犯罪統計にも言及する。 ２．死刑、自由刑、罰金刑など責任非難に基づく刑罰制度、将来の危険性に対する保安処分、さらには少年に対する保護処分など、さまざまな刑事制裁およびその類似の制度について現状を分析し、理論的な検討を行う。 ３．刑務所制度の歴史、現状、課題を外国の制度と比較しながら分析し、受刑者の権利義務について検討するとともに社会復帰を援助する方策を探る。 ４．犯罪や非行の行為者に対する社会内での保護観察や援助制度について現状を分析し、問題点と課題を明らかにする。とくに、市民の刑事司法への関わりについて検討する。 ５．犯罪の被害者に対する支援と犯罪者の社会復帰援助の相互の関係を広い社会関係の中で分析し、行為者・被害者・社会について展望的視点を提示する。 ６．刑事政策、福祉政策、教育政策、治安政策など国家の行う諸政策の相互関係と刑事司法への市民の自立的関与、ネットワーク形成について検討する。特に、刑事司法と福祉の連携の在り方について検討する。
授業の進め方	１．講義形式ですすめる。時々ビデオを視聴し、その中で提起されている論点を論じ合ったり、また感想文を提出してもらうこともある。 ２．参考書の該当個所は事前に読んでおくこと。 ３．講義のレジュメおよび必要な資料は適宜配布する。
教科書・参考書等	教科書及び参考図書等 １．教科書 特に指定はしない。 ２．参考書 浜井浩一『実証的刑事政策論』岩波書店（2011） 日本犯罪社会学会編『持続可能な刑事政策とは』現代人文社（2012）

	刑事立法研究会編『刑務所改革のゆくえ』現代人文社(2005) 浜井浩一『刑務所の風景』日本評論社(2006) 刑事立法研究会編『更生保護制度改革のゆくえ』現代人文社 (2007) 刑事立法研究会『非拘禁的措置と社会内処遇の課題と展望』現代人文社（2012） 川出敏裕・金光旭『刑事政策」成文堂（2012） 『犯罪白書』平成２８年度版 その他は講義の中で適宜指示する。
成績評価の方法・基準	１．定期試験（80%) ２．小レポート(20%) １と２を総合的に評価する。
その他（質問・相談方法等）	質問は講義後随時受け付ける。または、事前にメール等にてアポをとること。
過去の授業評価アンケート	

民事紛争処理論

最終更新日：2017年3月2日

授業科目名	民事紛争処理論	標準年次	3・4
講義題目	民事紛争処理の可能性と限界	開講学期	後 期
担当教員	上田（竹 志	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	civil dispute resolution
Course Overview	This course aims to outline the possibilities and the limits of civil dispute resolution.
履修条件	特にないが、講義内では民事訴訟法の解釈論について言及することがある。
授業の目的	（知識・理解） 民事紛争の法的処理における、基礎理論に関する理解 （態度・志向性） 法的紛争処理の「正しさ」を自ら批判的に吟味しつつ、その可能性や限界を正当に評価する態度や志向性の醸成
授業の概要・計画	民事訴訟をはじめとする各種紛争処理制度は、その解決内容や手続が正統で、かつ社会にとって受け入れ可能なものである（正しくて役に立つ）ことが必要だが、その正統性や妥当性はどうやって得られるのか。 規範的正統性についていえば、解釈論の基本形である「解釈Ａは解釈Ｂより良い」という場合の、その良いという判断はどのように得られるのか。社会的妥当性についていえば、判決や調停、和解などの紛争解決手段は、どうして社会的紛争を解決する（ことになっている）のか。 こうしたごく基礎的な疑問を、法解釈学と基礎法学の狭間で検討してゆきたい。講義で開陳されるのは、様々な考えの中のone of themに過ぎないので、この講義が、各自で法の基礎的問題を引き受けて考える契機となれば幸いである。 現時点で、講義は以下の順番で進むことを予定しているが、変更の可能性がある。また、番号と講義回数は一致しない。 １ ガイダンス、問題の所在 ２ 民事紛争処理はなぜ正義に適っているのか ３ 民事紛争処理はなぜ紛争を解決するのか ４ 応用問題 ―民事紛争処理プロセスにおける時間とは何か― ５ 民事紛争の当事者とは何か
授業の進め方	講義形式による。
教科書・参考書等	教科書はないので、読むべき文献はその都度指示する。一応の参考書として、以下を挙げる。 和田仁孝『民事紛争処理論』（信山社・1994年） 和田仁孝『法社会学の解体と再生』（弘文堂・1996年） レビン小林久子『調停者ハンドブック』（信山社・1998年）
成績評価の方法・基準	期末レポートを課する。具体的な方法は、講義初回に説明する。 民事紛争の法的処理における基礎理論を理解し、自分なりの観点から（講義で紹介するのは、考え得る検討のごく一部に過ぎない）法的紛争処理の「正しさ」を批判的に吟味しつつ、その可能性や限界を正当に評価する態度や志向性を評価する。
その他（質問・相談方法等）	メール（法学部ＨＰ参照）で、随時質問を受け付ける。

過去の授業評価アンケート	

刑法Ⅰ（刑法総論）

最終更新日:2017年3月7日

授業科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	標準年次	2
講義題目	刑法総論	開講学期	前 期
担当教員	野澤 充	単位数	4単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Criminal Law 1
Course Overview	Lecture on the general part of criminal law
履修条件	特になし。
授業の目的	刑法総論（犯罪論）は、刑法典の総則を対象に、犯罪の成立およびその限界についての一般的な原理（共通原理）を検討するものである。その領域の中で、まず最初に刑法および刑法学についての概論と、刑法学における基本原則、そして犯罪論体系について概観した上で、その犯罪論体系の個別の項目について検討し、さらに修正形式としての未遂犯論、共犯論を取り上げ、最後に罪数論、および刑罰論の一部について講義する。 到達目標としては、「知識・理解・専門的能力」の観点からは(1)事例問題に対処する前提としての、刑法総論に関する一般的な抽象的概念・内容・理論的意義を理解すること、および(2)刑法総論における問題点について認識し、理論的な解決の考え方を習得することが、そして「汎用性能力・態度・志向性」の観点からは、上述の知識や問題点の理解を踏まえて、刑法総論の各論点において、一定の結論を、法理論的な理由も付した上で導くことができることが求められるといえる。
授業の概要・計画	1．刑法および刑法学の意義と機能 2．犯罪論の体系（概論） 3．罪刑法定原則（罪刑法定主義） 4．刑法の適用範囲 5．犯罪論の体系（再論）、構成要件の意味と機能 6．因果関係 7．不作為犯 8．可罰的違法性、違法阻却の一般原理 9．法令または正当業務行為 10．被害者の同意 11．正当防衛 12．緊急避難 13．責任論の基礎 14．故意 15．錯誤 16．過失 17．予備、未遂 18．不能犯と中止犯 19．共犯論の基礎 20．共同正犯 21．教唆犯、従犯 22．共犯論の諸問題 23．罪数論、刑罰論
授業の進め方	レジュメを配布しながら進める予定である。必要に応じて各自で教科書に立ち返りながら、理解を深めて頂きたい。刑法総論では特に一般原理を過度に（＝盲目的に）重視しがちになるが、やはり刑法総論においても具体的結論と結びついた形で、一般原理が歴史的に形成されてきたことを忘れてはならない。それゆえ、できるだけ具体例を想定しながら、問題点について考えて頂きたい。なお、問題形式にも慣れていただくために、確認問題を配布する予定である。
教科書・参考書等	松宮孝明『刑法総論講義〔第5版〕』（成文堂、2017年） ただし、これ以外の教科書を使用して受講しても構わない。詳しくは最初の授業時に説明する。また六法は必ず持参すること。
成績評価の方法・基準	成績評価は定期試験によって行い、その定期試験の中で、上記到達目標でも触れた「刑法総論に関する一般的な抽象的概念・内容・理論的意義の理解」、「その問題点についての理論的な解決の考え方の習得」、および「刑法総論の各論点において一定の結論を法理論的な理由と対応させて導くこと」の到達度を見る。 講義への出席は考慮しない（詳細は最初の授業時に説明する）。小テ

	スト等も行わない（中間試験も行わない予定である）。ただし、各自で自己の到達度を確認するために、自習問題を配布する場合がある（評価には加えない）。なお、平常点を考慮することがある。
その他（質問・相談方法等）	質問等を受けつけるが、時間の関係でアポイントをとって後日対応することがある。
過去の授業評価アンケート	

国際私法特殊講義

最終更新日:2017年2月27日

授業科目名	国際私法特殊講義	標準年次	3・4
講義題目	国際私法	開講学期	前 期
担当教員	八並 廉	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Private International Law
Course Overview	This introductory course on private international law deals with issues relating to international civil proceedings.
履修条件	過去に国際私法を履修した者には単位を認定しない。
授業の目的	関連する法律・学説・裁判例の検討を通じて，国際私法の全体像や仕組みを理解する。
授業の概要・計画	国際的な法律関係をめぐって紛争が生じたときには，その紛争について日本で裁判を起こせるか否かという点が問題になり，日本で裁判できるとしても，その法律関係にどの国の法を適用すべきなのかという点が問題となる。また，その法律関係について外国裁判所が下した判決が存在する場合には，その判決が日本で効力を有するか否かといったことまで問題となる。これらの問題を解決する法が国際私法である。 本講義では，準拠法の決定方法について議論した後に，国際裁判管轄の問題や外国判決の承認・執行の問題を扱う国際民事手続法について議論する（下記「授業の進め方」参照）。
授業の進め方	講義形式による授業を基本とし，質疑応答やディスカッションを適宜取り入れる。 第1回：ガイダンス・国際私法総論(1) 第2回：国際私法総論(2) 第3回：国際私法総論(3) 第4回：国際家族法(1) 第5回：国際家族法(2) 第6回：国際家族法(3) 第7回：国際財産法(1) 第8回：国際財産法(2) 第9回：国際財産法(3) 第10回：国際財産法(4) 第11回：国際財産法(5) 第12回：国際民事手続法(1) 第13回：国際民事手続法(2) 第14回：国際民事手続法(3) 第15回：国際民事手続法(4)・総括
教科書・参考書等	教科書は指定しない。参考書については，講義中に紹介する。また，関連資料を適宜配布する。
成績評価の方法・基準	成績評価は期末試験による。期末試験では、国際私法に関する基礎的な知識・理解をはかる。
その他（質問・相談方法等）	質問・相談等のために面談を希望する場合は、メールでアポイントメントをとること。 授業中・授業後の質問等も適宜受け付ける。
過去の授業評価アンケート	

倒産法特殊講義

最終更新日：2017年3月2日

授業科目名	倒産法特殊講義	標準年次	3・4
講義題目	倒産法	開講学期	後 期
担当教員	浅野 雄太	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Bankruptcy Law
Course Overview	Bankruptcy (especially Liquidation) Law
履修条件	特になし。ただし、担保物権法および債権総論について基礎的な知識を有していることが望ましい。
授業の目的	この講義では、清算型手続を規律する破産法を中心として、各種倒産法・倒産手続について講義する。 到達目標としては、「知識・理解・専門的能力」の観点からは、各用語の定義および重要な問題点に関する判例・学説等を正確に理解することが、「汎用性能力・態度・志向性」の観点からは、上述の理解を踏まえたうえで、具体的な事案を適切に解決できることが求められる。
授業の概要・計画	授業計画は次の通りである。付された番号は講義回数とは一致しない。なお、第１講および第１２講をのぞき、破産手続を中心として講義し、参考となる範囲で民事再生法等再建型手続について取り扱う。 １ イントロダクション、倒産法・倒産処理とは ２ 破産手続の機関 ３ 破産手続の開始（１）開始要件、開始手続 ４ 破産手続の開始（２）開始決定の効果 ５ 破産者に対する権利の取扱い（１）破産債権 ６ 破産者に対する権利の取扱い（２）取戻権・別除権・相殺権 ７ 破産者の有する財産の取扱い（１）破産財団 ８ 破産者の有する財産の取扱い（２）否認権、相殺禁止 ９ 継続中の契約の処理 １０ 破産財団の換価・配当、破産手続の終了 １１ 免責 １２ 補論（再建型手続、私的整理）
授業の進め方	主に講義形式による。適宜レジュメを配布しながら進める予定である。
教科書・参考書等	【教科書】 ・伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選〔第5版〕』（有斐閣・2013年） 【参考書】 ・山本和彦『倒産処理法入門〔第4版〕』（有斐閣・2012年） ・徳田和幸『プレップ破産法〔第6版〕』（弘文堂・2015年） ・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版補訂版〕』（弘文堂・2015年） ・山本克己編著『破産法・民事再生法概論』（商事法務・2012年）
成績評価の方法・基準	期末試験による。講義への出席は考慮しない。小テスト等も実施しない。 期末試験では、上記の授業目的である、各用語の定義や重要な論点に関する判例・学説等の正確な理解、そしてそれらを用いて具体的な事案を解決することのできる応用力を求める。
その他（質問・相談方法等）	質問があれば、授業終了後に来ていただくか、またはメールで受け付けます。アドレスについては初回の授業で連絡します。

過去の授業評価アンケート	

国際取引法

最終更新日:2017年2月27日

授業科目名	国際取引法	標準年次	3・4
講義題目	国際取引法	開講学期	後 期
担当教員	八並 廉	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Law of International Business Transactions
Course Overview	This course deals with rules and customs on the sale of goods, transportation of goods, and their payment having international implications.
履修条件	過去に国際取引法を履修した者には単位を認定しない。
授業の目的	国際取引を規律する規範の全体像や仕組みを理解する。 国際取引の実務や国際慣習を理解する。国際取引に関わる種々の法や国際取引の実務について，基礎的な知識を得る。 具体的な国際取引の事実関係から，法律問題を発見し，その解決方法を考察することができるようになる。
授業の概要・計画	本講義では，物品・資金・技術の移転や役務の提供が国境を越えて行われる取引に関する法律問題を検討する。国家法や国際法に限らず，国際取引に関わるソフト・ローや国際慣習についても議論する。
授業の進め方	講義形式の授業を基本とし，質疑応答やディスカッションを適宜取り入れる。また，受講者の関心に合わせて，議題を追加することも検討する（下記授業計画も適宜調整する）。 第1回：ガイダンス・国際取引法総論 第2-5回：国際売買 第6-8回：国際運送 第9-10回：保険 第11-13回：国際支払・信用状 第14-16回：生産物責任 第17-18回：代理店／販売店 第19-20回：世界貿易機関 第21-23回：投資・技術移転 第24-27回：国際知的財産 第28-29回：国際競争法 第30回：総括
教科書・参考書等	教科書は指定しない。参考書については，講義中に紹介する。また，関連資料を適宜配布する。
成績評価の方法・基準	成績評価は期末試験による。期末試験では国際取引法の基礎的な知識・理解をはかる。
その他（質問・相談方法等）	質問・相談等のために面談を希望する場合は、メールでアポイントメントをとること。 授業中・授業後の質問等も適宜受け付ける。
過去の授業評価アンケート	

西日本新聞特殊講義Ⅰ

最終更新日:2017年2月19日

授業科目名	西日本新聞特殊講義Ⅰ	標準年次	3・4
講義題目	現代社会論	開講学期	前 期
担当教員	田端 良成	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Modern day issues in society
Course Overview	This lecture focuses on strengthening our overview towards society.By widening your knowledge, improving thinking abilities and developing global senses, I look forward to high intellectual performances.
履修条件	特にありません。下記の授業目的やこれまでの授業評価アンケート、学生間での噂話、自らの推測等をもって履修の判断をしてください。 なお、本授業は一つの専門分野について深く深く掘り下げていく手法ではなく、大学生として知っておいておかれた方がよかろうというテーマや素材をランダムに詰め込んでいく、いわば「幕の内弁当」(うまいかどうかは分かりません)のような方式を採ります。鋭角的な探求を志向される方には不向きですので、その点はご留意ください。 また、授業の初回と最終回だけ出席して単位獲得を狙う猛者もいらっしゃるようです。その存在は嫌いではありませんし、その猛者ぶりは卒業後の社会活動において一つの武器にもなり得ますが、今の皆さんにとっては何の蓄積も成果ももたらしませんので、このような方は他の授業を履修される方が賢明です。
授業の目的	正直に胸の内を語れば、「就活で他の名門大学生に競り勝って希望した仕事に就き、必ずや直面するであろうくだらない組織内の人間関係を右にいなし、左にいなす術を学び、活躍の場をグローバルに広げ、ハッピーな人生を送れるような」学生諸君の養成というなんとも小学生チックな表現になってしまうのですが、そのために知のウイングを広げ、時代のベクトルを敏感に嗅ぎ取り、先人の経験談に耳を傾け、国際感覚をわがものにするというのが、なんとも欲張りな本授業の目的です。 その著書が大学入試にたびたび使われることから、皆さんも多少の痛みを感じつつよくご存じであろう元大阪大学総長の鷲田清一氏は、現代社会を評して「『生きる』より『生き延びる』という言葉の方がリアリティがある」と記述しています。旧帝大の権威におもねるつもりはさらさらないのですが、日本国内外の「現場」で地べたを這いずり回ってきたわが身の米粒ほどの職業体験からしても、その時代認識は「仰る通り」と思えるのです。 世界の政財界関係者や識者が集う「ダボス会議」をご存じでしょう。ワシントン支局時代、サミットだの国連総会だのＧ７だのと、各国のシェルパ(官僚)たちが事前に作り上げた「案」を政治家が追認するだけのパフォーマンス的な国際会議には辟易させられましたが、ダボス会議は唯一の例外で、「台本」なしで世界の諸課題が議論されていました。 今年1月の会議で、昨年に引き続き大きなテーマとなったのが、人工知能（ＡＩ）やロボット技術などを軸とする「第４次産業革命」でした。２年連続で同じテーマが討論されることは異例であり、生産性向上の恩恵だけでなく、雇用への影響にも焦点があたり始めているのがその理由です。さらに「今から１０～２０年後、日本の労働人口の４

	９％が人工知能やロボット等で代替可能に」という研究発表が比較的高い信憑性で受け止められ、この中には「行政事務員」が入っていたりします。 「知らなかった」で済むかどうか。皆さんは今、テクノロジーの加速度的な進展によって「経済」「社会」の大変革期に居合わせていることを自覚すべきでしょう。 言葉として露出過剰気味な「〇〇ファースト」。「都民ファースト」や「アスリートファースト」ならいいのですが、「アメリカファースト」をやられると世界も日本もたまったものではありません。日本のメーカーにとってメキシコはタイと並ぶ自動車産業の集積地であることをご存じでしょうか。そこで自動車を製造し、アメリカをはじめとする北米、南米に輸出する。そんなビジネスモデルをけんか腰で潰そうとしているのが、「アメリカファースト」を掲げるトランプ米大統領でしょう。自動車産業は部品製造企業だけでなく、物流や法的サービスなど裾野が広いのが特徴です。メキシコに進出している日系企業は現時点で１０００社を超えています。この企業群の中に、あなたが就職を希望する企業があるかもしれません。 「知らなかった」で済むかどうか。皆さんは今、地球規模で情報を捕捉し、難題に真正面から立ち向かうタフネスさが求められていることを自覚すべきでしょう。 上記は授業で扱うことになろうテーマの一例です。 以下、シラバスの書き方に従って補足すると 【知識・理解の観点から】 ご自分の専門領域を深める一方で、知の地平を広げてみたらどうでしょう。たまたま今まで知らなかったことを知るのは単純に面白いし、それが皆さんの「刺激」となって少しでも「プラス」になれば望外の喜びです。なお授業では、関連する映像も使用します。これまで丸２年の客員教員としての経験を踏まえ、「授業中にスマホを触りたい」「隠れながら他の授業の宿題をやりたい」という誘惑を断ち切ってもらうには、映像使用はかなり効果的との結論に至ったためです。 【国際性の観点から】 「可能なら留学してきたら」というのが担当教員の口癖です。さほど英語ができなくともなんとかなるのはわが身で実証済み。星の数ほどある失敗談を折に触れて話しますが、「自力でなんとかしなければならない状況にわが身を追い込む」ことが留学の醍醐味でもあります。ただ、留学でなくとも国際感覚を磨くことの重要性は上記に記述した通りです。 【人間性・社会性の観点から】 「何それ?」と思われるでしょうが、上記の「くだらない組織内の人間関係を右にいなし、左にいなす術」というのは組織人にとっては欠かせない能力です。「新卒の３０％は３年以内に辞める」という事実は、この能力の欠如が一因とも言えるでしょう。何より、大半の方はご存じないと思いますが、九大の教育憲章には「秀でた人間性、社会性を有する人材を育成する」と明記してあり、教室で大手を振って語ってもよいテーマ、のはずです。 かといって本授業は道徳の時間ではなく、担当教員自身、この観点の前では脱帽するしかありませんので、各界で活躍する数人の先達に登壇してもらい、皆さんの前で現実に即した処世術を語ってもらう予定です。 【職業感覚の観点から】 進路は決まったでしょうか、業種はいかがでしょう。場合によっては大学合格を目指したあの頃の情熱は薄れ、没頭するものが見つからずやきもきしている人がいるかもしれません。別に猛烈サラリーマンを生み出そうとしているのではなく、皆さんが「仕事」というものを具体的にイメージしやすいように、様々な事例を現代社会論という枠組みの中で紹介します。
授業の概要・計画	概形的な授業方法は

	Ａ映像資料＋口述解説(１０回程度) Ｂさまざまなジャンルの実務家による講話(数回) Ｃ皆さんのスケジュールが合えば会社訪問(１回) の３パターンです。 Ｂについてはこれまで、国連人間居住計画の福岡本部長、山崎拓・元自民党副総裁、ラーメン店・一蘭の社長などに講話してもらいました。１７年度も人選とスケジュール調整を進めています。１５、１６年度の会社訪問は「動きのある方がよかろう」との判断からテレビ局を選びました。１７年度は皆さんの希望を踏まえながら決定します。 Ａのラインナップは ①犯罪を予知するコンピューターの存在 ②病気とナノマシンと若返り ③世界牛肉戦争 ④日本の中枢が標的にされているサイバー攻撃の実態 ⑤ファンドマネージャーと実態経済 ⑥ホテルコンシェルジュの生き方 ⑦若手証券マンの１日 などを取り上げる予定です。なお、「旬」な話を取り上げるため、内容の変更が予想されます。ご理解ください。
授業の進め方	この授業の性格上、知識の蓄積がなければ理解できなかったり、ノートに書き写すことに追いまくられるなどといったことはほぼないと思われます。 また、授業概要・授業計画のＡ、Ｂパターンの際、その日に学んだことや感じたことなどを記述し、提出してもらいます。論文チックに書く必要性は全くありませんが、成績評価の判断材料になることを承知しておいてください。
教科書・参考書等	教科書は特にありません。 必要があればその都度、参考図書を紹介します。
成績評価の方法・基準	この授業はほぼ「一話完結」型です。しかし、縦軸が上記「授業の目的」であることは言うまでもありません。成績評価は定期試験と各回ごとの提出文を１対１の比率で判断しますが、 ①現代社会が直面する諸問題を的確に理解しているか ②それを自分の近未来にどう生かそうとするのか ③地球を俯瞰する素養を持てたか などを重点的に評価することとします。 なお、定期試験の際、英語での解答には一定の点数を加点します。教育憲章で「国際性」を重視しているための措置です。
その他（質問・相談方法等）	適宜、質問や相談に応じます。 研究室は旧工学部本館１階。 メールアドレスはtabata.yoshinari.640@m.kyushu-u.ac.jpです。
過去の授業評価アンケート	

西日本新聞特殊講義 II

最終更新日 : 2017年2月20日

授業科目名	西日本新聞特殊講義 II	標準年次	3・4
講義題目	現代社会論	開講学期	後 期
担当教員	田端 良成	単位数	2単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Modern day issues in society
Course Overview	This lecture focuses on strengthening our overview towards society.By widening your knowledge, improving thinking abilities and developing global senses, I look forward to high intellectual performances.
履修条件	(前期と同じです) 特にありません。下記の授業目的やこれまでの授業評価アンケート、学生間での噂話、自らの推測等をもって履修の判断をしてください。 なお、本授業は一つの専門分野について深く深く掘り下げていく手法ではなく、大学生として知っておいておかれた方がよかろうというテーマや素材をランダムに詰め込んでいく、いわば「幕の内弁当」(うまいかどうかは分かりません)のような方式を採ります。鋭角的な探求を志向される方には不向きですので、その点はご留意ください。 また、授業の初回と最終回だけ出席して単位獲得を狙う猛者もいらっしゃるようです。その存在は嫌いではありませんし、その猛者ぶりは卒業後の社会活動において一つの武器にもなり得ますが、今の皆さんにとっては何の蓄積も成果ももたらしませんので、このような方は他の授業を履修される方が賢明です。
授業の目的	(前期と同じです) 正直に胸の内を語れば、「就活で他の名門大学生に競り勝って希望した仕事に就き、必ずや直面するであろうくだらない組織内の人間関係を右にいなし、左にいなす術を学び、活躍の場をグローバルに広げ、ハッピーな人生を送れるような」学生諸君の養成というなんとも小学生チックな表現になってしまうのですが、そのために知のウイングを広げ、時代のベクトルを敏感に嗅ぎ取り、先人の経験談に耳を傾け、国際感覚をわがものにするというのが、なんとも欲張りな本授業の目的です。 その著書が大学入試にたびたび使われることから、皆さんも多少の痛みを感じつつよくご存じであろう元大阪大学総長の鷲田清一氏は、現代社会を評して「『生きる』より『生き延びる』という言葉の方がリアリティがある」と記述しています。旧帝大の権威におもねるつもりはさらさらないのですが、日本国内外の「現場」で地べたを這いずり回ってきたわが身の米粒ほどの職業体験からしても、その時代認識は「仰る通り」と思えるのです。 世界の政財界関係者や識者が集う「ダボス会議」をご存じでしょう。ワシントン支局時代、サミットだの国連総会だのＧ７だのと、各国のシェルパ(官僚)たちが事前に作り上げた「案」を政治家が追認するだけのパフォーマンス的な国際会議には辟易させられましたが、ダボス会議は唯一の例外で、「台本」なしで世界の諸課題が議論されていました。 今年1月の会議で、昨年に引き続き大きなテーマとなったのが、人工知

能（ＡＩ）やロボット技術などを軸とする「第４次産業革命」でした。２年連続で同じテーマが討論されることは異例であり、生産性向上の恩恵だけでなく、雇用への影響にも焦点があたり始めているのがその理由です。さらに「今から１０～２０年後、日本の労働人口の４９％が人工知能やロボット等で代替可能に」という研究発表が比較的高い信憑性で受け止められ、この中には「行政事務員」が入っていたりします。
「知らなかった」で済むかどうか。皆さんは今、テクノロジーの加速度的な進展によって「経済」「社会」の大変革期に居合わせていることを自覚すべきでしょう。

言葉として露出過剰気味な「〇〇ファースト」。「都民ファースト」や「アスリートファースト」ならいいのですが、「アメリカファースト」をやられると世界も日本もたまったものではありません。日本のメーカーにとってメキシコはタイと並ぶ自動車産業の集積地であることをご存じでしょうか。そこで自動車を製造し、アメリカをはじめとする北米、南米に輸出する。そんなビジネスモデルをけんか腰で潰そうとしているのが、「アメリカファースト」を掲げるトランプ米大統領でしょう。自動車産業は部品製造企業だけでなく、物流や法的サービスなど裾野が広いのが特徴です。メキシコに進出している日系企業は現時点で１０００社を超えています。この企業群の中に、あなたが就職を希望する企業があるかもしれません。
「知らなかった」で済むかどうか。皆さんは今、地球規模で情報を捕捉し、難題に真正面から立ち向かうタフネスさが求められていることを自覚すべきでしょう。

上記は授業で扱うことになろうテーマの一例です。
以下、シラバスの書き方に従って補足すると

【知識・理解の観点から】
ご自分の専門領域を深める一方で、知の地平を広げてみたらどうでしょう。たまたま今まで知らなかったことを知るのは単純に面白いし、それが皆さんの「刺激」となって少しでも「プラス」になれば望外の喜びです。なお授業では、関連する映像も使用します。これまで丸２年の客員教員としての経験を踏まえ、「授業中にスマホを触りたい」「隠れながら他の授業の宿題をやりたい」という誘惑を断ち切ってもらうには、映像使用はかなり効果的との結論に至ったためです。

【国際性の観点から】
「可能なら留学してきたら」というのが担当教員の口癖です。さほど英語ができなくともなんとかなるのはわが身で実証済み。星の数ほどある失敗談を折に触れて話しますが、「自力でなんとかしなければならない状況にわが身を追い込む」ことが留学の醍醐味でもあります。ただ、留学でなくとも国際感覚を磨くことの重要性は上記に記述した通りです。

【人間性・社会性の観点から】
「何それ?」と思われるでしょうが、上記の「くだらない組織内の人間関係を右にいなし、左にいなす術」というのは組織人にとっては欠かせない能力です。「新卒の３０％は３年以内に辞める」という事実は、この能力の欠如が一因とも言えるでしょう。何より、大半の方はご存じないと思いますが、九大の教育憲章には「秀でた人間性、社会性を有する人材を育成する」と明記してあり、教室で大手を振って語ってもよいテーマ、のはずです。
かといって本授業は道徳の時間ではなく、担当教員自身、この観点の前では脱帽するしかありませんので、各界で活躍する数人の先達に登壇してもらい、皆さんの前で現実に即した処世術を語ってもらう予定です。

【職業感覚の観点から】
進路は決まったでしょうか、業種はいかがでしょう。場合によっては大学合格を目指したあの頃の情熱は薄れ、没頭するものが見つからずやきもきしている人がいるかもしれません。別に猛烈サラリーマンを生み出そうとしているのではなく、皆さんが「仕事」というものを具体的にイメージしやすいように、様々な事例を現代社会論という枠組

	みの中で紹介します。
授業の概要・計画	(当然のことながら、授業の具体的な舞台回しとなる下記Ａのラインナップは前期と全て異なります) 概形的な授業方法は Ａ映像資料＋口述解説(１０回程度) Ｂさまざまなジャンルの実務家による講話(数回) Ｃ皆さんのスケジュールが合えば会社訪問(１回) の３パターンです。 Ｂについてはこれまで、国連人間居住計画の福岡本部長、山崎拓・元自民党副総裁、ラーメン店・一蘭の社長などに講話してもらいました。１７年度も人選とスケジュール調整を進めています。１５、１６年度の会社訪問は「動きのある方がよかろう」との判断からテレビ局を選びました。１７年度は皆さんの希望を踏まえながら決定します。 Ａのラインナップは ①「Watson」で独走するIBMの世界戦略 ②Pepperが担うビジネスの現場 ③ロシアに見る裏政治の実態 ④日本式生活を輸出せよ ⑤無罪判決１４件の弁護士の生き方 ⑥火山列島の地下に潜むリスク ⑦海外ビジネスマンの悲哀 などを取り上げる予定です。なお、「旬」な話を取り上げるため、内容の変更が予想されます。ご理解ください。
授業の進め方	この授業の性格上、知識の蓄積がなければ理解できなかったり、ノートに書き写すことに追いまくられるなどといったことはほぼないと思われます。 また、授業概要・授業計画のＡ、Ｂパターンの際、その日に学んだことや感じたことなどを記述し、提出してもらいます。論文チックに書く必要性は全くありませんが、成績評価の判断材料になることを承知しておいてください。
教科書・参考書等	教科書は特にありません。 必要があればその都度、参考図書を紹介します。
成績評価の方法・基準	この授業はほぼ「一話完結」型です。しかし、縦軸が上記「授業の目的」であることは言うまでもありません。成績評価は定期試験と各回ごとの提出文を１対１の比率で判断しますが、 ①現代社会が直面する諸問題を的確に理解しているか ②それを自分の近未来にどう生かそうとするのか ③地球を俯瞰する素養を持てたか などを重点的に評価することとします。 なお、定期試験の際、英語での解答には一定の点数を加点します。教育憲章で「国際性」を重視しているための措置です。
その他（質問・相談方法等）	適宜、質問や相談に応じます。 研究室は旧工学部本館１階。 メールアドレスはtabata.yoshinari.640@m.kyushu-u.ac.jpです。
過去の授業評価アンケート	

EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度　シラバス
- 学部生対象（M3:歴史・文化・社会） -

最終更新日：　2017 年　4 月 19 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学講義 V

European History (Lecture V)

講義題目 **前近代西欧における大学と社会**

教授 岡崎 敦

科目ナンバリングコード: LET-HUM2443J

講義コード:
2017 前期
毎週 金曜2限
箱崎 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

前近代西欧における大学の形成と機能について、近年の研究成果をもとに論じる。
大学という高等教育制度は、12世紀半ばの西欧に誕生した。統一化された教育内容・方法、試験や学位付与による質的保証など、近代教育制度の根幹は実は西欧の大学ではじめて生まれたが、大学の存立や機能など、社会や権力との関係については、現在に至るまで大きな変容を何度も重ねてきた。現在の「大学の混迷」も、このような歴史的射程の上にたたねば十全な理解は困難であろう。
この講義では、その誕生から制度化、さらには急速な変容を遂げた12～15世紀を対象に、制度、教師・学生などの大学内の諸問題に限らず、大学を取り巻く社会や権力との関係、さらには知的な活動に従事する専門家、「知識人」のあり方について論じる。

(This course provides an in-depth examination of specific aspects of European Medieval History. The course also touches on relevant topics in the history of universities.)

キーワード:

履修条件:
履修に必要な知識・能力:

授業計画

テキスト:
参考書: 授業中に参考文献目録を配布する。
授業資料:

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	序論	○		
2	1．中世社会の性格と文化・教育問題	○		
3	2．大学システム	○		
4	3．大学の社会的・文化的インパクト	○		
5	4．大学生活	○		
6	おわりに	○		

授業以外での学習に当たって:
学習相談: オフィスアワーの他、個別のランデブ（要事前予約）によって対応する。

到達目標		かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
	B_A-a [人文学の視座の理解] 人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質をある程度理解できる。	人文学の基礎知識を持つ。	人文学の基礎知識に不足する。
	B_B1-g [論理的思考能力] 文献などの収集能力およびフィールドや実験などの研究能力と、それを系統立てて整理する論理的思考能力を、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へ活用できる。	研究の理論的、実証的聖香に関する論理的思考能力を備えた上で、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へ活用できる。	研究の理論的、実証的聖香に関する論理的思考能力を備えた上で、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へある程度活用できる。	研究の理論的、実証的聖香に関する論理的思考能力を備えている。	研究の理論的、実証的聖香に関する論理的思考能力を備えていない。
	B_B2-a [総合把握力] 知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力をある程度身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握することの重要性を理解できる。	知識を総合的かつ有機的に把握することの重要性を理解できない。
	B_C-d [興味関心の幅広さ] 専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲をある程度持つ。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けることの重要性を理解する。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けることの重要性を理解できない

GPA評価	A	B	C	D	F
	授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

観点→ 成績評価方法	B_A-a [人文学の視座の理	B_B1-g [論理的思考能	B_B2-a [総合把握	B_C-d [興味関心の幅広	備考（欠格条件、割合等）

成績評価	↓	解]	力]	力]	さ]	
	期末試験	◎	◎	◎	◎	100

成績評価基準に関わる補足事項：

その他	**その他**： **教職**：教職（社会）（地理歴史） **資格**： **更新日**：2017/3/29 (16:06)

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学演習 I

European History (Seminar I)

講義題目 **西欧前近代社会における権力の表象**

教授　岡崎　敦

科目ナンバリングコード: LET-HUM2435J

講義コード:
2017 前期
毎週 木曜2限
箱崎 演習室 教室
M/J科目 (日本語, French)

授業の概要

西欧前近代社会における権力表象の諸問題を、フランス文献を精読しながら学ぶ。

20世紀末からの歴史学研究において、意識や表象をめぐる議論が大きなうねりとなった。この授業では、現代歴史学の問題構成の変容と同時に、歴史表象のあり方自体について、認識を深めることを目的とする。

権力は、物理的暴力とともに、社会的な正当化機能を内在させているが、そこでは「表象」という次元の重要性を無視できない。特に前近代社会においては、記憶や過去の痕跡が重要な役割を演じる。この授業では、中近世フランスを例として、王権、国家の権力表象のあり方を具体的にたどりながら、「表象」をめぐる近年の歴史学研究の動向への理解を深める。

(In this seminar, students will continue to develop their knowledge and reading skills in history. Students need to interpret a essay written in French on the "representation of powers" for their presentations.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：フランス語読解能力

授業計画

テキスト：Lecoq, Anne-Marie, La symbolique de l'Etat, dans P. Norra, ed., Les lieux de mémoire, La Nation. 2. Le matériel, Paris, 1997, Quarto 1, pp.1217-1251.
参考書：
授業資料：授業中に指示する。

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	ガイダンス。授業の進め方、評価方法等についての説明。取り扱う内容についての説明など。	○		
2	謎のイメージと哲学	○	演習	
3	契約の象徴体系	○	演習	
4	存在の象徴体系	○	演習	
5	行動の象徴体系	○	演習	
6	まとめ	○	演習	

授業以外での学習に当たって：毎回、テクストの予習を行うこと。学期末には、復習を行うこと。
学習相談：オフィスアワーほか、個別のランデヴ（事前予約）によって対応する。

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_A-a [人文学の視座の理解] 人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、ある程度現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を持つ。	人文学の基礎知識に不足する。
B_B1-b [専門文献の解釈] 専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献をある程度解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献について認識を持つ。	専門分野の基本文献についての知識に不足する。
B_B1-c [外国語運用能力] 外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を世界に向って発信できる。	外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を世界に向って発信できる。	外国語の運用能力を高め、ある程度自らの専門的知識を世界に向って発信できる。	専門的知識をえるための、最低限の外国語の運用能力を持つ。	専門的知識をえるための、最低限の外国語の運用能力に不足する。
B_B2-a [総合把握力] 知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力をある程度身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する重要性を認識する。	知識を総合的かつ有機的に把握する重要性を認識することに問題がある。
B_B2-f [社会との関わり] 社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考える能力を身に付ける。	社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考える能力を身に付ける。	社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考える能力をある程度身に付ける。	社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考えることの重要性を認識している。	社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考えることの重要性を認識することが不足している。
B_C-d [興味関心の幅広さ] 専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲をある程度持つ。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付ける重要性を認識している。	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付ける重要性の認識が不足する。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-a [人文学の視座の理解]	B_B1-b [専門文献の解釈]	B_B1-c [外国語運用能力]	B_B2-a [総合把握力]	B_B2-f [社会との関わり]	B_C-d [興味関心の幅広さ]	備考（欠格条件、割合等）
プレゼンテーション	○	◎	◎	○	○	◎	80
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	○	○	10
レポート	○	○	○	◎	○	◎	10

成績評価基準に関わる補足事項：

その他

その他：

教職：教職（社会）（地理歴史）
資格：

更新日：2017/2/24 (17:16)

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学演習 II

European History (Seminar II)

講義題目 **フランス中世史料研究**

教授 岡崎 敦

科目ナンバリングコード: LET-HUM2436J

講義コード:
2017 後期
毎週 木曜2限
箱崎 演習室 教室
M/J科目 (日本語, French)

授業の概要

フランス中世史関連のさまざまな史料を読解しながら、史料取り扱いの技術を学ぶとともに、中世史の基礎知識を身につける。
歴史学研究の基礎は、史料の正しい読解にあり、そのためには多くの多様な史料に触れながら、要求されるさまざまな技術を身につけねばならない。ここでは、フランス中世史に素材をとって、文書や年代記、法典、会計簿などのさまざまな類型の史料を読解し、政治・経済・宗教などの多様な中世世界がどのように史料に現れているのかを体験する。具体的には、フランスで出版されているさまざまな教育用史料集に素材をもとめて、そこから選択された史料の本文、およびそこに付された注釈の読解によって進める。また、固有名詞や述語をはじめとする基礎知識については、個別に調査と発表を求める。

(This course aims to familiarize students with the source materials available for the study of French Medieval History.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：フランス語、ラテン語読解能力

授業計画

テキスト：フランスで刊行されている中世資料集から、関係資料を抜粋して使用する。
参考書：
授業資料：授業中に指示する。

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	ガイダンス。授業の進め方、評価方法等についての説明。取り扱う内容についての説明など。	○		
2	政治資料	○	演習	
3	法制資料	○	演習	
4	経済資料	○	演習	
5	思想資料	○	演習	
6	まとめ	○	演習	

授業以外での学習に当たって：毎回、テクストの予習を行うこと。学期末には、復習を行うこと。
学習相談：オフィスアワーのほか、個別のランデヴ（事前予約）で対応する。

到達目標		かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
	B_A-d [資料の理解] 史資料・文献・作品の分析と解釈、および実地調査などに基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	史資料・文献・作品の分析と解釈などに基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	史資料・文献・作品の分析と解釈などに基づいて、ある程度、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	史資料・文献・作品の分析と解釈などが、最低限度行える。	史資料・文献・作品の分析と解釈などを行うための、基礎的な知識や技能に欠ける。
	B_B1-b [専門文献の解釈] 専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を、ある程度解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を、最低限度解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を、解釈、分析するための知識や技能に欠ける。
	B_B1-c [外国語運用能力] 外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を世界に向って発信できる。	外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を世界に向って発信できる。	外国語の運用能力を高め、ある程度、自らの専門的知識を世界に向って発信できる。	外国語によって、専門文献や資料を読解することができる。	外国語の専門文献や資料を理解することができない。
	B_B1-e [専門資料の分析] 専門分野で必要な史資料や文献を収集、分析して、その内容を自分の言葉で精確に表現できる。	専門分野で必要な史資料や文献を収集、分析して、その内容を自分の言葉で精確に表現できる。	専門分野で必要な史資料や文献を収集、分析して、ある程度、その内容を自分の言葉で表現できる。	専門分野で必要な史資料や文献を収集、分析することができる。	専門分野で必要な史資料や文献を収集、分析することができない。
	B_B2-d [専門的思考方法] 専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得する。	専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得する。	専門分野の内容に関するある程度の理解と、学問固有の思考方法を獲得する。	専門分野の内容に関してある程度理解している。	専門分野の内容に関する理解と、学問固有の思考方法を獲得できない。
	B_C-a [積極性] 自ら進んで新しい	自ら進んで新しい問題に取り組む積	ある程度、自ら進んで新しい問題に取	新しい問題に取り組む積極性を持つ	自ら進んで新しい問題に取り組む積

	問題に取り組む積極性を持つ。	極性を持つ。	り組む積極性を持つ。	ように努力している。	極性に欠ける。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-d [資料の理解]	B_B1-b [専門文献の解釈]	B_B1-c [外国語運用能力]	B_B1-e [専門資料の分析]	B_B2-d [専門的思考方法]	B_C-a [積極性]	備考（欠格条件、割合等）
プレゼンテーション	◎	◎	◎	◎	◎	◎	80
授業への貢献度	○	◎	○	○	◎	◎	10
レポート	◎	◎	◎	◎	◎	◎	10

成績評価基準に関わる補足事項：

その他

その他：

教職：教職（社会）（地理歴史）
資格：

更新日：2017/2/24 (17:17)

文学部 人文学科 文学コース
独文学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択科目
対象学年:
対象学部等:

ドイツ文学講義 I

German Literature (Lecture I)

講義題目 **恋愛と読書**

教授 小黒 康正

科目ナンバリングコード: LET-HUM2631J

講義コード: 17052106
2017 前期
毎週 火曜2限
箱崎 204 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

恋愛を主題とするヨーロッパの文学作品には、主人公の読書の姿をさりげなく描くものが多い。文学における新しい美の創造は、新しい「恋愛観」の提示であるばかりではなく、新しい「読書観」の検証でもある。本講義では、「愛すること」と「読むこと」との混淆という視点から、ヨーロッパ文学の名著をひもとく。具体的には『ドン・キホーテ』、『若きウェルテルの悩み』、『赤と黒』などを中心に扱い、併せて近現代日本文学の『三四郎』、『友情』、『ノルウェイの森』と比較検討する。

(This lecture course focuses on selected works by Cervantes, Wieland, Goethe, Stendhal, Maupassant, Thomas Mann, Soseki Natsume, Saneatsu Mushano, Haruki Murakami in order to provide an overview of the basic perspectives and concepts of live and reading in modern European and Japanese literature.)

キーワード：恋愛、読書、セルバンテス、ヴィーラント、ゲーテ、スタンダール、モーパッサン、トーマス・マン、夏目漱石、武者小路実篤、村上春樹

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

テキスト：①夏目漱石『三四郎』〔新潮文庫〕、②ヴィーラント『王子ビリビンカー物語』〔同学社、小黒康正訳〕、③ゲーテ『若きウェルテルの悩み』〔新潮文庫、高橋義孝訳〕は、必ず購入してください。他の作品に関しましては、各自の判断に任せます。
参考書：小黒康正『水の女　トポスへの船路』、九州大学出版会、2012年。
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	導入	○		
2	夏目漱石『三四郎』（1908）〔新潮文庫〕	○		
3	武者小路実篤『友情』（1919）〔新潮文庫〕	○		
4	村上春樹『ノルウェイの森』（1987）〔講談社文庫、上・下〕	○		
5	セルバンテス『ドン・キホーテ』（1605、1615）〔岩波文庫、正編一～三、永田寛定訳〕	○		

授業計画

6	ヴィーラント『王子ビリビンカー物語』（1764）①〔同学社、小黒康正訳〕	○		
7	ヴィーラント『王子ビリビンカー物語』（1764）〔同学社、小黒康正訳〕②	○		
8	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』（1774）①〔新潮文庫、高橋義孝訳〕	○		
9	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』（1774）②〔新潮文庫、高橋義孝訳〕	○		
10	ゲーテ『親和力』（1809）〔講談社文芸文庫、柴田翔訳〕	○		
11	スタンダール『赤と黒』（1830）〔新潮文庫、上・下、小林正訳〕	○		
12	モーパッサン『女の一生』（1883）〔新潮文庫、新庄嘉章訳〕	○		
13	トーマス・マン『魔の山』（1924）①〔新潮文庫、上・下、高橋義孝訳〕	○		
14	トーマス・マン『魔の山』（1924）②〔新潮文庫、上・下、高橋義孝訳〕	○		
15	（１５）まとめ	○		

授業以外での学習に当たって：

学習相談：本授業の終了後、ならびにオフィスアワー（火曜３限）にて相談に応じる。

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_A-a [人文学の視座の理解] 人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	講義内容に関する問題を十全に説明できる。	講義内容に関する問題を充分に説明できる。	講義内容に関する問題を概ね説明できる。	講義内容に関する問題を説明できない。
B_B2-c [思考能力] 専門分野に固有の問題設定や研究手法を正しく身に付けることができる。	みずからの思索をみずからの言葉でかなりよく論述できる。	みずからの思索をみずからの言葉でよく論述できる。	みずからの思索をみずからの言葉で概ね論述できる。	みずからの思索をみずからの言葉で論述できない。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-a [人文学の視座の理解]	B_B2-c [思考能力]	備考（欠格条件、割合等）
小テスト	○	○	
レポート	◎	◎	

成績評価基準に関わる補足事項：平常点50%＋レポート50%（レポートの執筆要領ならびに採点基準を授業中に数回にわけて説明する）

その他

その他：基本的に講義形式の授業です。但し、授業中に何度か書いてもらうレスポンスペーパーを通じて、講師と学生との相互交流を図り、授業が一方通行にならないように努めます。

教職：教職（ドイツ語）
資格：

更新日：2017/3/2 (20:47)

文学部 人文学科 哲学コース
美学・美術史 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択科目
対象学年:
対象学部等:

西洋美術史講義 VII

History of Occidental Fine Arts (Lecture VII)

講義題目 **凱旋門と活人画**

准教授　京谷 啓徳

科目ナンバリングコード: LET-HUM4271J
講義コード: 17051102
2017 前期
毎週 月曜2限
箱崎 202 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

活人画とはフランス語「tableaux vivants（生きている絵画）」の翻訳語であり、衣裳を身に着けた人物が静止した状態で絵画を再現するパフォーマンスを意味する。明治期の日本には各種西洋風俗が流入したが、その一つである活人画は当時たいへんな流行を見た。そして明治の人々が活人画に打ち興じていたちょうどその頃、日清日露の戦勝を祝賀して全国に陸続と建設されたのが凱旋門であった。凱旋門と活人画、このまったく無関係に思える二つの西洋風俗は、実はかつて、ルネサンス期のヨーロッパにおいて分かちがたく結びついていた。両者は一体となってルネサンス宮廷の君主のスペクタクルを形作っていたのだ。本講義では「凱旋門と活人画」という新たな視点から、ルネサンス宮廷文化と近代日本をつなぐ糸を探ってみたい。

(This course examines the triumphal arches and living pictures from Renaissance to modern.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：
参考書：
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	はじめに	○		
2	ルネサンスのはりぼて凱旋門	○		
3	ルネサンスの活人画１	○		
4	ルネサンスの活人画２	○		
5	ポッセッソー新教皇のスペクタクル１	○		
6	ポッセッソー新教皇のスペクタクル２	○		
7	近代の活人画１	○		
8	近代の活人画２	○		
9	近代の活人画３	○		
10	明治のはりぼて凱旋門	○		
11	明治３６年の活人画	○		

12	額縁ショウをめぐって	○		

授業以外での学習に当たって：
学習相談：

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_B1-d [専門的研究手法] 人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	凱旋門と活人画に関する研究手法についてきわめて卓越した理解を得る。	凱旋門と活人画に関する研究手法について卓越した理解を得る。	凱旋門と活人画に関する研究手法について理解を得る。	凱旋門と活人画に関する研究手法についてそれなりの理解を得る。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_B1-d [専門的研究手法]	備考（欠格条件、割合等）
期末試験	○	

成績評価基準に関わる補足事項：

その他

その他：本科目は宗教文化士受験認定科目です（http://www.cerc.jp/）

教職：教職（社会）（地理歴史）
資格：

更新日：2017/3/24 (12:35)

文学部 人文学科 哲学コース
美学・美術史 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択科目
対象学年:
対象学部等:

西洋美術史演習 VII

History of Occidental Fine Arts (Seminar VII)

講義題目 **西洋美術史研究**

准教授　京谷 啓徳

科目ナンバリングコード: LET-HUM4273J

講義コード: 17051201
2017 前期
毎週 月曜3限
箱崎 美学研 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

西洋美術史に関する英語文献を講読する。

(Through an in-depth study of a selected topic in western art history, students will acquire and develop the practical specialist knowledge and skills needed for research in western art history.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：
参考書：
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	ヤーコプ・ブルクハルト『ルネサンス期イタリアの祭壇画』の講読をおこなう予定。	○		

授業以外での学習に当たって：
学習相談：

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_B1-b [専門文献の解釈] 専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	研究史と方法論についてきわめて卓越した理解を得る。	研究史と方法論について卓越した理解を得る。	研究史と方法論について理解を得る。	研究史と方法論についてそれなりの理解を得る。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

				行った。

成績評価			
	観点→ 成績評価方法 ↓	B_B1-b [専門文献の解釈]	備考（欠格条件、割合等）
	出席	○	
	プレゼンテーション	○	

成績評価基準に関わる補足事項：

その他
その他： **教職**： **資格**： **更新日**：2017/2/17 (17:42)

文学部 人文学科 哲学コース
美学・美術史 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択科目
対象学年:
対象学部等:

西洋美術史講義 VIII

History of Occidental Fine Arts (Lecture VIII)

講義題目 **ローマ－都市と美術**

准教授　京谷 啓徳

科目ナンバリングコード: LET-HUM4272J

講義コード:
2017 後期
毎週 月曜2限
箱崎 202 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

都市ローマは、古代ローマ帝国の都として創建されて以来、2000年以上の時をかけて、皇 帝や教皇、イタリア国王など時々の権力者たちによって作り上げられた「芸術作品」であるといえる。この講義では、ローマに残された美術作品を通史的に紹介するとともに、都市の形、古代遺跡や教会、宮殿といった建築物、あるいはそれら建築物を飾る絵画彫刻に刻み込まれた権力者の存在について考えてみる。

(This course examines the relation between roman art and the authorities from antiquity to the 20th Century.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：
参考書：
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	イントロダクション	○		
2	古代１－建築その１	○		
3	古代２－建築その２	○		
4	古代３－彫刻・絵画	○		
5	初期キリスト教時代	○		
6	巡礼とローマ－ローマの七教会	○		
7	初期ルネサンス１－サン・ピエトロ大聖堂ブロンズ扉、ニコリーナ礼拝堂	○		
8	初期ルネサンス２－システィーナ礼拝堂、シクストゥス墓碑	○		
9	期ルネサンス１－ラファエロとミケランジェロの活動	○		
10	盛期ルネサンス２－神々の館ヴィラ・ファルネジーナ	○		

11	バロック１ －教皇による都市改造	○		
12	バロック２ －ベッリーニとボッロミーニ	○		
13	近代のローマ	○		

授業以外での学習に当たって：
学習相談：

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_B1-d [専門的研究手法] 専門分野に固有の問題設定や研究手法を正しく身に付けることができる。	権力と美術の関係に関する研究手法についてきわめて卓越した理解を得る。	権力と美術の関係に関する研究手法について卓越した理解を得る。	権力と美術の関係に関する研究手法について理解を得る。	権力と美術の関係に関する研究手法についてそれなりの理解を得る。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_B1-d [専門的研究手法]	備考（欠格条件、割合等）
期末試験	○	

成績評価基準に関わる補足事項：

その他

その他：本科目は宗教文化士受験認定科目です（http://www.cerc.jp/）

教職：
資格：

更新日：2017/3/24 (12:35)

文学部 人文学科 哲学コース
美学・美術史 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択科目
対象学年:
対象学部等:

西洋美術史演習 VIII

History of Occidental Fine Arts (Seminar VIII)

講義題目 **西洋美術史研究**

准教授　京谷 啓徳

科目ナンバリングコード: LET-HUM4274J

講義コード:
2017 後期
毎週 月曜3限
箱崎 美学研 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

西洋美術史に関する英語文献を講読する。

(Through an in-depth study of a selected topic in western art history, students will acquire and develop the practical specialist knowledge and skills needed for research in western art history.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：
参考書：
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	ヤーコプ・ブルクハルト『ルネサンス期イタリアの祭壇画』の講読をおこなう予定。	○		

授業以外での学習に当たって：
学習相談：

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_B1-b [専門文献の解釈] 専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	研究史と方法論についてきわめて卓越した理解を得る。	研究史と方法論について卓越した理解を得る。	研究史と方法論について理解を得る。	研究史と方法論についてそれなりの理解を得る。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

				行った。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_B1-b [専門文献の解釈]	備考（欠格条件、割合等）
出席	○	
プレゼンテーション	○	

成績評価基準に関わる補足事項：

その他

その他：

教職：

資格：

更新日：2017/2/17 (17:45)

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学講義 I

European History (Lecture I)

講義題目 **第一次世界大戦と現代の幕開け**

講師　今井 宏昌

科目ナンバリングコード: LET-HUM2431J

講義コード: 17054305
2017 前期
毎週 木曜4限
箱崎 204 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

第一次世界大戦は現代の幕開けを告げる歴史的な出来事とされ、近年の歴史学においても、この戦争が後世に何を遺したのかが重要な論点となっている。
本講義では、第一次世界大戦がヨーロッパ社会にもたらした変化について、その背景や経緯とともに概観する。具体的には、総力戦体制の構築、革命と女性の社会進出、国際秩序の再編、兵士の戦争経験、労働者文化とモダニズムなどの問題を中心に、第一次世界大戦がいかなる意味で人類最初の「世界戦争」であり「大戦」であったのかについての理解を促す。

(This course provides an in-depth examination of specific aspects of Modern and Contemporary European History. The course also touches on relevant topics in the History of World War I and its aftermath.))

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：
参考書：木谷勤『帝国主義と世界の一体化』(山川出版社、1997年)
木畑洋一『二〇世紀の歴史』(岩波新書、2014年)
木村靖二『第一次世界大戦』(ちくま新書、2014年)
その他、授業中に適宜紹介する。
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	はじめに	○		
2	帝国主義と世界の一体化	○		
3	総力戦体制の構築	○		
4	革命と女性の社会進出	○		
5	国際秩序の再編	○		
6	兵士の戦争経験	○		
7	労働者文化とモダニズム	○		
8	おわりに	○		

授業以外での学習に当たって：

学習相談：オフィスアワーのほか、必要であれば個別に面談（その際、事前に連絡すること）。

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_A-a [人文学の視座の理解] 人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質をある程度理解できる。	人文学の基礎知識を持つ。	人文学の基礎知識に不足する。
B_A-e [現代世界の理解] 現代世界における様々な人文現象や社会問題を、批判的視点から理解し説明できる。	第一次世界大戦との関連から、現代世界における様々な人文現象や社会問題を、批判的視点から理解し説明できる。	第一次世界大戦との関連から、現代世界における様々な人文現象や社会問題をある程度理解し説明できる。	第一次世界大戦と現代世界における様々な人文現象や社会問題との関連について理解できる。	第一次世界大戦と現代世界における様々な人文現象や社会問題との関連についての理解に不足する。
B_B2-a [総合把握力] 人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力をある程度身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握することの重要性を理解できる。	知識を総合的かつ有機的に把握することの重要性を理解できない。
B_B2-c [思考能力] 知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力を身に付ける。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力をある程度身に付ける。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力についての理解がある。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力についての理解に欠ける。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-a [人文学の視座の理解]	B_A-e [現代世界の理解]	B_B2-a [総合把握力]	B_B2-c [思考能力]	備考（欠格条件、割合等）
期末試験	◎	◎	◎	◎	100

	成績評価基準に関わる補足事項：
その他	**その他**： **教職**：教職（社会）（地理歴史） **資格**： **更新日**：2017/2/28 (11:59)

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学演習 IX

European History (Seminar IX)

講義題目 **第一次世界大戦における前線の日常**

講師　今井 宏昌

科目ナンバリングコード: LET-HUM3443J

講義コード: 17051107
2017 前期
毎週 月曜2限
箱崎 演習室 教室
M/J科目 (日本語, German)

授業の概要

近年の歴史学では、人びとが自分自身の心情やその経験を綴った日記、手紙、回想録などのエゴ・ドキュメントに注目が集まっている。
本演習では、第一次世界大戦下のドイツ兵たちが記した野戦郵便を題材としたドイツ語講読をおこなう。
テキストには、概説ならびに史料集として定評のあるベルント・ウルリヒ／ベンヤミン・ツィーマン編『第一次世界大戦における前線の日常』を採用する。
演習中は文法の確認のほか、同時代の背景や文脈、歴史用語や専門用語などを適宜解説する。

(In this seminar, students will continue to develop their knowledge and reading skills in history. Students need to interpret an essay and documents written in German on the "Everyday Life of German Soldiers in World War I" for their presentations.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：Bernd Ulrich / Benjamin Ziemann (Hgg.), Frontalltag im Ersten Weltkrieg. Ein Historisches Lesebuch, Essen：Klartext, 2008.
参考書：トーマス・キューネ／ベンヤミン・ツィーマン編（中島浩貴［ほか］訳）『軍事史とは何か』（原書房、2017年）
長谷川貴彦『現代歴史学への展望：言語論的転回を超えて』（岩波書店、2016年）
槇原茂編『個人の語りがひらく歴史：ナラティヴ／エゴ・ドキュメント／シティズンシップ』（ミネルヴァ書房、2014年）
その他、授業中に適宜紹介する。
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	テキストに関する説明	○	演習	
2	テキストの読解	○	演習	
3	テキストに関する討論	○	演習	

授業以外での学習に当たって：毎週テキストの指定部分を事前に通読し、不明な点や疑問に思う点などを予め確認しておくこと。
学習相談：オフィスアワーのほか、必要であれば個別に面談（その際、事前に連絡すること）。

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_A-c [言葉の理解] 「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深める。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントに綴られた「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深める。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントに綴られた「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりをもつ。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントに綴られた「言葉」を理解する。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントに綴られた「言葉」を理解できない。
B_A-d [資料の理解] 史資料・文献・作品の分析と解釈、および実地調査などに基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントおよびそれに関する議論の分析と解釈に基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントおよびそれに関する議論の分析と解釈に基づいて、世界における文化・歴史・社会へと思考を展開することができる。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントおよびそれに関する議論を分析・解釈できる。	ドイツ兵のエゴ・ドキュメントおよびそれに関する議論を分析・解釈できない。
B_B1-b [専門文献の解釈] 専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献をある程度解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を邦訳することができる。	専門分野の基本文献を邦訳することができない。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-c [言葉の理解]	B_A-d [資料の理解]	B_B1-b [専門文献の解釈]	備考（欠格条件、割合等）
プレゼンテーション	◎	◎	◎	60%ほど。
授業への貢献度	◎	◎	○	40%ほど。
出席				5回以上の欠席は除籍とする。

	成績評価基準に関わる補足事項：
その他	**その他**： **教職**：教職（社会）（地理歴史） **資格**： **更新日**：2017/2/28 (19:13)

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学講義 II

European History (Lecture II)

講義題目 **ナチズムと第二次世界大戦**

講師　今井 宏昌

科目ナンバリングコード: LET-HUM2432J

講義コード:
2017 後期
毎週 木曜4限
箱崎 204 教室
J科目 (日本語, 日本語)

授業の概要

ナチズムが第一次世界大戦後のドイツで誕生し、何千万人もの命を奪った第二次世界大戦の引き金を引いたことは、今なお歴史学にとっての重要テーマである。
本講義では、そうしたナチズムの台頭と第二次世界大戦の勃発を、同時代のヨーロッパと世界の動きのなかで確認しながら、そこでいかなる殺戮行為がおこなわれたのか、またそうした過去を戦後ドイツの人びとがどのように受け止めたのかを概観する。

(This course provides an in-depth examination of specific aspects of Modern and Contemporary European History. The course also touches on relevant topics in the History of National Socialism and World War II.))

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：
参考書：石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社現代新書、2015年）
木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波新書、2014年）
芝健介『ホロコースト：ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』（中公新書、2008年）
その他、授業中に適宜紹介する。
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	はじめに	○		
2	ナチズムの台頭	○		
3	ナチズムの権力掌握	○		
4	ナチズムの政治	○		
5	第二次世界大戦の勃発	○		
6	ナチ・ジェノサイドの実態	○		
7	戦後ドイツの「過去の克服」	○		
8	おわりに	○		

授業以外での学習に当たって：

学習相談：オフィスアワーのほか、必要であれば個別に面談（その際、事前に連絡すること）。

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_A-a [人文学の視座の理解] 人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。	人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質をある程度理解できる。	人文学の基礎知識を持つ。	人文学の基礎知識に不足する。
B_A-e [現代世界の理解] 現代世界における様々な人文現象や社会問題を、批判的視点から理解し説明できる。	ナチズム・第二次世界大戦との関連から、現代世界における様々な人文現象や社会問題を、批判的視点から理解し説明できる。	ナチズム・第二次世界大戦との関連から、現代世界における様々な人文現象や社会問題をある程度理解し説明できる。	ナチズム・第二次世界大戦と現代世界における様々な人文現象や社会問題との関連について理解できる。	ナチズム・第二次世界大戦と現代世界における様々な人文現象や社会問題との関連についての理解に不足する。
B_B2-a [総合把握力] 人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握する能力をある程度身に付ける。	知識を総合的かつ有機的に把握することの重要性を理解できる。	知識を総合的かつ有機的に把握することの重要性を理解できない。
B_B2-c [思考能力] 知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力を身に付ける。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力をある程度身に付ける。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力についての理解がある。	人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力についての理解に欠ける。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-a [人文学の視座の理解]	B_A-e [現代世界の理解]	B_B2-a [総合把握力]	B_B2-c [思考能力]	備考（欠格条件、割合等）
期末試験	◎	◎	◎	◎	100

	成績評価基準に関わる補足事項：
その他	**その他**： **教職**：教職（社会）（地理歴史） **資格**： **更新日**：2017/2/28 (12:00)

文学部 人文学科 歴史学コース
西洋史学 専門分野
専門分野科目 (単位数 2)
選択必修科目
対象学年:
対象学部等:

ヨーロッパ史学演習 X

European History (Seminar X)

講義題目 **第二次世界大戦末期におけるナチ体制の自壊**

講師　今井 宏昌

科目ナンバリングコード: LET-HUM3443J

講義コード:
2017 後期
毎週 月曜2限
箱崎 演習室 教室
M/J科目 (日本語, German)

授業の概要

近年のドイツ現代史研究・ナチズム研究では、「民族共同体［Volksgemeinschaft］」という理念・スローガンが、「想像の秩序」として機能し、ナチ体制下の人びとの行為・実践を規定していたとの議論がさかんである。
本演習では、そうした近年の「民族共同体」論の蓄積を踏まえながら、第二次世界大戦末期におけるナチ体制の自壊を検討した論文、パトリック・ヴァーグナー「「古参闘士」の最後の戦場：第二次世界大戦末期におけるナチ・アクティヴィストたちの孤立・共同体化・暴力」をテキストに、ドイツ語講読をおこなう。
演習中は文法の確認のほか、同時代の背景や文脈、歴史用語や専門用語などを適宜解説する。

(In this seminar, students will continue to develop their knowledge and reading skills in history. Students need to interpret an essay written in German on the "Self-Destruction of the Nazi Regime" for their presentations.)

キーワード：

履修条件：
履修に必要な知識・能力：

授業計画

テキスト：Patrick Wagner, Die letzte Schlacht der »alten Kämpfer«. Isolation, Vergemeinschaftung und Gewalt nationalsozialistischer Aktivisten in den letzten Kriegsmonaten 1945, in: Mittelweg 36, Jg. 24 (2015), H. 4, S. 25-50.
参考書：デートレフ・ポイカート（木村靖二／山本秀行訳）『ナチス・ドイツ　ある近代の社会史：ナチ支配下の「ふつうの人びと」の日常』（改装版、三元社、2005年）
小野寺拓也「ナチ「民族共同体」論の射程：道徳・感情という視点から」『ゲシヒテ』9号（2016年）
南利明『ナチス・ドイツの社会と国家：民族共同体の形成と展開』（勁草書房、1998年）
その他、授業中に適宜紹介する。
授業資料：

	進度・内容・行動目標等	講義	演習・その他	授業時間外学習
1	テキストに関する説明	○	演習	
2	テキストの読解	○	演習	
3	テキストに関する討論	○	演習	

授業以外での学習に当たって：毎週テキストの指定部分を事前に通読し、不明な点や疑問に思う点などを予め確認しておくこと。

学習相談：オフィスアワーのほか、必要であれば個別に面談（その際、事前に連絡すること）。

到達目標

	かなり優れている	優れている	及第である	一層の努力が必要
B_A-c [言葉の理解] 「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深める。	ドイツ語論文で使用される「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深める。	ドイツ語論文で使用される「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりをもつ。	ドイツ語論文で使用される「言葉」の意味を理解する。	ドイツ語論文で使用される「言葉」の意味を理解できない。
B_A-d [資料の理解] 史資料・文献・作品の分析と解釈、および実地調査などに基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	ドイツ語論文において引用された資料およびそれに関する議論の分析と解釈に基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。	ドイツ語論文において引用された資料およびそれに関する議論の分析と解釈に基づいて、世界における文化・歴史・社会へと思考を展開することができる。	ドイツ語論文において引用された資料およびそれに関する議論を分析・解釈できる。	ドイツ語論文において引用された資料およびそれに関する議論を分析・解釈できない。
B_B1-b [専門文献の解釈] 専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献をある程度解釈、分析することができる。	専門分野の基本文献を邦訳することができる。	専門分野の基本文献を邦訳することができない。

GPA評価

A	B	C	D	F
授業を通じて、総じて「かなり優れている」に相当する活動を行った。	授業を通じて、概ね「優れている」を超える活動を行った。	授業を通じて、「及第する」に相当する活動を行った。	授業を通じて、総じて「及第する」には達しないものの、それに近い活動を行った。	授業を通じて、「一層の努力が必要」の活動にとどまった。

成績評価

観点→ 成績評価方法 ↓	B_A-c [言葉の理解]	B_A-d [資料の理解]	B_B1-b [専門文献の解釈]	備考（欠格条件、割合等）
プレゼンテーション	◎	◎	◎	60%ほど。
授業への貢献度	◎	◎	○	40%ほど。
出席				5回以上の欠席は除籍とする。

	成績評価基準に関わる補足事項：
その他	**その他**： **教職**：教職（社会）（地理歴史） **資格**： **更新日**：2017/2/28 (19:14)

国際教育論 I　エドワード・ヴィッカーズ

Education and modern state formation in Europe, Asia and North America – course summary

The course begins in **Week 1** with an overview of education and state formation in Europe and Asia, focusing especially on the legacy of pre-1800 developments – for example, the traditional role of the Church as a sponsor of learning in Europe, and the relationship between family and state in 'Confucian' thinking about the moral purposes of education in East Asia. I then briefly discuss the changes in European educational thought during the age of 'enlightenment' and revolution in the 18th and early 19th centuries, and the influence on these of reports from Qing China.

In **Weeks 2-4**, we'll look at three very different European 'models' of modern schooling systems – those of Germany, France and England – as these developed from the nineteenth century onwards. The very different ways in which each of these national systems approached political socialization through schooling had very important implications for European history (e.g. as a factor contributing to the outbreak of war in 1914 and 1945). The development of European schooling systems also had profound effects on non-European societies, since versions of these systems were imposed on Europe's colonies in Asia and elsewhere, or adopted and adapted by countries such as Japan as they looked to modernize 'pre-emptively', with the aim of avoiding domination by the West. So in **Week 5**, we'll look at education in European colonies, focusing particularly on the case of India, while in **Week 6** we'll look at the development of modern schooling as part of 'self-strengthening' modernization in Japan and China – focusing particularly on what European models were adopted and why, and the long-term effects of these choices on values and identity.

Over the following two **weeks (7-8)**, we'll then examine schooling in two independent outposts of 'Europe' – the United States and Soviet Russia. Elites in both these states saw themselves as different from (and morally superior to) the 'imperialist' European powers, since both states were founded on the basis of ideologies that explicitly rejected the tyranny, decadence, corruption, etc. of the 'old' continent. These ideologies had a profound influence on the development of education systems in both societies, but in both cases the actual structure and content of schooling reflected important ideological tensions and contradictions.

Although nations are often represented in pictures by female figures, modernizing nationalists have often taken a rather ambivalent attitude towards women – and this is reflected in the history of schooling for girls. The way in which societies recognize the role of women is a crucial part of the way in which they construct their identity and values more generally, so in **Week 9** we will look at schooling for girls in different societies, how it has changed, and how this reflects changing understandings of citizenship and nationhood.

In **weeks 10 and 11**, we'll review the radical changes to schooling systems in Western Europe and East Asia since the Second World War, focusing in particular on what has – and has not – changed in terms of the ways in which

these systems seek to transmit a sense of national citizenship. The changing degree of importance attached to political socialization as an aim of schooling, as compared with other aims, will also be considered – particularly in the light of the increasing significance of international comparisons of educational performance in influencing national education policy and educational debate.

Just as Japan's economic performance in the 1970s and 1980s caused many international observers to look to the Japanese education system for lessons about how to enhance national economic performance, so nowadays many policymakers and commentators are looking at China's schools in the hope of identifying the educational secrets of economic success. In **Week 12**, we will therefore consider recent educational developments in China, paying particular attention to the way in which schooling there sets about socializing future Chinese citizens – and the potential implications of this.

Finally, in **Week 13**, we will consider the extent to which recent claims regarding the 'globalisation' of education take account of the continuing importance of the nation state, and national governments, in determining the character of schooling and the way in which it socializes future citizens. Far from being simply tools for creating 'human capital' and raising national competitiveness in a 'global knowledge economy' (as many policymakers and commentators often seem to suppose), it will be argued that schools remain very largely concerned with inculcating values, attitudes and identities.

Format of the lectures:

- Each week, I will give a lecture (in English – with some Japanese) lasting around an hour. However, during the lecture I will usually ask questions which I expect students to discuss/respond to (in Japanese or in English).
- From Week 2 or 3, the session will begin with 10-minute student presentations (in Japanese or English), briefly introducing the history and education system of a modern state that is not discussed by me in my lectures.
- I may occasionally show a short film (10-15 minutes) related to the theme of the week's lecture.

Assessment:

- 30% of the assessment will be based on the presentations and participation in class;
- 70% will be based on an examination at the end of the semester (I will give further details on this later in the semester).

Recommended readings:

- Andy Green (2013). *Education and State Formation: Europe, East Asia and the USA.* Basingstoke: Palgrave Macmillan (second edition).
- Edward Vickers and Krishna Kumar (eds) (2015). *Constructing Modern Asian Citizenship.* Abingdon: Routledge.
- Robin Alexander (2000). *Culture and Pedagogy*. Oxford: Blackwell.

(Other readings will be recommended in relation to individual lectures.)

政治学史【政治理論発展】

最終更新日:2017年2月24日

授業科目名	政治学史【政治理論発展】	標準年次	3・4
講義題目	西洋政治思想史	開講学期	後 期
担当教員	木村 俊道	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	History of Western Political Thought
Course Overview	This lecture deals with the history of Western political thought from ancient Greece to early modern Europe.
履修条件	「政治」や「法」の基礎にあるもの、あるいはそれらの背後に潜むものを、思想・歴史・理論の観点から、じっくりと理解したい方を歓迎します。 また、本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html 本科目では、歴史・思想・文化など、ＥＵに関連する内容の講義を行います。
授業の目的	（1）「型」の修得：「政治学史」あるいは「政治思想史」というディシプリンを通じて、一定水準の学問的な「型」や「わざ」を修得することを目指します【専門的技能・態度】。 （2）政治学の「稽古」：政治学の歴史や古典に関する知識を学び、西洋文明の思想的な基礎を理解するための力を養います【知識・理解】。 （3）市民の「教養」：歴史や古典によって育まれる、これからの市民に求められる政治的な教養を深めます【汎用的技能・志向性】。 ※「アカデミーというのは、まさに、学問の型をしつける場所なんです」（丸山眞男『座談』7:122）。
授業の概要・計画	古代ギリシア・ローマから初期近代（16-18世紀）までを中心に、西洋政治思想の歴史を講義します。具体的には、プラトンやアリストテレス、マキァヴェッリ、ホッブズなどの思想家やテクストに加え、「デモクラシー」や「国家」などをめぐる政治的な概念や言説の展開や、政治と哲学、政治と倫理、政治と宗教などのテーマやコンテクストに注目し、西洋文明の知的基盤を多面的かつ動態的に理解することを目指します。
授業の進め方	さしあたっての授業計画は以下のとおり。 第1部 政治思想史の方法 第1講 イントロダクション／「政治学史」とは何か 第2講 政治思想史の方法 第3講 デモクラシーの思想史 第2部 古代ギリシア・ローマ 第4講 政治と哲学－プラトン 第5講 ポリスの政治学－アリストテレス 第6講 「レス・プブリカ」－共和政ローマとキケロ 第7講 「帝国」の思想史 第3部 中世キリスト教 第8講 政治と非政治－古代の終焉とキリスト教 第9講 「神の国」・「地の国」－アウグスティヌス 第10講 キリスト教共同体－トマス・アクィナス 第4部 ルネサンスと宗教改革 第11講 ルネサンスと人文主義 第12講 統治の技術－マキアヴェッリ『君主論』

	第13講 ローマの再生－マキァヴェッリ『リウィウス論』 第14講 「痴愚神」と「ユートピア」－エラスムスとトマス・モア 第15講 「文明」の作法－『宮廷人』とジェントルマン教育 第16講 宗教改革－ルターとカルヴァン 第5部 17世紀の政治思想 第17講 フランシス・ベイコンと「近代」 第18講 政治と法－立憲主義と「古来の国制」 第19講 内乱の政治学－主権・思慮・個人 第20講 ホッブズ『リヴァイアサン』 第21講 ジョン・ロック『統治二論』 第6部 18世紀の政治思想 第23講 「文明社会」の政治思想①－モンテスキュー 第24講 「文明社会」の政治思想②－ルソー 第25講 「文明社会」の政治思想③－ヒュームとバーク 第26講 『ザ・フェデラリスト』
教科書・参考書等	※いずれも参考文献です。 ☆福田歓一『政治学史』東京大学出版会、1985年 ・川出良枝、山岡龍一『西洋政治思想史－視座と論点』岩波書店、2012年 ☆山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年 ☆宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣アルマ、2013年 年 ・ウォーリン『西欧政治思想史－政治とヴィジョン』福村出版、2007年 ・渡辺浩『日本政治思想史－17〜19世紀－』東京大学出版会、2010年 ・小野紀明・川崎修編集代表『岩波講座 政治哲学』全6巻、岩波書店、2014年 ・古賀敬太編『政治概念の歴史的展開』全10巻（予定）、晃洋書房、2004- ・福田歓一『福田歓一著作集』全10巻、岩波書店、1998年 ・丸山眞男『丸山眞男集』全16巻＋別巻、岩波書店、1995-7年 ☆岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 ☆木村俊道『文明と教養の＜政治＞』講談社選書メチエ、2013年 その他、たくさんの政治学の古典（授業の際に文献一覧を配布します）。
成績評価の方法・基準	試験（70%）とレポート（30%）による。 試験では、論述や語句説明などの複数の観点から、「授業の目的」欄にある【知識・理解】の到達度を測ります。 レポートでは、関心のある思想家やテクスト、あるいは主題や論点について調べてもらい、それによって【専門的技能・態度】の習熟度を判定するとともに、卒業後も学びを続けるための【汎用的技能・志向性】を確かなものとすることを目的としています。
その他（質問・相談方法等）	講義の役割は、あくまでも、西洋文明や古典の世界に分け入るためのガイド・ブックに過ぎません。少しでも意欲を覚えた方は、講義の進行に関わらず、難易度の高い原典や研究書にどんどんチャレンジして下さい。「わからない」ことも大事です。歴史と格闘した思想家たちや古典との対話は、学問的な能力を磨くだけでなく、人格的に大きく成長するための原動力にもなるでしょう。 なお、さらに理解を深めたい方には、木村ゼミへの参加もおすすめします。
過去の授業評価アンケート	

政治学史基礎【政治理論入門】

最終更新日:2017年2月25日

授業科目名	政治学史基礎【政治理論入門】	標準年次	2
講義題目	政治学の古典を読む	開講学期	前 期
担当教員	関口 正司	単位数	2単位
教 室		科目区分	基盤科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	An Introduction to the History of Political Theory
Course Overview	Reading a classic of political theory (Machiavelli, the Prince) particularly in the light of the author's intention and the historical contexts.
履修条件	授業目的を達成するために、毎回の出席と指定テクストの予習が必須です。 予習しながら自分で まず考えてみて、どこが理解でき理解できないかを確認してから授業に出ることが、効果的学習のコツです。予習には９０分程度が必要です。予習を促進するために、予習記録用紙をpdfで配布し、毎回、授業開始時に提出してもらいます。
授業の目的	【知識】実践知としての政治理論の特性、政治理論の基本的諸概念、特に権力と権威の概念を把握する。 【技能】複雑なテクストの総合的理解の技術を持つ。」 【態度】予習を前提とした自律的な学習の習慣、自己の判断に理由をつける習慣、古典に立ち返る習慣を身につける。
授業の概要・計画	●これまで何年にも及ぶ受講者の試験成績や授業評価から判断して、大人数での授業であるにもかかわらず、じっくりと読み（きちんと予習し）積極的に出席している受講者の場合は、読解力が確実に高まっています。 ●政治学の名著・古典中の名著・古典、マキアヴェリ『君主論』を徹底的に精読・熟読します。
授業の進め方	★下記に指定しているテキストを早めに入手し、初回の授業までに、『君主論』第４章まで読んで予習しておいてください（わからない語句の意味や読みも調べ ておくこと）。授業開始後は、連休明けまでに、最後まで読み通しておいてください。字面を負うのではなく、なぜ、こう書いたのだろう、と問いながら読むことがポイントです。そうした自分なりの読みを、授業の中での私の読みと比べて、さらに考えを 深めることができます。 ●進め方としては、テクストにもとづいて、テクストを註解します。 ●予習しないで授業に出席しても、読解力は全くつきません。まず、自分で読んでみることが★絶対不可欠★です。音読は脳を刺激し効果的なので、お勧めです。
教科書・参考書等	マキアヴェリ『君主論』（新訳）、池田廉訳、中公文庫（中央公論社）、定価843円（生協価格：759円）。ISBN 9784122040120 他にも様々な翻訳がありますが、訳語や頁数が違っていて授業の進め方の障害になるので、上記のものに限ります。
成績評価の方法・基準	●学期末の試験により、成績評価を行ないます。 ●試験では、テクストの著者の意図や歴史的コンテクストに関する理解度を図る指標を手掛かりに、授業目的としている知識・技能・態度をそれぞれ測定した上で、総合的に評価します。なお、近年、試験の解答がパターン化してきているので、今年度は設問や解答の形式を大きく変える予定です。 ●授業に出席しないと、授業目的の達成は原理的に不可能です。また、現実に、試験の際に答案が書けません。
その他（質問・相談方法等）	質問は、原則として、授業時間内に受け付ます。

	【EU-DPs科目分類】 （B）歴史・思想・文化など、ＥＵに関連するものを扱う * 本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html 本科目では、 歴史・思想・文化など、ＥＵに関連する内容の講義を行います。
過去の授業評価アンケート	

西洋法制史

最終更新日:2017年3月3日

授業科目名	西洋法制史	標準年次	3・4
講義題目	西洋前近代法史	開講学期	後 期
担当教員	直江眞一	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Western Legal History
Course Overview	This Course provides students with a general view of the Western Legal History from the early medieval ages to the 16th century, focusing on the 12th century Renaissance.
履修条件	とくになし。 他学部生も履修可。
授業の目的	A.専門的知識・技能の点では、近・現代法とは異なる西洋前近代法の有する歴史的性格の理解、また法および法学の西洋的伝統の形成についての考察 B.汎用的技能の点では、コモン・ロー（イングランド法）とシヴィル・ロー（ヨーロッパ大陸法）の比較 C.態度・志向性の点では、毎回の授業における質問カードを通しての積極的な授業参加
授業の概要・計画	転換期としての１２世紀（「１２世紀ルネサンス」）を中心に、学識法（中世ローマ法および教会法）の形成と展開、イングランド法とヨーロッパ大陸法の比較の観点から見た法制度の変容等について講述する。具体的には次の章立てから成る。 序章：西洋法制史とはどのような学問か（２回） 第１章：ゲルマン部族法典――初期中世の法（３回） 第２章：ローマ法大全（１回） 第３章：中世ローマ法学――学識法その１（２回） 第４章：教会法――学識法その２（５回） 第５章：コモン・ローとシヴィル・ロー（２回） 第６章：イングランドにおけるコモン・ローの形成（１２回） 第７章：人文主義法学（１回） 第８章：ドイツにおけるローマ法の継受（１回） 第９章：フランス法の形成（１回）
授業の進め方	担当教員作成のレジュメにしたがって授業を進める。史資料についても適宜プリントを配布する。また視覚的に理解を容易にするためにスライドを多用する。基本的に講義形式で進めるが、質疑応答を通して、また質問カード（出席カードを兼ねる）を用いて、できるだけ双方向の授業になるように努める。」
教科書・参考書等	教科書は用いない。 参考書として、以下のものがある。 高山・池上編『西洋中世学入門』（東大出版会） 勝田・森・山内編『西洋法制史』（ミネルヴァ書房） ヴァン・カネヘム著・小山貞夫訳『裁判官・立法者・大学教授』（ミネルヴァ書房）など。 詳細な参考文献一覧は「序章」において紹介する。
成績評価の方法・基準	出席状況（３０点）と期末試験（７０点）により、総合的に判定する。出席状況については、上記「授業の目的」欄の「観点C」に照らして質問カードを通して評価する。試験においては、同「観点A」および「観点B」に基づいて答案を評価する。
その他（質問・相談方法等）	メールでアポイントメントをとった上で、質問・相談に応じる。

過去の授業評価アンケート	

日本法制史

最終更新日:2017年2月24日

授業科目名	日本法制史	標準年次	3・4
講義題目	近世日本法制史	開講学期	前 期
担当教員	和仁 かや	単位数	4単位
教 室		科目区分	展開科目
使用言語	Japanese	科目コード	

Course Title	Japanese Legal History
Course Overview	Lecture on japanese legal history mainly in Edo-era, including Ryukyu.
履修条件	歴史史料に触れる意欲があること。日本史の前提知識は問いません。
授業の目的	法システムが先行き不透明な激変の渦中に置かれている現在、却ってその原点を確認する作業は重要性を増しているといえます。現代に通ずるものと通じないもの、そしてそこから学びうるものは何かについて、江戸時代当時の法文や裁判記録等の歴史史料にも直接触れつつ考えてみたいと思います。 以下、ご参考までに、昨今重視されつつある「ディプロマ・ポリシー」なるものとの関連に少々触れておきますと、 １．知識・理解及び態度・志向性の観点 単なる「知識」「情報」の類であれば各種検索手段の発達した今日においていくらでも入手可能ですので、少なくともこの講義では重視しません（一般論として暗記が重要であるのは、もとより申すまでもないですけれど）。「何が理解できたか」よりも「何が理解できていないのか」、ある歴史史料から何が読み取れるのかと同時に、読み取れないことは何か、すなわち対象の持つ制約と自分自身の限界とを自ら「正確に」踏まえる姿勢こそ、―自戒も込めて―みなさんに身につけていただきたいと思っています。 ２．専門的・汎用的技能の観点 むろん専門性や汎用性を一概に否定する意図は毛頭ありませんが、これを安易かつ徒に「お題目」とすることの弊害は、昨今の大学の現状が示しているといえます。虚心坦懐に歴史史料に浸る行為は、あるいはその解毒のひとつたりうるかもしれません。
授業の概要・計画	明治時代以降のいわゆる西洋近代法継受の前提となったにもかかわらず、兎角誤解されがちな江戸時代を中心に、「法」「制度」「秩序」がどのように構想され、いとなまれていたのかを、裁判制度をひとつの柱として論じます。また比較法史的な観点からもきわめて興味深い対象である琉球法制史についても取り上げる予定です。 主なトピックスは以下の通りです（受講者の関心等により変更の可能性もありえます）。 （１）近世の「律系法典」―法の存在形態と継受の諸相 （２）刑事裁判手続とその位置づけ （３）刑罰制度とその思想 （４）民事裁判手続概観 （５）「債権」をめぐる諸問題 （６）近世琉球の法制度と裁判
授業の進め方	基本的に通常の講義形式です。歴史史料（こちらで準備の上配付します）にある程度じっくり触れ、史料の読解を通じて当時の人々の思考を追体験する（恐らく現代の我々にとって、これはまさに一種の異文化体験といえるでしょう）ことが一つの大きな目的ですので、前近代

	の文章など凡そ見たくもない、あるいは直ちに結論めいたものが欲しい、という方には苦痛かもしれません。ただ、「履修条件」でも示した通り、取り組む意欲さえあれば前提知識は問いませんし、質問は大いに歓迎します。
教科書・参考書等	指定する教科書はありません。 参考書としては差し当たり以下の三冊を挙げておき、これ以外の文献は授業中に適宜紹介します。 旧事諮問会編『旧事諮問録（上）（下）』（岩波書店、1986年） 平松義郎『江戸の罪と罰』（平凡社、2010年（初版は1988年）） 金田平一郎『近世債権法』（法務庁資料統計局資料課、1948年/ 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1281220）
成績評価の方法・基準	試験により評価します。場合によっては講義中に小レポートを書いていただくこともありえます。 評価に際しては、「授業の目的」や「授業の進め方」で示したことと連動しますが、史料が示すような当時の思考がどれだけ自らの言葉で再構成できているか、また自分自身で追体験しようとしているかを重視します。
その他（質問・相談方法等）	講義終了後、及びオフィスアワーに受け付けます。
過去の授業評価アンケート	

EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度　シラバス
- 学部生対象（M4:科学技術・環境と衛生） -

最終更新日：　2017 年　10 月 18 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	環境地球科学
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	コース選択 / Elective for Earth System Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	渡邊 公一郎
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	日本語での講義が基本であるが、数回の講義は英語で実施する。
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	環境地球科学environmental geosciencesに関わる下記のような講義を行う。ここでは火山噴火、地震、地すべりなどの自然災害、環境汚染、放射性廃棄物の地層処分、アルカリ骨材反応によるコンクリート劣化の問題など、我々の生活に身近な環境地球科学に関わる諸問題を取り上げる。これらに加えて資源開発と環境問題の関係についての講義を行う。最後に資源枯渇と将来予測に関わる問題を資源地球科学の立場から概観する。 We live on the earth, which has limited capacity to feed the humankind. We experienced the energy crisis called oil shock, and recently we had an extreme cost soaring of energy and mineral resources. Because of depletion of the earth resources, global environmental issues and explosion of human population, the humankind may not survive in the next century. This subject covers a broad range of topics related to environmental geology, including natural hazards, depletion of earth resources and their impact on human lives. The environmental effects of exploring earth resources are also an integral component of the course.
キーワード	地球環境、火山噴火、地震、地すべり、自然災害、環境汚染、放射性廃棄物の地層処分、アルカリ骨材反応によるコンクリート劣化
履修条件等	出席状況(20%)、課題研究レポート(20%)、期末試験(60%)により評価
履修に必要な知識・能力	基礎的な高校物理、化学に関する知識

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	イントロダクション、地震と災害(1)	○		
2.	地震と災害(2)	○		
3.	火山活動と災害(1)	○		
4.	火山活動と災害(2)	○		
5.	リモートセンシングと地球環境科学への応用	○		
6.	地すべりと災害	○		
7.	コンクリートとアルカリ骨材反応	○		
8.	英語によるゲストレクチャー	○		
9.	放射性廃棄物と地層処分	○		
10.	資源開発と環境問題	○		
11.	石炭産業の推移	○		
12.	資源経済と将来予測	○		
13.	課題研究（1）			
14.	課題研究（2）			

授業以外での学習にあたって

日経新聞の関連記事等

テキスト

特になし

参考書

「地球学入門」

授業資料

随時配布

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎								
	◎								
	○								
	○								
その他									

	（自由記述1）								
	その他（自由記述2）								
	その他（自由記述3）								

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	
学習相談	随時受け付け
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-07-20 15:02:55.616

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	応用地球物理学
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 3時限
必修選択	コース必修 / Required for Earth System Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	水永 秀樹
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	物理探査法は，人間の目には見えない地下構造を，目の替わりとなる種々のセンサーを用いて可視化する方法である。物理探査法は，地下資源の探査を始め，海洋資源探査，遺跡探査，土木分野の基礎地盤調査，土壌・水質汚染源の探査，地下環境のモニタリング等に広く利用されている。本授業では，物理探査法の基礎原理や特徴を学ぶと共に，物理探査法の実際の適用例を学ぶ。 Geophysical exploration is the method which visualizes invisible subsurface structure using the various sensors instead of human eyes. Geophysical exploration method is widely used for surveys for earth and marine resources, archaeological prospection, subsurface investigation for civil engineering, soil and groundwater contamination survey, and environmental monitoring. Students learn the principles and the applications of geophysical exploration methods in this class.
キーワード	物理探査，資源探査，遺跡探査，環境物理探査，電気探査，弾性波探査，電磁探査，重力探査，磁気探査，地中レーダ探査，放射能探査，地温探査
履修条件等	地球環境のイメージングを履修していることが望ましい。
履修に必要な知識・能力	基礎的な微分方程式が解けること。

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	A 知識・理解 / Knowledge and Understanding	物理探査の役割および探査手法を理解できる. 各種物理探査法の基礎となる物理現象および物性値の特徴が理解できる.
2.	B 専門的技能 / Skills and Other Attributes	各種物理探査法の長所と短所を理解し, 探査対象に最適な探査法を選択できる.
3.	c 汎用的技能 / Tranferable Skills	物理現象を支配する偏微分方程式に関する基礎事項が理解できる
4.	D 態度・志向性 / Status and Value to Society	身近な地球科学的現象に興味を持ち, それを定性的に説明できる

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	物理探査の概要 各種物理探査法の概説	○		レポート
2.	電気探査(1) 電気探査の基礎事項 比抵抗法	○		レポートと予習
3.	電気探査(2) 自然電位法(SP法) 強制分極法(IP法) 流電電位法	○		レポートと予習
4.	弾性波探査(1) 弾性波の基礎事項 弾性波探査・屈折法の基礎	○		レポートと予習
5.	弾性波探査(2) 弾性波探査・反射法の基礎 反射法データの処理	○		レポートと予習
6.	電磁探査(1) 電磁探査の基礎事項 EM法, TEM法	○		レポートと予習
7.	電磁探査(2) 地磁気地電流法(MT法) CSAMT法	○		レポートと予習
8.	重力探査 引力と重力, 重力計の原理 重力データの補正, 重力異常	○		レポートと予習
9.	磁気探査 地磁気の3要素, 磁力計の原理 誘導磁化, 残留磁化, 磁気異常	○		レポートと予習
10.	地中レーダ探査 電磁波の基礎事項 プロファイル測定, ワイドアングル測定	○		レポートと予習
11.	放射能探査 放射能の基礎事項, サーベイメータ, スペクトロメータ 放射能の測定, 断層探査	○		レポートと予習
12.	地温探査 伝導・対流・輻射, 温度計 地温勾配, 水みち	○		レポートと予習

2017/10/18更新

13.	物理探査の適用例(1) 地下資源探査 地熱探査	○		レポート
14.	物理探査の適用例(2) 環境物理探査 遺跡探査	○		レポート

授業以外での学習にあたって	次の授業のために配付する資料を用いた予習が必要となる。また毎回授業内容に関するレポートを課す。予習と復習の時間を十分確保すること。
テキスト	なし
参考書	1)応用地球物理学の基礎, 狐崎長琅, 古今書院 2)建設・防災技術者のための物理探査, 佐々宏一ほか, 森北出版 3)地殻の物理工学, 石井吉徳, 東京大学出版会
授業資料	授業のための資料を毎回配布する

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎						60
	◎	○	○	◎					30
				○					10

成績評価基準に関わる補足事項	期末試験の成績(60点)と毎回課す講義内容に関するレポートの成績(30点)及び出席点(10点)を総合して評価する. 期末試験の受験には2/3以上の出席が必要.
ルーブリック	応用地球物理学 ルーブリック.pdf
学習相談	講義内容に関する質問等は随時受け付けている. 場所:ウエスト2号館4階432号室
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-08-29 11:17:59.477

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	地球熱学
科目ナンバリングコード	
講義題目	Geothermics
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 1時限
必修選択	必修 / Required
単位数	2.0
担当教員	藤光 康宏
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地球内部には巨大な地熱エネルギーが貯えられており、そのごく一部が地熱発電などとして利用されている。自然の恵みである地球のエネルギーを環境と適合して利用して行くためには、地球の熱的状態をよく理解する必要がある。この授業では、特に地球内部の熱伝導に関する問題の理解を深めると共に、地球内部の構造と動きに関する基礎的知識を習得する。なお、講義だけでなく、授業中に演習を兼ねた小テストを実施して理解を深める。 An enormous amount of geothermal energy was stored within the earth, and small portion of the energy is used as geothermal power generation, etc. In order to utilize geothermal energy in concord with the environment, we need to understand about the thermal condition of the earth's interior. This class develop a better understanding about not only the internal structure and dynamics of the earth but also the thermal conduction of the earth's interior. This class includes quizzes.
キーワード	(日)地球熱学、地熱エネルギー、地殻熱流量、熱伝導、地熱発電、マグマ (英)geothermics, geothermal energy, terrestrial heat flow, thermal conductivity, geothermal power generation, magma
履修条件等	特になし。
履修に必要な 知識・能力	ベクトル解析(特にgradとdiv)、伝熱学の知識

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

No	観点	詳細
1.	知識・理解	・熱伝導に関する偏微分方程式の基礎的事項を理解できる。 ・地球の構造と動きに関する基礎的事項を理解できる。 ・地球内部の熱的構造及び熱の流れに関し、対象のスケールに応じて系統的に理解できる。 ・地熱系の形成するために必要な地下の熱的構造について具体的イメージを持つことができる。
2.	態度・志向性	・自力で考え、自分の言葉で記すことができる。
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	ガイダンス	○		
2.	熱伝導の基礎	○		
3.	地球の構造	○		
4.	地球の熱学	○		
5.	地殻の熱学	○		
6.	地下の深度と温度との関係	○	小テスト(演習)	
7.	地熱活動の原因としてのマグマ	○		
8.	マグマ冷却に伴う熱水系の発達	○		
9.	非火山系地熱系	○		
10.	地熱エネルギーの利用	○		

授業以外での学習にあたって

なし

テキスト

なし

参考書

江原幸雄(2010)日本列島は地熱エネルギーの宝庫, 櫂歌書房
杉村 新・中村保夫・井田喜明 編(1988)図説地球科学, 岩波書店

授業資料

授業中に適宜プリントを配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								85%
	○	◎							10%
		○							5%

成績評価基準に関わる補足事項

学期末試験では、授業で履修した各項目の理解度と定量的な取り扱いを問う。演習を兼ねた小テストは、正解であることよりも、自力で考えて、専門用語などを適切に用いながら自分の言葉で説明できているかどうかを重視する。なお、出席回数を学期末試験の受験資格とはしない。

2017/10/18更新

ルーブリック	地球熱学ルーブリックVer2.pdf
学習相談	授業日の17時から18時に伊都ウエスト2号館435号室にて対応する。それ以外については、予めメールにより相談日時を調整すること。
添付ファイル	
その他	学期末試験では計算問題も出題するので、関数電卓（計算機能のみのもの。スマートフォンや電子辞書などでの代用は不可）を持参すること。持参し忘れても貸与はしない。
更新日付	2017-09-26 13:11:19.428

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	地熱工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 2時限
必修選択	コース必修 / Required for Earth System Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	西島 潤 辻 健
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地熱発電等によって、経済的に地球の熱エネルギーを利用することを可能にするためには、地下深部に存在する熱を水の循環によって地表近くに集中的に集める機構、すなわち熱水系の存在が重要である。この授業では、まず地熱系及び熱水系についての概論を導入部として、液相単相流の熱水系を現象論的・数学的に理解し、次に地熱系・熱水系の機構の解明や地熱資源開発などのための地熱探査法を学び、最後に地熱資源評価のプロセスを学ぶ。なお、講義だけでなく、授業中に演習を兼ねた小テストを適宜実施して理解を深める。 In order to utilize geothermal energy economically by power generation etc., the existence of hydrothermal systems, which concentrate the deeper geothermal energy to the shallower subsurface part, is important. This class develops a better understanding about liquid-phase hydrothermal systems phenomenologically and mathematically, and introduces geothermal exploration methods and geothermal resource evaluation methodologies. This class includes quizzes.
キーワード	地熱系, 熱水系, 地熱エネルギー, 地熱探査, 地熱資源量評価, 地熱発電
履修条件等	地球熱学、流体力学第一を履修済みであることが望ましい。
履修に必要な知識・能力	ベクトル解析(特にgradとdiv)、伝熱学、水理学の知識

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標	1.	A:知識・理解	・専門用語を理解し、適切に用いることができる。 ・複雑で多様な天然の熱水系を体系的に理解し、それを実際の熱水系の理解に適用できる。 ・液相単相の熱水系における熱と水の流れの数学的取り扱いができる。 ・地熱探査法における各種探査手法の役割を理解する。 ・地熱資源量評価の基礎的知識を理解する。
	2.	B:専門的技能	
	3.	C:汎用的技能	
	4.	D:態度・志向性	・自力で考え、自分の言葉で説明することができる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	ガイダンス	○		
2.	熱水系の現象論	○		
3.	・地熱系の分類	○		
4.	・熱水系とは何か？	○		
5.	・熱水系の構成	○		
6.	・熱水の起源	○		
7.	・地熱系の種類	○		
8.	熱水系の定量的扱い	○		
9.	・液相単相流の基礎方程式	○		
10.	・基礎方程式の解法	○		
11.	・モデル計算	○	小テスト(演習)	
12.	・実際の熱水系の解析例	○		
13.	地熱の探査法	○		
14.	・地熱探査の役割	○		
15.	・地熱探査法各論	○		
16.	・地質学的探査	○		
17.	・地球化学的探査	○		
18.	・地球物理学的探査	○	小テスト(演習)	
19.	地熱資源の評価法	○		
20.	・資源量の定義	○		

授業以外での学習にあたって	なし
テキスト	なし
参考書	江原幸雄(2010)日本列島は地熱エネルギーの宝庫, 櫂歌書房 江原幸雄・野田徹郎(2014)地熱工学入門, 東京大学出版会 杉村 新・中村保夫・井田喜明 編(1988)図説地球科学, 岩波書店
授業資料	授業中に適宜プリントを配布する。

成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
		◎								85%
		○			◎					10%
					○					5%
成績評価基準に関わる補足事項	学期末試験では、授業で履修した各項目の理解度と定量的な取り扱いを問う。演習を兼ねた小テストは、正解であることよりも、自力で考えて、専門用語などを適切に用いながら自分の言葉で説明できているかどうかを重視する。なお、出席回数を学期末試験の受験資格とはしない。									
ルーブリック	地熱工学ルーブリックVer1.pdf									
学習相談	授業日の17時から18時に伊都ウエスト2号館436号室にて対応する。それ以外については、予めメールにより相談日時を調整すること。									
添付ファイル										
その他	学期末試験では計算問題も出題するので、関数電卓（計算機能のみのもの。スマートフォンや電子辞書などでの代用は不可）を持参すること。持参し忘れても貸与はしない。									
更新日付	2017-04-06 17:19:58.693									

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	資源開発生産工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	Mineral Resources Exploration and Production Engineering
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 1時限
必修選択	必修 / Required
単位数	2.0
担当教員	佐々木 久郎 菅井 裕一
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	主に講義形式で授業を行う。必要に応じて，授業中に講義内容に関する質問を行う。2回のまとめ演習課題についてレポートを提出させる。

授業概要	この講義では、資源開発エンジニアとなるための資源開発技術に関する入門的内容や開発および生産手法を理解し，各要素技術についての数量的な解析手法とおよび設計法を修得することを目標としている。、資源開発・生産プロジェクトの概要とともに，資源生産における基本的な技術手法である、資源量評価，資源開発の要素技術である設計，掘削，破砕，運搬などを解説する。 This lecture aims to understand the introductory contents and development and production techniques related to mineral resources exploration technology in mining and petroleum industries. The engineers acquire the quantitative analysis and design mind for each element. The lecture provides not only the knowledge of the resource development and production process, fundamental design procedures which are required for engineers with basic technologies in mineral resource production process, reserve evaluation, production, drilling, crushing and transportation.
キーワード	鉱物資源，資源量評価，オープンピット，ベンチカット，掘削，運搬，サイクルタイム，生産レート，輸送レート
履修条件等	とくになし。
履修に必要な 知識・能力	基本となる力学などの物理学が理解できること。

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	資源開発に先立って，基礎的な単位変換と力学的基礎知識を理解する。
2.	B:専門的技能	2) 鉱物資源の品位分布に基づいて可採埋蔵量の1) 資源開発に必要とされる数量的な把握手法を理解する。 2) オープンピット鉱山を例にとり，基本的な鉱物資源開発の流れと要素技術を理解する。
3.	C:汎用的技能	1) 掘削機械のバケット容量，サイクルタイムなどから掘削レートの算定法を理解する。 2) 積込機とダンプトラック数およびベルトコンベアによる輸送量の算定とそのシステムを理解する。 3) ベンチカットにおける爆薬を用いた掘削・破砕システムの理解と諸元の決定手法を理解する。 4) 露天採掘の最終ピット形状の最適化とスケジューリングおよび掘削・運搬の自動化を理解する。
4.	D:態度・志向性	資源開発エンジニアとなるための，資源開発に関する入門的内容や開発および生産手法を理解し，各要素技術についての数量的な解析手法とおよび設計法を修得する意欲をもつ。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	資源開発とは？(イントロダクションおよび資源開発用語の解説	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
2.	資源開発における費用と利益および開発プランニングの流れ	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
3.	資源開発における鉱物資源量の算定方法(ポリゴン法	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
4.	オープンピット鉱山の採掘システムの概要	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
5.	オープンピット採掘におけるはく土比と経済性	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
6.	ドラッグラインとパワーショベルの仕様，サイクルタイムと生産レート		講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
7.	ブルドーザーおよびスクレーパの仕様，サイクルタイムと掘削生産レート	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
8.	バケットホイールエキスカベータおよびフロントエンドローダーの仕様，サイクルタイムと掘削生産レート	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
9.	ショベルローダーとダンプトラックによる最適運搬システムと輸送量の最低	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
10.	ベンチカットにおける爆薬を用いた掘削・破砕，ロータリードリル，発破工法のシステムとそれらの諸元の決定	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
11.	クラッシャーなどによる破砕，ベルトコンベアによる輸送容量および動力	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
12.	露天採掘における最終ピット形状，ベンチ緒元，運搬路，最終残壁	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
13.	採掘・運搬システムの最適化と海外露天掘り鉱山の例	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
14.	採掘・運搬システムの自動化と新たな資源開発の動向	○	講義内容に関連する演習	講義後に、演習課題の解答プロセスについて復習する。
15.	将来の鉱山技術と環境保全	○	講義全般に関する演習	講義後に、総合演習課題の解答プロセスについて復習する。

授業以外での学習にあたって	資源開発エンジニアとなるための，資源開発に関する入門的内容や開発および生産手法を理解し，各要素技術についての数量的な解析手法とおよび設計法を修得するためには、講義時間中に集中し、授業後において演習課題に対する復習が望ましい。 2017/10/18更新
テキスト	テキスト「資源開発生産工学」を配布。
参考書	参考書：H.L.Hartman and J.M.Mutmansky: Introduction to Mining Engineering, 2nd Ed. John Wiley & Sons, INC
授業資料	各講義時間ごとに配布する。
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	各講義における演習(20点)，レポート(10点)，上記の到達目標に関連した期末試験の結果（70 点）を総合して評価し，60 点以上を合格とする。
ルーブリック	H28-資源開発生産工学ールーブリック.pdf
学習相談	講義日の午後5時までオフィスアワーとする。また、Eメールによる相談も受け付ける。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-27 09:58:56.061

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	○	◎	○	◎					

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	エンジニアリングエコノミー
科目ナンバリングコード	
講義題目	Engineering Economy
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 2時限
必修選択	選択 / Elective
単位数	2.0
担当教員	佐々木 久郎
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	この講義では、資源開発および生産プロジェクトの立案に関る生産計画，経済性評価や財務などの手法を修得することを目標としている。とくに、鉱工業生産に携わるエンジニアのための生産計画，経済性評価や財務管理のための数理的あるいは計量的手法について解説する。 In this subject, mineral production projects are targeted with the goal to learn the techniques, such as economic evaluations and financial managements. Basic methodologies and skills for economical project evaluations are provided for production planning involved in industrial production projects. In particular, mathematical or quantitative analysis is used in economic evaluation and financial management and commentary.
キーワード	エンジニアリング，時間価値，キャッシュフロー，減価償却，損益分岐，在庫管理，感度分析，費用，収益，生産計画
履修条件等	なし。
履修に必要な知識・能力	基本的な線形代数学および微積分学を理解していること。

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	A:知識・理解	鉱業における開発・生産プジェクトに関わる経済的側面を考慮した選択と意思決定に関る手法や用語を修得する
2.	B:専門的技能	工学分野における経済性評価を実施するための数理的な手法を利用できる。 1) 具体的な代替案に関る例題について数量的に2) 比較感度分析，線形計画やライフサイクルを考慮した生産計画を立て，理解できる。
3.	C:汎用的技能	感度分析，線形計画やライフサイクルを考慮した生産計画を立て，理解できる。
4.	D:態度・志向性	鉱工業生産に関わる経済性評価や財務管理のための数理的あるいは計量的手法を応用する意欲を有する。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	エンジニアリングとエコノミー，および鉱物資源の経営面における特徴		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
2.	貨幣の時間的価値とキャッシュフロー分析		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
3.	現在価値法，年価法および将来価値法による経済価値の比較		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
4.	初期投資と操業費用を考慮した総費用分析		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
5.	一定勾配年金，据え置き年金，複雑な時間価値の計算方法，エクセルの利用		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
6.	インフレーションと実質金利および実効金利と連続複利		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
7.	減価償却と税金。税額を考慮した定額法，定率法等による比較分析		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
8.	費用分析と損益分岐解析および供給と需要を考慮した損益分岐解析		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
9.	在庫管理（発注と費用および経済的発注量		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
10.	プロジェクトの不確実性と感度分析		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
11.	排反的分析，優劣分岐線分析		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
12.	線形計画法と生産計画およびゲームの理論による意思決定		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
13.	投資の利益率と回収期間および資源開発の経済性評価法		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
14.	財務管理と財務会計，ライフサイクルアセスメント(LCA)，総合演習		講義内容に関する演習の実施	講義後における演習課題の解答プロセスを復習する
15.	全体の講義内容のまとめ		総合演習問題の解答	総合演習問題の解答プロセスをまとめる

授業以外での学習にあたって

日常においても、対象が小さいながらも同一の経済性評価を適用できる例が多くあるので、数量的評価をしてみることが望ましい。

テキスト

教科書:エンジニアリングエコノミーを配布する。

参考書

参考書:Engineering Economic Analysis, Donald G. Newnan, 6th edition, Engineering Press, ISBN 0-910554-95-1, 1996.
一般的なミクロ経済に関する参考書を参照することで、より多角的に理解できる。

授業資料

演習問題およびその解答などの資料は、その都度配布する。

評価方									備考(欠格条

2017/10/18更新

	法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	件・割合）
成績評価		○	◎	○	○					
		○	○	○	○					
		○	○		○					
		◎	◎		○					
		◎	◎	◎						

成績評価基準に関わる補足事項	各講義における演習(20点)，レポート(10点)，上記の到達目標に関連した期末試験の結果（70 点）を総合して評価し，60 点以上を合格とする。
ルーブリック	H29-エンジニアリングエコノミー－ルーブリック.pdf
学習相談	講義日の午後5時までオフィスアワーとする。また、Eメールによる相談も受け付ける。
添付ファイル	
その他	この講義は、開発および生産プロジェクトの立案に関る生産計画，経済性評価や財務などの手法を修得することを目標としたものである。
更新日付	2017-09-27 09:58:24.594

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	岩盤工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	Rock Engineering
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 3時限
必修選択	必修 / Required
単位数	2.0
担当教員	島田 英樹
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地殻中の有用鉱物やエネルギー資源を採取するためには、必要な大きさの空間を地殻中に設ける。この空間を安全で経済的にかつ効率よく掘削し、維持管理する上で必要な、地殻を構成する「岩」の力学的な応答を理解するための基本的な考え方を修得する。 Rock engineering as well as rock mechanics is a truly interdisciplinary subject, with applications in geology and geophysics, mining, petroleum, and civil engineering. It relates to energy recovery and development, construction of underground spaces for transportation, water resources and defense facilities, prediction of earthquakes, and many other activities of greatest importance. From this point of view, fundamental knowledge of rock engineering is lectured.
キーワード	岩盤応力, 岩盤の特性, 斜面の安定性
履修条件等	固体力学を受講しておくこと。
履修に必要な 知識・能力	これまでに基幹教育科目で学んだ基本的な力学に加え、簡単な微積分が解ける必要である。

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	A:知識・理解	・岩の構造や特性の最小限の基本的事項を理解することができる。
2.	B:専門的技能	・岩の構造について理解できる。 ・岩に関する種々の特性について理解できる。 ・地山応力に関する計測法、解析法が理解できる。 ・岩盤構造物の設計と安定化について理解できる。
3.	C:汎用的技能	・岩盤工学に関する必要最小限の基本的事項を露天掘り鉱山の斜面の設計へ展開することができる。
4.	D:態度・志向性	・身近な力学現象に興味を持ち、それを定性的に説明できる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	岩盤工学とは	○	演習	レポート(演習問題)
2.	岩の構造(不連続面)	○	演習	レポート(演習問題)
3.	岩の特性	○	演習	レポート(演習問題)
4.	変形性	○	演習	レポート(演習問題)
5.	強度	○	演習	レポート(演習問題)
6.	透水性	○	演習	レポート(演習問題)
7.	異方性・不均質性	○	演習	レポート(演習問題)
8.	地山応力	○	演習	レポート(演習問題)
9.	岩盤内変位計測	○	演習	レポート(演習問題)
10.	応力測定	○	演習	レポート(演習問題)
11.	応力解析	○	演習	レポート(演習問題)
12.	岩盤斜面の安定性	○	演習	レポート(演習問題)
13.	地下空洞周辺の応力	○	演習	レポート(演習問題)
14.	地下空洞の設計と支保	○	演習	レポート(演習問題)

授業以外での学習にあたって

特記すべきことなし。

テキスト

Rock Mechanics Principles in Engineering, J.A.Hudson, Butterworth-Heinemann, Pub., London, (1989)

参考書

岩石力学入門, 山口梅太郎・西松裕一,東京大学出版会(1991)

授業資料

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎							80%
			○	◎					10%

				○				10%	2017/10/18更新

成績評価基準に関わる補足事項	出席点(10点)と，毎週行う演習問題に対する小テスト(10点)，上記の到達目標に関連した期末試験の結果(80点)を総合して評価し，60点以上を合格とする。なお，講義を4回欠席したものについては再履修とする。
ルーブリック	岩盤工学 ルーブリック.pdf
学習相談	質問等がある場合には，講義日の16時から17時に教員室にて対応する。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-14 09:24:52.848

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	地下空洞設計法
科目ナンバリングコード	
講義題目	Design of Underground Openings
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	コース必修 / Required for Earth System Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	島田 英樹
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地殻中の有用鉱物やエネルギー資源を開発する上で必要な岩盤工学上の種々の問題を取り上げ、安全で経済的な坑内採掘を行うための必要な岩盤工学的な手法を修得する。 Learn actual underground mining design and equipment. The purpose is to understand the underground mining design more deeply, and to make the best use of the method in practice. Actual application examples at mine site are given. Prerequisite condition: Solid Mechanics and Rock Engineering.
キーワード	岩盤の力学特性, 応力計測法, 坑道支保システム, 坑内採掘システム
履修条件等	固体力学および岩盤工学を受講しておくこと。
履修に必要な知識・能力	これまでに基幹教育科目で学んだ基本的な力学に加え、簡単な微積分が解くことができる必要がある。

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	地下空洞設計法の現場適用を目指して、基礎原理を再度理解するとともに、坑内支保及び採掘システムに関する必要最小限の基本的事項を理解することができる。

PAGE TOP

到達目標	2.	B:専門的技能	・岩盤の力学特性について理解できる。 ・応力計測法について理解できる。 ・支保システムについて理解できる。 ・坑内採掘システムの設計法について理解できる。
	3.	C:汎用的技能	地下空洞設計法に関する必要最小限の基本的事項を坑内掘り鉱山の支保システムや空洞設計に対して展開することができる。
	4.	D:態度・志向性	身近な力学現象に興味を持ち、それを定性的に説明できる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	岩盤工学とは	○	演習	レポート(演習問題)
2.	岩盤の力学特性 1. 一軸、二軸、三軸試験	○	演習	レポート(演習問題)
3.	岩盤の力学特性 2. せん断試験	○	演習	レポート(演習問題)
4.	岩盤の力学特性 3. 簡易試験法	○	演習	レポート(演習問題)
5.	岩盤分類法 1. テルツァギーの荷重分類	○	演習	レポート(演習問題)
6.	岩盤分類法 2. RQD,RMR, Qシステム	○	演習	レポート(演習問題)
7.	岩盤分類法 3. 岩石の破壊基準	○	演習	レポート(演習問題)
8.	原位置試験法 1. 水圧破砕法、応力再現法	○	演習	レポート(演習問題)
9.	原位置試験法 2. 孔底ひずみ法	○	演習	レポート(演習問題)
10.	原位置試験法 3. 孔径変形法、AE法、DRA法	○	演習	レポート(演習問題)
11.	地下空洞の設計法 1. 隣接空洞の影響	○	演習	レポート(演習問題)
12.	地下空洞の設計法 2. 空洞形状の影響	○	演習	レポート(演習問題)
13.	地下空洞の補強法 1. 地下空洞の支保システム	○	演習	レポート(演習問題)
14.	地下空洞の補強法 2. 今後の坑内採掘システム	○	演習	レポート(演習問題)
15.	レオロジーモデル	○	演習	レポート(演習問題)

授業以外での学習にあたって	特記すべきことなし。
テキスト	Rock Mechanics Principles in Engineering, J.A.Hudson, Butterworth-Heinemann, Pub., London, (1989)
参考書	岩石力学入門, 山口梅太郎・西松裕一,東京大学出版会(1991)

授業資料	
成績評価	

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎							80%
			○	◎					10%
				○					10%

成績評価基準に関わる補足事項	出席点（10点）と，毎週行う演習問題に対する小テスト（10点），上記の到達目標に関連した期末試験の結果（80点）を総合して評価し，60点以上を合格とする。なお，講義を4回欠席したものについては再履修とする。
ルーブリック	地下空洞設計法 ルーブリック.pdf
学習相談	質問等がある場合には，講義日の16時から17時に教員室にて対応する。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-27 16:33:05.223

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	地圏開発システム工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	地圏開発システム工学
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 2時限
必修選択	選択 / Elective
単位数	2.0
担当教員	笹岡 孝司
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地圏開発システム工学とは、岩盤構造物を設計、施工する上で必要な理論および数値解析の基礎を理解する学問である。特に、数値解析の中でも応力解析における有限要素法は、地殻中の有用鉱物やエネルギー資源を開発する上で広く利用されている。本授業では、地圏開発システムの基本概念や将来構想、最新技術とともに、地下空間の設計に利用される有限要素法の基礎原理や適用例を修得する。 The Geosphere development systems engineering, is a study to understand the design of the rock structure, the foundation of the necessary theory and numerical analysis in terms of construction. In particular, the finite element method in stress analysis among the numerical analysis is widely used in the development of useful minerals and energy resources in the earth's crust. In this class, the basic concepts and future plans of the Geosphere development system, along with the state-of-the-art technology, to learn the basic principles and application of the finite element method to be used in the design of underground space.
キーワード	地圏開発, エネルギー原理, 破壊理論, 坑内採掘法, 有限要素法
履修条件等	固体力学、岩盤工学および地下空洞設計法を受講しておくこと。
履修に必要な知識・能力	これまでに基幹教育科目で学んだ基本的な力学に加え、簡単な微積分が解ける必要である。

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	A:知識・理解	地圏開発システム工学の基礎原理や特徴を理解するととともに、実際の適用例に関する必要最小限の基本的事項を理解することができる。
2.	B:専門的技能	地圏開発システム工学の基本概念や最新技術を理解できる。 ・有限要素法の基礎となるエネルギー原理や岩石の破壊が理解できる。
3.	C:汎用的技能	地圏開発システム工学に関する必要最小限の基本的事項を種々の解析例に対して展開することができる。
4.	D:態度・志向性	身近な力学現象に興味を持ち、それを定性的に説明できる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	地圏開発システム工学とは	○		
2.	エネルギー原理	○	演習	レポート
3.	エネルギー原理	○	演習	レポート
4.	材料の破壊	○	演習	レポート
5.	材料の破壊	○	演習	レポート
6.	材料の破壊	○	演習	レポート
7.	坑内採掘法1	○	演習	
8.	坑内採掘法2	○	演習	
9.	坑内採掘法3	○	演習	
10.	坑内採掘法4	○	演習	
11.	坑内採掘法5	○	演習	レポート
12.	石炭の地下ガス化	○	演習	
13.	大深度地下利用(シールド工法＆NATM工法)	○	演習	レポート
14.	大深度地下利用(推進工法)	○	演習	レポート
15.	数値解析によるアプローチ	○	演習	レポート

授業以外での学習にあたって

特記すべきことなし。

テキスト

配布する資料を用いる。

参考書

岩石力学入門, 山口梅太郎・西松裕一,東京大学出版会(1991)
応力解析入門, G.N.スミス・瀬川富士訳, ブレイン図書(1985)

授業資料

成績評価

成績評価基準に関わる補足事項

出席点(10点)と, 毎週行う演習問題に対する小テスト(10点), 上記の到達目標に関連した期末試験の結果(80点)を総合して評価し, 60点以上を合格とする。なお, 講義を5回以上欠席したものについては再履修とする。

ルーブリック

地圏開発システム工学 ルーブリック.pdf

学習相談

質問等がある場合には, 講義日の16時から17時に教員室にて対応する。

添付ファイル

その他	2017/10/18更新
更新日付	2017-10-02 09:04:52.93

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	エネルギー資源工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	エネルギー資源工学
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 4時限
必修選択	必修 / Required
単位数	2.0
担当教員	ｼﾞｬﾘﾘﾅｽﾗﾊﾞﾃﾞｨ ｻｲｰﾄﾞ
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	英語及び日本語を併用(E/J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	在来型エネルギー資源および再生可能エネルギーの特徴を理解するとともにエネルギーの利用について学ぶ At the end of this course, it is expected that students gain general understanding about conventional energy resources as well as renewable energies and their utilization
キーワード	石油、天然ガス、メタンハイドレート、再生可能エネルギー、エネルギー効率、エクセルギー
履修条件等	特になし
履修に必要な 知識・能力	
到達目標	

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	石油、天然ガス、石炭などの炭化水素資源の特徴を理解する。これらの資源の生産量と消費量に関する統計資料を用い需要と供給の関係について議論できる
2.	B:専門的技能	各種炭化水素資源の消費に伴って排出される二酸化炭素量を計算し、二酸化炭素排出用削減策について議論できる

PAGE TOP

2017/10/18更新

3.	C:汎用的技能	再生可能エネルギー、未利用エネルギーの特徴を理解し、それらの利活用方法と導入方法を議論できる
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	現代社会とエネルギー	○		
2.	エネルギー資源の需要と供給	○	レポート	
3.	炭酸ガス排出量	○	演習	
4.	石油資源の埋蔵量と分布	○	レポート	
5.	天然ガス資源の埋蔵量と分布	○		
6.	石炭の埋蔵量と分布	○		
7.	非在来型資源、メタンハイドレート	○	演習	
8.	再生可能エネルギー、バイオマスの特徴	○		
9.	再生可能エネルギー、風力発電	○	演習	
10.	自然エネルギーの利用における問題点と解決方法	○		
11.	省エネルギー技術	○		
12.	未利用エネルギー資源	○		
13.	エネルギー保存則	○	演習	
14.	カルノー効率とエクセルギー、海洋温度差発電	○	演習	
15.	ヒートポンプ	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	テキストは使用せず、必要な資料を講義時に配付する
参考書	内山洋司、私たちのエネルギー、培風館 石川憲二、自然エネルギーの可能性と限界、オーム社
授業資料	
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	出席状況、講義内容に関するレポートと演習問題の解答(20点)および到達目標に関連した期末試験の結果(80点)を総合して評価する
ルーブリック	
学習相談	質問等があるときは，教員室(ウェスト2号館437号室)にて対応する
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-10-02 11:20:37.966

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	地層内物質移動工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	地層内物質移動工学 / Mass and Energy Transport in Subsurface
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	コース必修 / Required for Earth System Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	藤光 康宏
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(地シス) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地層内における物質およびエネルギー移動現象の物理的化学的メカニズムを理解し、それらを表現する偏微分方程式の導出と解法を学ぶ To understand physical and chemical mechanisms of mass and energy transport in subsurface and to learn about partial differential equations that describe transport phenomena and its solution
キーワード	物質輸送、ダルシー則、移流分散現象
履修条件等	特になし
履修に必要な 知識・能力	
到達目標	

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	地層内における流体の流れを表すダルシー則を理解する
2.	B:専門的技能	輸送現象を記述する偏微分方程式の導出法を理解する

PAGE TOP

2017/10/18更新

	3.	C:汎用的技能	偏微分方程式の解析解を理解する
	4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	地層内における物質移動現象	○		
2.	多孔質層内の流れとダルシー則	○	演習	
3.	フラクチャー内の流れ	○	演習	
4.	浸透率と空げき率	○	レポート	
5.	地層内における物質輸送の基礎方程式の導出	○	演習	
6.	地層内におけるエネルギー輸送	○	演習	
7.	流体の物性値と無次元数	○		
8.	自然対流と強制対流	○		
9.	地中熱利用の基礎	○		
10.	溶存物質の移動現象、移流分散方程式の導出	○	演習	
11.	拡散と分散	○	演習	
12.	炭酸種の化学	○	演習	
13.	鉱物の溶解と析出	○		
14.	地層内における化学反応	○		

授業以外での学習にあたって	
テキスト	教科書は使用せず必要な資料を講義時に配布する
参考書	Geochemistry, groundwater and pollution, Appelo, C.A.J. and Postma D., BALKEMA, 2005
授業資料	
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	出席状況、講義内容に関するレポートと演習問題の解答(20点)および到達目標に関連した期末試験の結果(80点)を総合して評価する
ルーブリック	ルーブリック.pdf
学習相談	質問等がある場合は教員室(ウェスト2号館435号室)にて対応する
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-10 08:25:28.674

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	構造力学第一
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 2時限
必修選択	コース必修 / Required for Civil Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	園田 佳巨
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(建都) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	構造力学第一では，力のつり合いだけで断面力を求めることができる静定ばりや静定トラスを対象に，部材内に生じる断面力(軸力，せん断力，曲げモーメント)や変形量を求める方法を学ぶ。 Structural Mechanics I treats statically determinate structue such as simple beam and statically determinate truss and students study how to calculate cross-sectional forces (axial force, shear force and bending moment) and displacement.
キーワード	はり・柱，トラス，断面力(軸力，せん断力，曲げモーメント)，変位
履修条件等	固体力学を既に履習していること
履修に必要な 知識・能力	応力やひずみを理解していること

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	はりの支持条件を理解し，支点反力を求めることができる。
	B:専門的	

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標	2.	技能	静定ばりのせん断力図，曲げモーメント図を描くことができる。
	3.	B:専門的技能	はりの断面諸量（断面1次モーメント，断面2次モーメント）を計算し，曲げ変形による断面内の応力分布を求めることができる。
	4.	B:専門的技能	静定ばりの変形量を計算できる。
	5.	A:知識・理解	静定ばりの影響線を理解し，移動荷重による最大せん断力・最大曲げモーメントを求めることができる。
	6.	B:専門的技能	静定トラスの断面力を2通りの方法（節点法・断面法）で求めることができる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	はりの支点反力	○		
2.	静定ばりの断面力			
3.	静定ばりのせん断力図・曲げモーメント図			
4.	断面1次モーメント・断面2次モーメント			
5.	曲げを受けるはり断面内の応力			
6.	はりの変位（微分方程式による解法）			
7.	はりの変位（モールの定理による解法）			
8.	静定ばりの影響線 （反力・せん断力・曲げモーメント）			
9.	影響線を用いた解法（移動荷重による断面力）			
10.	トラス構造とは			
11.	静定トラスの断面力（節点法による解法）			
12.	静定トラスの断面力（断面法による解法）			
13.	線形構造と重ね合わせの原理			
14.	重ね合わせの原理を用いた不静定構造の解法			

授業以外での学習にあたって	
テキスト	構造力学 コロナ社 青木徹彦著
参考書	
授業資料	
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-10-03 21:48:34.632

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	情報処理概論
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 4時限
必修選択	必修 / Required
単位数	2.0
担当教員	浅井 光輝
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(建都) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	建設都市工学コース(土木工学)で必要となる情報処理技術の基礎を高級言語のひとつであるFortranを通して学び、演習する。また、演習環境としては、外部サーバーを使用することを前提とし、各自の所有するノートパソコンを端末とし、外部サーバにログインし、サーバ上で準備されたテキストエディタにてプログラムを書き、コンパイル、実行するまでの一連の操作方法を学ぶ。 In this lecture, students study the fundamental treatment of information processing technologies in Civil Engineering through Fotrran which is one of the programming languages. Students should use the extearnal sever from their own PC for this class. Then, students study the whole process which includes the login process, writting the program by a text editor in the server, compile and execute the program.
キーワード	Frotran, Linux
履修条件等	特になし
履修に必要な 知識・能力	特になし

No	観点	詳細
1.	A:知識・理	端末から外部サーバにログインし、unixのコマンドでサーバを動かす仕組みを理解する。

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標		解	
	2.	B：専門的技能	Fortranを通してプログラミングの基礎を理解する。 Fortranの文法を最低限理解する。
	3.	C：汎用的技能	FTP,SSHなど、ネットを通じてサーバにログインし、サーバとのファイルの交換ができるようにする。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	基礎知識の説明	○		
2.	サーバへのログイン、テキストエディタの使用方法	○	端末からサーバにログインし、演習する。	
3.	Fortranの基礎の説明	○	サーバ上で演習しながら、基礎を学ぶ。	
4.	ファイルへの入出力の基礎	○	Fortranを使って演習する。	
5.	繰り返し計算	○	Fortranを使って演習する。	
6.	条件文	○	Fortranを使って演習する。	
7.	組み込み関数の使用	○	Fortranを使って演習する。	
8.	ユーザ定義関数	○	Fortranを使って演習する。	
9.	サブルーチンの使用方法	○	Fortranを使って演習する。	

授業以外での学習にあたって	
テキスト	講義前に印刷用PDFを配布します。
参考書	
授業資料	講義前に印刷用PDFを配布します。
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	出席点と定期試験の合計点で評価します。
ルーブリック	ルーブリック参照
学習相談	事前にコンタクトしていただければ対応します。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-08-17 13:20:21.51

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	鋼構造工学
科目ナンバリングコード	
講義題目	Steel Structural Engineering
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 2時限
必修選択	コース選択 / Elective for Civil Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	貝沼 重信
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(建都) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	鋼橋をはじめとする鋼構造物の単一部材の引張，圧縮，曲げなどに対する強度設計や部材相互の接合法についての基本的な考え方を身につける。 This course is designed to learn caliculation procedure of structural members for tension, compression, bending, and shear, and connection of each member, etc.
キーワード	鋼構造，橋梁，設計計算
履修条件等	構造力学
履修に必要な知識・能力	構造力学
到達目標	

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	鋼材の製造工程および性質や，鋼橋の橋梁形式および構成部材について理解できること。
	B:専門的	単一構造要素としての引張，圧縮，曲げなどの作用と抵抗について理解し，それらの抵抗強度

PAGE TOP

2017/10/18更新

2.	技能	および設計の考え方について理解できること。
3.	D:態度・志向性	構造物の計画，調査，設計，施工，維持管理までの各段階での技術者の役割と倫理観について理解できること。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	概説， 鋼構造分野での技術者倫理の実例	○		
2.	鋼橋の分類と構造（各部の名称， 構造的特徴，実例の紹介）	○		
3.	鋼材の製造と性質	○		
4.	荷重の種類と大きさ	○		
5.	部材の強度と設計	○	(1)引張を受ける部材（演習）	
6.	部材の強度と設計	○	(2)圧縮を受ける部材（演習）	
7.	部材の強度と設計	○	(3)曲げを受ける部材（演習）	
8.	部材の接合	○	(1)溶接継手（演習）	
9.	部材の接合	○	(2)高力ボルト（演習）	
10.	期末試験			

授業以外での学習にあたって	演習レポート
テキスト	講義で配布
参考書	三木千壽：鋼構造，共立出版(株)
授業資料	講義で配布
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	期末試験（80%），演習・レポート（20%）
ルーブリック	
学習相談	質問等がある場合には，講義終了後に講義室または教員室にて対応する。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-10-03 10:29:40.57

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	構造解析学
科目ナンバリングコード	
講義題目	Structural Analysis
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 2時限
必修選択	コース選択 / Elective for Civil Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	梶田 幸秀
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(建都) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	3
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	はりやトラス，ラーメン構造物をコンピューターを利用して構造計算することを目的とする。具体的には，マトリックス構造解析や有限要素法の基礎理論を学び，剛性マトリックスの作成方法を学ぶ The objective of this course is to learn how to get the displacement or the section force of beam, truss and rigid-frame structures by using the computer. Students learn the basic theory of the Matrix Structural Analysis and Finite Element Method and learn how to make the stiffness matrix and so on.
キーワード	マトリックス構造解析，有限要素法
履修条件等	固体力学，構造力学第一，構造力学第二を履修していること
履修に必要な 知識・能力	線形代数と構造力学の知識
到達目標	

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	
2.	B:専門的技能	

PAGE TOP

	3.	C：汎用的技能	
	4.	D：態度・志向性	

授業計画	
授業以外での学習にあたって	宿題を課すので，しっかりと解くこと 宿題を提出することが単位認定の条件です（欠格条件）
テキスト	特になし
参考書	塾長秘伝 有限要素法の学び方，ISBN 978-4-526-06679-5
授業資料	Moodle で公開しています。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	◎	◎					
	○	○	○	○					欠格条件
	○	○	○	○					欠格条件
	○	○	○	○					欠格条件

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	
学習相談	いつでも可能
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-30 12:02:07.509

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	流体力学基礎
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	選択 / Elective
単位数	2.0
担当教員	矢野 真一郎
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(建都) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地表および地下の流体流動の特性を理解し，安全かつ環境に配慮した地球環境を保持・創造するためには，流体運動のメカニズムに対する知識は不可欠となってくる。以上のような問題を取り扱える工学者を生育するために，本授業では，流体力学の基礎を学習する。 To understand the characteristics of water flows and to conserve the global environment, fundamental knowledge of fluid mechanics and hydraulics is necessary. In this course, we study on the fundamental topics in hydraulics, such as pipe flow, static water dynamics, dimensional analysis, hydrostatic pressure, and so on.
キーワード	流体，静水圧，次元解析，管路流，ベルヌーイの定理，運動量の定理
履修条件等	特になし.
履修に必要な 知識・能力	数学(特に微分・積分と微分方程式に関する知識)と力学の基礎的知識(質点系力学)が必要.

No	観点	詳細
	A	1. 流体の性質に関する基礎的な内容を説明できる. 2. 流体の運動，圧力等に関する基礎的な内容を説明できる.

PAGE TOP

到達目標

1.	知識・理解/ Knowledge and Understanding	3. 次元解析の理論を説明できる. 4. 管路流の理論を説明できる.
2.	B 専門的技能/ Skills and other attributes	1. 流体力学の理論から，エネルギー方程式や運動量方程式を誘導できる. 2. 静止流体力学の理論から静水圧などの求め方を導出できる. 3. 次元解析の理論から物理現象を無次元式で表現できる. 4. 管路流の理論から，管路のエネルギーの関係などを表現できる.
3.	C 汎用的技能/ Transferable Skills	1. エネルギー方程式や運動量方程式を用いて，流体運動を記述できる. 2. 具体的な場について静水圧などを計算できる. 3. 次元解析を物理実験に用いる方法を説明できる. 4. 管路流の理論から，具体的な管路の流れを表現できる.
4.	D 態度・志向性/ Status and Value to Society	1. 管路水理学の意味を理解し，管路の設計などに寄与する意欲を持つ. 2. 水環境問題における流体運動の意味を理解し，水環境保全に寄与する意欲を持つ.

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	流体力学・水理学をなぜ学ぶか？			
2.	流体の性質	○		
3.	静水圧（1）	○		
4.	静水圧（2）	○		
5.	次元解析（1）	○		
6.	次元解析（2）	○		
7.	一次元流れの基礎（1）	○		
8.	一次元流れの基礎（2）	○		
9.	管路流の理論（1）	○		
10.	管路流の理論（2）	○		
11.	管路流の理論（3）	○		
12.	単線管路流（1）	○		
13.	単線管路流（2）	○		
14.	複雑な管路流	○		
15.	期末試験		○	

授業以外での学習にあたって

予習：指定された教科書の該当ページを通読しておく.

復習：指定された教科書，ならびに配布される演習用資料について演習問題などを学習する.

テキスト

新編水理学（小松利光・矢野真一郎監修，理工図書）

参考書

水理学I（椿東一郎著），明解水理学（日野幹雄著）

授業資料

必要に応じて配布する.

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）

成績評価		◎	◎	◎						80%
					◎					20%
成績評価基準に関わる補足事項	出席点と期末試験により総合的に評価する.									
ルーブリック										
学習相談	質問等がある場合には，随時，教員室にて対応する。質問はeメールでも受け付ける。ただし，試験の成績や合否についてはメールでは受け付けない.									
添付ファイル										
その他										
更新日付	2017-03-29 12:00:28.579									

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	水理学第一
科目ナンバリングコード	
講義題目	
授業科目区分	専攻教育科目 / Specialized Courses
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 3時限
必修選択	コース必修 / Required for Civil Engineering Course
単位数	2.0
担当教員	矢野 真一郎
開講学部・学府	工学部
対象学部等	地球環境工学科(建都) / Department of Earth Resources, Marine and Civil Engineering
対象学年	2
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地表および地下の流体流動の特性を理解し，安全かつ環境に配慮した地球環境を保持・創造するためには，流体運動のメカニズムに対する知識は不可欠となってくる。以上のような問題を取り扱える工学者を生育するために，本授業では，水理学の基礎を学習する。 To understand the characteristics of water flows and to conserve the global environment, fundamental knowledge of fluid mechanics and hydraulics is necessary. In this course, we study on the fundamental topics in hydraulics, such as open channel flow and basic equations.
キーワード	開水路流れ，ナビア・ストークスの方程式，連続の式
履修条件等	流体力学基礎を受講済みであること.
履修に必要な 知識・能力	流体力学基礎で学んだ内容を理解していること.

No	観点	詳細
1.	知識・理解	1. 開水路流れに関する基礎的な内容を説明できる. 2. 開水路流れの水面形を説明できる. 3. 基礎方程式の導出について説明できる.

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

		4. 層流の理論と基本解の導出を説明できる.
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	開水路流れの理論(1)			
2.	開水路流れの理論(2)	○		
3.	開水路流れの理論(3)	○		
4.	開水路流れの理論(4)	○		
5.	開水路流れの理論(5)	○		
6.	開水路流れの理論(6)	○		
7.	開水路流れの理論(7)	○		
8.	開水路流れの理論(8)	○		
9.	堰と水門の水理	○		
10.	流体力学の基礎方程式(1)	○		
11.	流体力学の基礎方程式(2)	○		
12.	流体力学の基礎方程式(3)	○		
13.	流体力学の基礎方程式(4)	○		
14.	流体力学の基礎方程式(5)	○		
15.	期末試験		○	

授業以外での学習にあたって

予習:指定された教科書の該当ページを通読しておく.
復習:指定された教科書, ならびに配布される演習用資料について演習問題などを学習する.

テキスト

新編水理学(小松利光・矢野真一郎監修, 理工図書)

参考書

水理学I(椿東一郎著), 明解水理学(日野幹雄著)

授業資料

必要に応じて配布する.

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								
	◎								

2017/10/18更新

成績評価基準に関わる補足事項	出席点（20%）と期末試験（80%）により総合的に評価する.
ルーブリック	
学習相談	質問等がある場合には，随時，教員室にて対応する。質問はeメールでも受け付ける。ただし，試験の成績や合否についてはメールでは受け付けない.
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-15 05:19:04.046

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	アグリフードシステムと農学
科目ナンバリングコード	AGR-AGR2051J、AGR-AEE2051JAGR-AGE2051J、AGR-MBI2051J、AGR-FST2051JA
講義題目	アグリフードシステムと農学
授業科目区分	(農)低年次専攻教育科目 (Agr)The Low year Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 2時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	南石 晃明
開講学部・学府	農学部
対象学部等	各コース共通(Common Subject in All Courses)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	旧工学部本館大講義室
その他 (自由記述欄)	

授業概要	農林水産業・食料・環境をめぐる諸問題の解決には、食料の生産・流通・消費に関わる各産業を「アグリフードシステム」という概念で一体のものとして捉え、総合的な視点から解決策を考える必要がある。また、その際には、自然科学的なアプローチだけでなく、社会科学的なアプローチも必要となる。この授業では、社会科学的観点から、アグリフードシステムに関する様々なトピックスについて理解する。 The aim of this course is to learn topics in the agri-food system from the viewpoint of social science.
キーワード	アグリフードシステム、社会科学、経済学、経営学
履修条件等	特になし。
履修に必要な知識・能力	特になし。

No	観点	詳細
1.	知識・理解・技能	アグリフードシステムに関するトピックスについて理解するとともに、それらについて社会科学的観点からの説明ができる。

PAGE TOP

到達目標	2.	B:専門的技能	アグリフードシステムに関するトピックスについて専門用語の説明ができる。
	3.	C:汎用的技能	アグリフードシステムに関するトピックスに基づいて食料問題、環境問題、農業問題について議論ができる。
	4.	D:態度・志向性	アグリフードシステムに関するトピックスに関する新聞、図書、報道等に常に関心と興味を持つ。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	アグリフードシステムと農業経営	○		
2.	農業環境プログラムの国際比較	○		
3.	Contemporary Global Food Supply and Potential	○		
4.	食料流通の特質とマーケティング	○		
5.	協同組合セクターと日本の農協	○		
6.	林業の特質と森林資源管理	○		
7.	我が国の水産業の動向と魚食文化	○		
8.	フェアートレードから見る途上国の農業と持続可能な発展	○		
9.	国際農業開発における持続可能性の問題	○		
10.	アグリフードシステムと農村計画	○		
11.	経済のグローバル化と食料貿易	○		
12.	寡占化・製品差別化と食料産業組織	○		
13.	農産物・水産物の消費量が自然生態系にもたらす環境インパクト	○		
14.	農業の多面的機能と現代の食生活	○		
15.	試験	○		

授業以外での学習にあたって	新聞等を利用してアグリフードシステムの実際に触れ、それを社会科学的観点から説明する習慣を身につけていただきたい。
テキスト	
参考書	
授業資料	各回の担当教員より、適宜配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								90%
	○								10%

成績評価基準に関わる補足	

事項	
ルーブリック	アグリフードシステムと農学ルーブリック.pdf
学習相談	授業内容に関することは、各回の担当教員に直接相談すること。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-01 19:21:00.695

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	生物生産生態学
科目ナンバリングコード	AGR-AGR2023J、AGR-AEE2023J、AGR-MBI2023J、AGR-MBS2023J
講義題目	生物生産生態学
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 1時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	上野 修 津田 みどり
開講学部・学府	農学部
対象学部等	各コース共通(Common Subject in All Courses)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	防-103
その他 (自由記述欄)	

授業概要	現代農業の課題は、自然環境の保全を配慮しつつも、農耕地で以下に効率よく生産性を上げるか、あるいは森林資源や水産資源を以下に管理し利用するかについて、科学的に究明することである。これは、農耕地や森林あるいは海洋における応用生態学そのものである。この講義では、個体レベルから生態系レベルまでの生態学の全体像を理解するために必要な基本概念を総合的に概説する。 This lecture provides basic concept and knowledge to understand ecology from individual level to ecosystem.
キーワード	生理生態学、個体群生態学、群集生態学、群落と遷移、植物の分布と環境、植物の物質生産
履修条件等	なし
履修に必要な知識・能力	

No	観点	詳細
		1)生物と環境の相互作用について理解する。 2)動物個体群動態の法則を理解する。 3)植物群落の生産構造を理解する。

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	A:知識・理解	4)植物の遷移を理解する。 5)生物群集の法則性を理解する。 6)生態系の構造と機能を理解する。 7)生態系における物質循環を理解する。
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	概要(植物生態学の歴史)	○		
2.	群落の組成と構造	○		
3.	群落の機能	○		
4.	群落の遷移	○		
5.	植物の分布と環境	○		
6.	植物の物質生産	○		
7.	植物の成長解析法	○		
8.	動物の生態学(計7回)	○		
9.	動物の生態学			
10.	動物の生態学			
11.	動物の生態学			
12.	動物の生態学			
13.	動物の生態学			
14.	動物の生態学			
15.	試験			

授業以外での学習にあたって

テキスト

なし。

参考書

生態学入門(日本生態学会編)東京化学同人
植物生態学(寺島ほか)朝倉書店
図説植物生態学(沼田編)朝倉書店

授業資料

プリント資料を配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								
									学期末試験を受ける

		◎							には出席日数が2/3以上必要とする。 2017/10/18更新

成績評価基準に関わる補足事項	出席日数が2／3以上の受講生に対して、学期末試験により判定する。
ルーブリック	生物生産生態学ルールブリック Sheet1.pdf
学習相談	随時
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-10-03 17:36:07.814

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	灌漑工学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE2212J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	凌 祥之 谷口 智之
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物資源生産科学コース(Agricultural Resources,Engineering and Economics)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	原則として日本語
教室	2-502
その他 (自由記述欄)	

授業概要	灌漑工学は，農業生産に関わる水利用の主要な部分を占め，実に地球上の湛水の約70%程度を占めている灌漑に関する，工学的な取り扱いを解説するものである．農地における必要水量を算定し，各種の灌漑施設の規模を決定し，散水の方法を決定するための基礎的な知見を学習する．特に，イネを主体とする水田と畑作物を栽培する畑地は，湛水の有無や，土壌，対象作物が異なるために，別々に解説する． 生物生産環境工学分野のカリキュラムにおいて，灌漑工学は基礎と応用科目であり，水理学Ⅰ，水理学Ⅱを基礎学として，利水工学，土壌物理学，土壌学，気象学，水環境工学など水，土と気象に関わる講義科目に必要な知識を含む． ※九州大学農業土木プログラム(JABEE認定)の学習・教育到達目標との対応 灌漑工学は，「C：農業土木技術者として必要な知識・技術の修得」における「C2：土，水，基盤，環境に関する計画，設計の基礎の理解」を主体的に含む科目であり，また環境工学実験Ⅰに繋がる． ※JABEE認定基準1(2)との対応 灌漑工学は，「d：当該分野(農業工学関連分野)において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力」の内容を主体的に含み，また「e：種々の科学，技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」の内容を付随的に含む． “Irrigation Engineering” is the class on utilization of water for Agriculture, namely irrigation which occupies about 70% of pure water on the earth, from engineering points of views. In this class, it is taught to calculate the required irrigation water amount for farmland or crop production, settlement of the capacity volume such as dams, channels, ponds etc. and irrigation methodology such as sprinklers &channels for both rice paddy where rice is cultivated and non-rice paddy where other kinds of crops are grown. Because they are quite different characteristics in terms of water ponding conditions, soils and target crops, etc. In this curriculum of “Agro-production Environmental Engineering course”, this “Irrigation Engineering” is a both fundamental and applied one. And this is based on the fundamental subjects, such as “Hydraulics Ⅰ”, “Hydraulics Ⅱ”, and this is related to the subjects relating to soil, water and meteorology, namely “Soil Physics”, ‘Soil Science”, “Meteorology”, and “Water Environmental Engineering”. Expected goal of Learning &Education at Kyushu Univ. ,Irrigation , drainage and Land Reclamation Engineering, JABEE programs

PAGE TOP

	Irrigation Engineering is in the “C; Obtaining of required knowledge and technologies”, and it contains mainly “C2; understanding of fundamental knowledge base of planning& designing on soil, water, base& environments and it relates to “Experiments of Environmental Engineering. It is related to JABEE design standard 1(2) Irrigation engineering contains mainly “d; Scientific knowledges on this division and applied capability” and additionally it contains “e; Design capability of solving required requests from the society”. 2017/10/18更新
キーワード	水量，シロカキ，水田，畑，スプリンクラー/ Water requirement, paddling, rice paddy, non-rice paddy , sprinklers
履修条件等	特段なし
履修に必要な知識・能力	特段なし

到達目標

No	観点	詳細
1.	A：知識・理解	・灌漑，農業における水利用の必要性【学習目標1】 ・用水量算定上の基礎的な単語【学習目標2】 ・水田における用水量の算定手順【学習目標3】 ・畑における用水量の算定手順【学習目標4】 ・乾燥地における灌漑に起因する問題点と対策【学習目標5】
2.	B：専門的技能	
3.	C：汎用的技能	
4.	D：態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	水田灌漑 1（灌漑の目的と水田管理）	○		
2.	水田灌漑 2（水田の水収支）	○		
3.	水田灌漑 3（水利権と用水計画）	○		
4.	水田灌漑 4（水利施設）	○		
5.	水田灌漑 5（土地改良区）	○		
6.	水田灌漑 6（水田灌漑に関わる最近の動向）	○		
7.	水田灌漑 7（多面的機能，中間試験）	○		
8.	畑地潅漑 1（畑地潅漑の概要）	○		
9.	畑地潅漑 2（畑地と水）	○		
10.	畑地潅漑 3（単位用水量1）	○		
11.	畑地潅漑 4（単位用水量2）	○	演習 1	
12.	畑地潅漑 5（末端施設）	○		
13.	畑地潅漑 6（用水計画）	○	演習2	
14.	灌漑施設計画	○		
15.	期末試験			

授業以外での学習にあたって	演習課題を複数回課す
テキスト	水田灌漑については特に指定せず，毎回の講義で配布する 畑地灌漑については授業開始後に渡す
参考書	「改訂7版 農業農村工学ハンドブック」（農業農村工学会） 「土地改良事業計画設計基準 計画 農業用水（水田）」（農林水産省） 「土地改良事業計画設計基準 計画 ほ場整備（水田）」（農林水産省） 「農地環境工学」（山路，塩沢） 文永堂 「新編 灌漑排水 上巻」（丸山ら） 養賢堂

2017/10/18更新

授業資料	水田灌漑については適宜配布する 畑地潅漑については授業前に渡す
成績評価	
成績評価基準に関わる補足事項	試験（期末試験と中間試験）とレポートの提出
ルーブリック	Rubrics Irrigation Engineering.pdf
学習相談	適宜来室可能
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-08 13:22:13.051

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	土壌学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE2231J、AGR-MBI2311J、AGR-FST2411J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 2時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	平舘 俊太郎
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物資源生産科学コース(Agricultural Resources,Engineering and Economics)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	21CPⅡ第1講義室
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地球の陸地の最表層部は土壌で覆われています．土壌は，単に岩石が細粒化したものではなく，多様な岩石を母材としてその物理的・化学的変質や，変質物の移動・堆積によって生成した粉粒体の層です．この層はほとんどすべての陸上植物の培地であり，莫大な数の微生物のすみかであり，また地球における物質循環の要(かなめ)です．土壌は大気組成にも大きな影響を与えています．いわゆる地球環境問題や，土壌・地下水の汚染などの環境問題の理解には，土壌の理解が不可欠です．最近，このことが強く認識されるようになり，建設会社やコンサルタント会社等では土壌に関する基礎知識をもつ技術者に対する需要が高まっています．この授業では，土壌の保全や修復を強く意識しながら， i) 土壌はどのような物質からできているか ii) 土壌はどのようにして生成したか iii) 陸域生態系において土壌はどのような機能を果たしているか など，基礎的な事項について系統的に解説します． ※九州大学農業土木プログラム(JABEE認定)の学習・教育到達目標との対応 土壌学は，「C:農業土木技術者として必要な知識・技術の修得」の，「C2:土，水，基盤，環境に関する計画・設計の基礎の理解」を主体的に含み，「F:グローバルな社会の中で，特に九州地域やアジアモンスーン地域における農業の展開に係る農業土木技術者の役割を認識できる能力」を付随的に含む科目です． ※JABEE認定基準1(2)との対応 土壌学は，「d:当該分野(農業工学関連分野)において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力」の内容を主体的に含み，また「e:種々の科学，技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」の内容を付随的に含みます． The terrestrial surface of the earth is fully covered with soil. The soil is not merely finely fragmented rocks, but it is a layer of materials that formed by various earth surface processes including physical and chemical alteration of rocks, migration and re-deposition of the altered materials. This layer serves as a nutrient medium for almost all plants and a habitat for microbes. It plays a pivotal role in the circulation of elements on the earth. It has greatly influenced on the composition of the atmosphere. For comprehensive understanding of so called global environmental problems and issues on soil and groundwater pollution, relevant knowledge of nature and portieres of the soil is indispensable. With this recognition, many constructing and consulting firms are recruiting personnel having expertise of soil science. In this class, a series of introductory lectures are given with emphasis on

PAGE TOP

	i) materials composition of the soil ii) soil forming processes iii) functions of soil and soil materials in the earth surface processes.
キーワード	一次鉱物, 二次鉱物, 土壌鉱物, 土壌生成, 土壌分類, 土壌溶液, 陽イオン交換, 表面錯形成, 沈殿, 溶解, 陸域生態系, 生態学, 植物栄養分, 地球環境, 地域環境, 農業
履修条件等	なし
履修に必要な知識・能力	高校卒業程度の化学を理解していること

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:土壌に関する基礎知識の習得	土壌を構成する主要物質とそれらの基本的性質に関する知識を身につける
2.	B:土壌に関する基礎知識の応用	土壌を構成する主要物質とそれらの基本的性質に関する知識を基礎として, 土壌中で進行する化学的・生物的プロセスを理解する

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	私たちの生活を支える土壌: 私たちの暮らしと土壌がどのように関係しているかを学ぶ	○		
2.	さまざまな土壌: 酸性土壌とアルカリ性土壌	○		
3.	土壌生成のプロセス: 土壌生成因子、土壌の断面・層位の発達	○		
4.	土壌の分類と分布: US Soil Taxonomy、WRB、日本土壌分類体系	○		
5.	土壌の構成成分1: 無機物質(一次鉱物と二次鉱物)	○		
6.	土壌の構成成分2: 有機物質(腐植物質とその化学組成)	○		
7.	土壌の生物性: 細菌、放線菌、糸状菌、土壌動物、それらの機能	○		
8.	土壌の物理性1: 粒度組成(土性)、三相組成と表し方(密度など)、土壌構造・団粒構造	○		
9.	土壌の物理性2: 水ポテンシャル、植物による土壌からの水分吸収	○		
10.	土壌の化学性1: 土壌溶液、イオン交換反応、永久荷電、変異荷電、土壌の緩衝作用	○		
11.	土壌の化学性2: 配位子交換反応、沈殿反応、、酸化還元反応、土壌の養分動態	○		
12.	土壌診断: pH、置換酸度、可給態リン酸、CEC、交換性塩基、塩類濃度	○		
13.	土壌と環境1: 土壌と生態系:畑土壌、水田土壌、森林土壌における物質循環とそこに成立する生態系	○		
14.	土壌と環境2: 土壌と地球温暖化:土壌による炭素貯留、CO2、メタン、亜酸化窒素の生成、硝酸化成、バイオチャー	○		
15.	土壌と環境3: 土壌の汚染:重金属汚染、農薬汚染、富栄養化、砂漠化、酸性化	○		
16.	期末試験		試験	

授業以外での学習にあたって	授業内容が的確に知識として身につくよう, 復習を行うこと.

テキスト	とくに指定せず，授業に使用する資料は授業ごとに適宜配布する. 2017/10/18更新
参考書	1. 最新土壌学、朝倉書店／A5／232ページ／1997年／ISBN978-4-254-43061-5 C3061／定価4,536円（本体4,200円＋税）／久馬一剛 編 2. 土壌学の基礎：生成・機能・肥沃度・環境、農山漁村文化協会(農文協)／A5／412ページ／2003年／ISBNコード 9784540032943／定価4,104円（税込）／松中照夫 著
授業資料	1. 土壌を愛し、土壌を守る、日本ペドロジー学会編、博友社、2007. 2. 土壌調査ハンドブック、改訂版、日本ペドロジー学会編、博友社、1997. 3. Nyle C. Brady and Ray R. Weil (Eds.). The Nature and Properties of Soils, 12th ed., Prentice-Hall, Inc., 1999. 4. Syuntaro Hiradate, Jian Feng Ma, and Hideaki Matsumoto. STRATEGIES OF PLANTS TO ADAPT TO MINERAL STRESSES IN PROBLEM SOILS. Advances in Agronomy, 96, 65-132 (2007).
成績評価	

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎							
	○	○							
その他（自由記述1）									
その他（自由記述2）									
その他（自由記述3）									

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	2017 土壌学ルーブリック.pdf　　2017土壌学ルーブリック
学習相談	簡単な相談は、授業終了後に受け付けます. 時間がかかる場合には、電子メール経由でスケジュールや面会場所を設定の上、実施します.
添付ファイル	
その他	【授業の進め方】液晶プロジェクターを利用した説明が中心となる(配布資料有り). 【小テスト】講義内容の区切りを目安に小テストを実施する. 【再試験】学期末試験受験者のうち，小テストスコアが100点満点中60点以上の受講生を対象に，再試験を1回のみ実施する.
更新日付	2017-09-16 09:02:06.906

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	気象学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE2241J
講義題目	気象学
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 4時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	北野 雅治
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物資源生産科学コース(Agricultural Resources,Engineering and Economics)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	防-103
その他 (自由記述欄)	

授業概要	日々の生活にもっとも身近な自然現象である気象現象に含まれる多様な素過程(放射過程, 大気の熱力学過程, 雲物理学および降水過程, 大気の力学過程など)および気象観測等について概説するとともに, 人間および生物の活動に重大な影響を及ぼしている気候変動, 環境問題, 気象災害等の発生のメカニズムや影響について講義と議論を行う. ※九州大学農業土木プログラム(JABEE認定)の学習・教育到達目標との対応 気象学は, 「A:数学, 自然科学等の基礎学力の修得と新しい科学技術を吸収・深化させる能力」および「C:農業土木技術者として必要な知識・技術の修得」における「C2:土, 水, 基盤, 環境に関する計画・設計の基礎の理解」を主体的に含む科目である. ※JABEE認定基準1(2)との対応 気象学は, 「c:数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力」および「d:当該分野(農業工学関連分野)において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力」の内容を主体的に含み, また「e:種々の科学, 技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」の内容を付随的に含む. This class gives an outline of various processes in meteorological phenomenon (radiation, thermodynamics, cloud physics, precipitation, atmospheric dynamics, etc.), as the nearest natural phenomenon in daily life, and meteorological observations. Furthermore, Students learn the mechanisms of climate change, environmental problems, and meteorological disasters, which seriously affect life activity.
キーワード	気象, 大気, 輸送現象, 放射, エネルギー収支, 大気の熱力学, 水蒸気, 雲, 降水, 風, 大気大循環, 気候システム, 気候変動, 地球温暖化, 異常気象, 大気汚染, オゾン層破壊, エルニーニョ, 酸性雨, 砂漠化, 黄砂, 気象観測, 天気予報

PAGE TOP

履修条件等	特になし　　2017/10/18更新
履修に必要な知識・能力	気象現象，気候変動に興味を持って授業に臨んで欲しい．また，高校で物理を履修しなかった学生に対しても配慮した授業校生となっている．

到達目標

No	観点	詳細
1.	A 知識・理解 A 知識・理解 A 知識・理解	1. 地球大気の概要を理解する．
2.	A 知識・理解	2. 地球および大気のエネルギー収支を理解する．
3.	A 知識・理解	3. 大気中の水の動態を理解する．
4.	A 知識・理解	4. 風の吹き方を理解する．

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	大気の構造と気象現象	○		
2.	熱，温度，エネルギー，輸送現象	○		
3.	放射収支とエネルギー収支	○		
4.	季節および日々の温度	○		
5.	大気中の水分と気象	○		
6.	大気の安定度	○		
7.	雲および降水の物理	○		
8.	風のメカニズム	○		
9.	風：大気境界層と中・小規模の現象	○		
10.	風：台風，地球規模の現象	○		
11.	世界の気候，日本の気候	○		
12.	気候変動（その1）	○		
13.	気候変動（その2）	○		
14.	生物および農業と気象	○		
15.	気象観測と天気予報	○		
16.	学期末試験		試験	

授業以外での学習にあたって	講義で扱うトピックスの理解度をはかるための小テスト，レポートを課す場合がある．予習は特に必要ないが，復習は確実に行い次回までに不明点を残さないことが重要である．授業は最新気象百科（古川武彦監訳，椎野，伊藤訳，丸善株式会社）の図表を使用して，複雑な気象現象を感覚的に理解できるように進める。
テキスト	特に指定せず，授業に使用する資料は授業ごとに配布する．
参考書	最新気象百科（古川武彦監訳，椎野，伊藤訳，丸善株式会社），大気環境学（朝倉書店），基礎気象学（朝倉書店），気象の基礎知識（オーム社）
授業資料	適宜配布

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割

										合） 2017/10/18更新
成績評価		◎								
		○								
		○								

成績評価基準に関わる補足事項	学期末試験（100点満点で評価）と受講態度（出欠状況，小テスト受験などから100点満点で評価）より配点比率は8:2で判定する．60点未満を不合格（F）とし，A（90点以上），B（89～80），C（79～70），D（69～60）で成績を評価する．学期末試験では，記述を中心とする出題により到達目標1～7の達成度を評価する．また，受講態度の評価は，欠席回数，小テストの成績に応じて減点する．
ルーブリック	気象学ルーブリック2015.pdf
学習相談	毎週月曜日16：30～17：30をオフィスアワーとする．この時間帯以外でもいつでも質問などを受け付けるが，オフィスアワー以外の場合は事前に，E-mailあるいは研究室電話にて在室を確認すること．
添付ファイル	
その他	【授業の進め方】液晶プロジェクターを利用した説明が中心となる（配布資料有り）． 【出席確認】授業冒頭に行う．30分以内に遅れて来た者は遅刻とし，それ以上の遅れは欠席とする．授業終了30分前以前に退席した場合は欠席とする． 【再試験】学期末試験受験者のうち，出席日数が2/3以上（欠席回数が5回未満）の受講生を対象に，再試験を1回のみ実施する．
更新日付	2017-09-11 15:45:22.525

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	農地環境工学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE3221J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	東 孝寛
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物資源生産科学コース(Agricultural Resources,Engineering and Economics)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	2-213
その他 (自由記述欄)	

授業概要	農地環境工学は，高生産性であると同時に環境保全条件を備えている優良農地や快適な生活空間としての農村環境をつくるための技術工学であり，かつ土地利用についての科学である。その取り扱う分野は広範多岐にわたるが，本授業では，以下に記すように農地(水田)の整備・造成・保全に関するトピックスを中心に，我が国の食料・農業・農村の現状と問題点，および農地の役割(多面的機能など)や地球環境問題(砂漠化，土壌の塩類化など)などについても解説する。 授業では，自然環境と調和し，かつ高い生産性を有する農地の整備・造成技術や保全技術を修得するだけでなく，農地の多面的機能や地球環境問題についての理解を深めることにより，豊かな国土，快適な農村空間をつくり出す農業土木技術者として必要な農地環境工学に関する知識・技術を身につけさせることを目的としている。 ＜授業で扱うトピックス＞ 1. 開発と環境保全 2. 地球環境問題 3. 農地の役割 4. 水田の土壌と構造 5. 農地の多面的機能 6. 水田の地耐力 7. 水田の汎用化 8. 水田の農地組織 9. 換地処分 ＜授業の進め方＞ 授業では，テキストとして「農地環境工学」(山路永司・塩沢 昌編，文永堂出版，2008)を使用し，板書を中心に解説する。授業内容の理解度を深めるため，あるいは課題を探求し，組み立て，解決する能力を向上させるために，特定の課題についてのレポート(数回程度)を課す。レポートは，添削して返却する。 ※この授業科目は，生物生産環境工学分野(農業土木プログラム)では指定科目であり，プログラムの学習・教育到達目標C2，B，F，D3に関連しています。 This subject is one of the important applied subjects concerning the agricultural land, farmland consolidation, farmland conservation, multiple functions of agricultural land and environmental conservation, etc. in the irrigation, drainage and rural engineering, and has treated the following content. a) Development and environmental conservation b) Problems of global environment problems c) Role of agricultural land

PAGE TOP

d) Soil and structure of paddy field
e) Multiple functions of agricultural land
f) Bearing capacity of paddy field
g) Conversion of paddy field into multi-purpose one
h) Field system of paddy field
i) Legal replotting determination

キーワード	食料・農村・農業の現状と問題点，開発と環境保全，持続的農業，地球環境問題，農地の役割，農地の多面的機能，水田の土壌，水田の地耐力，汎用農地，水田の圃場整備，農地組織，換地処分
履修条件等	特になし。
履修に必要な知識・能力	農地環境工学は，裾の広い科学と技術を包括した技術学であり，自然科学に加えて社会科学の知識も必要とする。受講を希望する人は，2年次後期に開講される土質理工学Ⅰなどの専門基礎科目，および灌漑工学や土壌学などの専門技術科目を履修しておくことが望ましい。

到達目標

No	観点	詳細
1.	知識・理解	1. 我が国の食料・農業・農村の現状と問題点，農地の役割について理解する。 2. 開発と環境保全，地球規模の環境問題について理解する。 3. 水田の土壌・構造，農地の多面的機能について理解する。 4. 水田の地耐力，汎用化について理解する。 5. 水田の農地組織，換地処分について理解する。
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	農地環境工学とは，授業日程・授業内容の説明，我が国の食料・農業・農村の現状(概説)，環境問題への認識の変遷	○		授業内容の復習
2.	開発と環境保全(1)	○		授業内容の復習
3.	開発と環境保全(2)，持続的農業	○		授業内容の復習
4.	地球環境問題と農地環境工学(砂漠化)	○		授業内容の復習
5.	地球環境問題と農地環境工学(土壌の塩類化)	○		授業内容の復習，課題レポート
6.	農地の役割(人口と食料，農地の歴史・現状)	○		授業内容の復習
7.	農地の役割(農地の歴史・現状，耕作放棄，よい農地の条件，など)	○		授業内容の復習，課題レポート
8.	水田の構造(水田に求められる条件，湛水機能と排水機能，これを支える土層条件)，水田の土壌(水田土壌の特徴)	○		授業内容の復習
9.	水田の土壌(断面形態と分類)，農地の多面的機能	○		授業内容の復習
10.	農地と水文・水質環境，水田の地耐力(地耐力とは，地耐力の測定法)	○		授業内容の復習
11.	水田の地耐力(コーン指数による走行性の判定，排水による地耐力の強化)，水田の汎用化(汎用農地の意義)	○		授業内容の復習
12.	水田の汎用化(水田と畑の圃場機能の違い，汎用農地化と土壌の変化)，水田の農地組織(区画の標準的形状)	○		授業内容の復習
13.	水田の農地組織(用排水路，農道，畦畔)	○		授業内容の復習
14.	水田の農地組織(区画計画の考え方)，換地処分(換地処分とは何か)	○		授業内容の復習，課題レポート
15.	換地処分(換地処分の意義，換地処分の基本構造と換地手法)	○		授業内容の復習
16.	学期末試験		試験	

授業以外での	予習はテキスト・資料に目を通す程度でよいが，復習は確実に行い，系統立てて理解することが重要である。

学習にあたって	
テキスト	「農地環境工学」(山路永司・塩沢 昌編, 文永堂出版, 2008)をテキストとして使用するので, 各自購入のこと。
参考書	参考書としては, 改訂七版 農業農村工学ハンドブック(農業農村工学会編, 農業農村工学会, 2010)を推奨する。
授業資料	補足資料などは, 授業ごとに適宜配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								
	◎								数回程度
	○								

成績評価基準に関わる補足事項	本授業の成績は, 出席日数が2/3以上の受講者に対して, 学期末試験および課題レポート(数回程度), 出席状況・授業中の態度により総合的に判定する。具体的には, 学期末試験と課題レポート, 出席状況・授業中の態度の配点比率を7:3とし, 100点満点で評価する。ただし, 学期末試験の得点が基準点(60点)に満たない者へは, 再試験(1回のみ実施)を課す。 最終成績(到達目標の達成度)は, 総合評価点に基づいて以下のように判定する。 A(90点以上), B(80～89点), C(70～79点), D(60～69点), F(60点未満)
ルーブリック	農地環境工学のルーブリック(H28:前期).pdf
学習相談	オフィスアワー 金曜日 12:00～13:00 (農学部2号館206号室) 在室中は, いつでも受け付けます。気軽においで下さい。
添付ファイル	
その他	・3年次前期に開講される専門基礎科目の土質理工学Ⅱ, 土壌物理学ならびに専門技術科目の排水工学, 農業気象学, 3年次後期に開講される専門技術科目の農地保全学, 利水工学, 水環境工学なども農地環境工学と関連が深い科目である。 ・所定の授業回数に達しない場合は補講に努めるが, 補講が不可能な場合もあり得る。 ・学期末試験は必ず実施する。なお, 学期末試験については, 解答例を配布するとともに, 答案は採点後返却する。
更新日付	2017-03-28 10:07:31.958

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	水環境工学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE2211J
講義題目	豊かな地域水環境を目指して
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 1時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	平松 和昭
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物資源生産科学コース(Agricultural Resources,Engineering and Economics)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	2-212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	水環境工学は自然と調和した地域水環境の創出と持続的開発に関する基礎学の一つであり，農業農村地域の水と物質の循環について理解を深めさせ，環境問題解決策の手法を教授することによってグローバルな問題にも適用できる能力を育成することを目標とする．授業内容は，水環境調査について概説したのち，水環境工学の基礎となる環境水理学を修得させる．さらに，河川・湖沼・沿岸域における集水域の水質動態，水質環境の解析とモデル及び水辺環境の計画と設計について解説する． ＜九州大学農業土木プログラム(JABEE認定)の学習・教育到達目標との対応＞ 水環境工学は，「C:農業土木技術者として必要な知識・技術の修得」における「C2:土，水，基盤，環境に関する計画・設計の基礎の理解」を主体的に含む科目であり，また，「B:多様な文化の存在と現代社会の抱える諸問題を客観的に理解できる能力」，「C:農業土木技術者として必要な知識・技術の修得」における「C3:実験や調査の計画・実行、データ解析およびレポート作成の能力」，「D:社会人・職業人として必要な知識・技術の修得」における「D1:遵守しなければならない技術者倫理の理解」，「F:グローバルな社会の中で，特に九州地域やアジアモンスーン地域における農業の展開に係る農業土木技術者の役割を認識できる能力」を付随的に含む科目である． ＜JABEE認定基準1(2)との対応＞ 水環境工学は，「d:当該分野(農業工学関連分野)において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力」の内容を主体的に含み，また「e:種々の科学，技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」の内容を付随的に含む． “Water Environment Engineering” is one of the basic subjects for creating regional water environment in their harmony with nature and contributing to the sustainable development in regional areas. The learning objective of the subject is primarily the understanding of hydrological circulation and material circulation in closed water bodies as well as watersheds and how to utilize a variety of mathematical models for solving environmental problems in regional areas, and then fostering comprehensive ability for tackling global environment problems. In the classes, field observation techniques for regional water environment are firstly outlined and the Environmental Hydraulics is taught as one of basic academic skills for Water Environment Engineering”. And then, the water quality dynamics in rivers, lakes and ponds, estuaries as well as watersheds, mathematical

PAGE TOP

	models for water quality analyses, and basic concepts and methodologies of planning and designing for waterfront environment are taught expansively.
キーワード	環境水理，汚濁負荷量，物質の移流拡散，水質解析モデル，環境との調和
履修条件等	特になし.
履修に必要な知識・能力	水環境工学は水環境工学では水と物質の移動についての基礎理論，水質の数理モデルと解析，生物個体数の動態，等を学習する. 各種モデルは微分方程式が基本となるため，応用数学を履修しておくことが望ましい. また，毎回の講義では予習と復習に努めること.

到達目標

No	観点	詳細
1.	A 知識・理解	【到達目標1】環境への影響を科学的に判断する基礎数理を理解する. 【到達目標2】集水域の水物質循環を理解し，数理モデル解析ができる. 【到達目標3】水辺環境の工学的評価手法を修得する. 【到達目標4】データ解析能力を養う.
2.	B：専門的技能	
3.	C：汎用的技能	
4.	D：態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	水環境の現状，水環境調査，水質関連法規【到達目標1，2，3，4】	○	—	配布資料による復習
2.	水環境調査（水質項目と調査法，水位流量曲線）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
3.	環境水理1（浮遊性物質の挙動，生態系の数理）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
4.	環境水理2（河川の水環境）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
5.	環境水理2（河川の水環境）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
6.	環境水理4（貯水池の水環境）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
7.	環境水理4（貯水池の水環境）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
8.	環境水理5（沿岸域・内湾の水環境）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
9.	環境水理5（沿岸域・内湾の水環境）【到達目標1，3，4】	○	—	配布資料による復習
10.	集水域の水質環境1（発生源）【到達目標2，3，4】	○	—	配布資料による復習
11.	集水域の水質環境1（発生源）【到達目標2，3，4】	○	—	配布資料による復習
12.	集水域の水質環境2（自然浄化）【到達目標2，3，4】	○	—	配布資料による復習
13.	水質モデルと解析手法（水域モデル，生態系モデル）【到達目標1，2，3，4】	○	—	配布資料による復習
14.	環境との調和に配慮した事業の計画と設計1【到達目標1，2，3，4】	○	—	配布資料による復習
15.	環境との調和に配慮した事業の計画と設計2【到達目標1，2，3，4】	○		配布資料による復習
16.	学期末試験 以上，試験を含む計16コマ（授業時間90分×16回=24時間）の授業を行う.	○	—	

授業以外での学習にあたって	毎回，講義内容で分かりにくいと思われる箇所の補足資料を配付し説明する．また，講義の理解度を確認するため，毎回，小テストを実施し，その解答例を配布する．初回講義で配布するテキスト，毎回の講義で配布するこれらの資料で復習に努めること．
テキスト	授業担当者作成のテキストを初回の講義時に配布する．
参考書	水質環境学編集委員会編著，水質環境学，農業土木学会(1998) …中央図書館指定図書 有田正光編著，水圏の環境，東京電気大学出版局(1998) …中央図書館開架図書 ※配布テキストおよび補足プリントで必要な情報は網羅するので，特に参考書は必要ない．
授業資料	適宜配布する．

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎								
	○								毎回，小テストを実施
	○								
	○								

成績評価基準に関わる補足事項	学期末試験と，毎回課す小テストおよび授業への貢献度・出席より評価する．配点比率は8:2とする．100点満点で60点未満を不合格(F)とし，A(90点以上)，B(89～80)，C(79～70)，D(69～60)で成績を評価する．学期末試験では，説明問題・計算問題を出題し，到達目標1～4の達成度を評価する(評価水準については，別紙の水環境工学のルーブリックを参照のこと)．
ルーブリック	20150912 水環境工学ルーブリック.pdf
学習相談	担当教員のオフィスアワーは毎週水曜日の16時30分から17時30分．この時間帯以外でも質問などを受け付けるが，オフィスアワー以外の場合は事前にE-mailあるいは電話にて在室を確認すること．
添付ファイル	
その他	【受講にあたっての準備】関数電卓を持参すること． 【出席確認について】授業開始時と30分経過時に出席を確認する．30分以上の遅刻は欠席扱いとする．大学指定の疾病による公欠以外の公欠は認めない(欠席としてカウントする)． 【小テスト】理解度の確認のため，15分程度で解答可能な小テストを毎回実施する．小テストは講義終了時に回収するとともに，解答例を配布する．小テストは採点後，返却する． 【学期末試験】関数電卓を持参すること．試験終了時に解答例を配布する．解答用紙は採点後，返却する． 【再試験・追試験】再試験は実施しない．やむを得ない理由(証明文書が必要)と判断した場合にのみ，追試験を実施する．
更新日付	2017-04-01 14:28:42.949

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	熱帯作物・環境学概論
科目ナンバリングコード	AGR-AGR3511J、AGR-AEE3251J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 2時限
必修選択	選択(elective)
単位数	2
担当教員	緒方 一夫
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物資源生産科学コース(Agricultural Resources,Engineering and Economics)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	英文による資料を配付することもある。
教室	防-101
その他 (自由記述欄)	テーマによっては熱帯農学研究センターや農学研究院の教員がトピックスを提供することもある。

授業概要	熱帯・亜熱帯の途上国で行われている農業を理解し国際協力の意義を考えることを目的とする。講義では熱帯の自然環境と農業生産の関係を概括し，熱帯で栽培される種々の作物および農業形態について説明する。とくに東南アジアの農業について、歴史的背景、自然条件、社会条件、現状と展望について概要を述べ、我が国との関わりについて考える。加えて、国際協力について概説する。 The course aims to understand the agriculture in the tropical countries for the global view of agricultural development. The course will give a series of lectures on agriculture and the environment in the tropics. The lectures are divided into five major parts: 1) natural environment in the tropics; 2) characteristics of tropical agriculture; 3) crops of tropical agriculture; 4) crop protection in the tropics; 5) agricultural development in the tropics. Assessment will be done by class attendance and exam.
キーワード	熱帯生態学、熱帯農学、国際協力
履修条件等	とくになし
履修に必要な 知識・能力	熱帯を中心とする地理学，生物学の基礎知識

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	1)熱帯の自然環境に関する知識 2)熱帯作物とその生産に関する知識 3)熱帯農業の研究の意義についての理解 4)熱帯の農業農村開発と国際協力の意義に関する理解
2.	B:専門的技能	熱帯の自然環境や熱帯作物についての文献資料を、他者の助けなしに読解し、説明できる。
3.	C:汎用的技能	必要な情報を集める能力、グラフや表等の資料から特性を抽出し、説明することができる。
4.	D:態度・志向性	講義への積極的な関わり。 自らの疑問を定式化し、解決をもとめる方法を考える態度。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	1－1. 熱帯の環境(気候と地理)	○		
2.	1－2. 熱帯の環境(地水環境)	○		
3.	1－3. 熱帯の環境(森林)	○		
4.	1－4. 熱帯の環境(生物多様性)	○		
5.	2－1. 熱帯農業の形態(土地利用)	○		
6.	2－2. 熱帯農業の形態(熱帯アジアの農業)	○		
7.	3－1. 熱帯の作物(禾穀類)	○		
8.	3－2. 熱帯の作物(畑作物)	○		
9.	3－3. 熱帯の作物(蔬菜類・花卉類)	○		
10.	3－4. 熱帯の作物(果樹類)	○		
11.	4－1. 熱帯の作物保護(害虫とその防除)	○		
12.	4－2. 熱帯の作物保護(病害とその防除)	○		
13.	5－1. 国際協力(歴史と動向)	○		
14.	5－2. 国際協力(農業開発)	○		
15.	期末試験	○		

授業以外での学習にあたって

1)講義での配布資料は多数にのぼるため、整理しておくこと。
2)授業以外での学習にあたっての資料は、URLや参考図書として示す。

テキスト

参考書

熱帯農学(渡辺浩之ら著 朝倉書店)
熱帯農業概論(田中明編著 築地書館)
熱帯雨林総論(T.C.ホイットモア著、熊崎実・小林繁男監訳、築地書館)
ODA(政府開発援助)－日本に何ができるか(渡辺利夫・三浦有史、中公新書)など
詳細は第1回の講義の際に参考図書の資料を配布する。

授業資料

毎回パワーポイントによる資料を提示・配布する。講義のトピックとは別に熱帯の各国事情を説明することもある。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎	○					資料持ち込み可、出席状況20%、筆記試験80%

2017/10/18更新

				○						
		○	○	○	◎					コメント表を配布

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	熱帯作物環境学ルーブリック.pdf
学習相談	kogata@agr.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-10-03 17:50:48.799

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	農業気象学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE2242J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 4時限
必修選択	必修(compulsory)
単位数	2
担当教員	北野 雅治 安武 大輔
開講学部・学府	農学部
対象学部等	生物生産環境工学分野(Environmental System Engineering)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	2-213
その他 (自由記述欄)	

授業概要	農業生産は，気象環境に大きく左右されている．農業生産場(水田，畑地，園芸施設)での気象環境の動態および生物と気象環境との関係に関する物理的基礎および生理生態的基礎を習得する．さらに，気候変動・変化下での持続可能な環境保全的高収益農業生産を目指す農業気象学的方法論として，農業防災，温暖化に対する適応策，気象資源の有効利用，農業計測(環境計測と植物生体計測)，施設生産の高度化技術等について学ぶ． ※九州大学農業土木プログラム(JABEE認定)の学習・教育到達目標との対応 農業気象学は，「A:数学，自然科学等の基礎学力の修得と新しい科学技術を吸収・深化させる能力」を主体的に含む科目であり，「C:農業土木技術者として必要な知識・技術の修得」における「C2:土，水，基盤，環境に関する計画・設計の基礎の理解」を付随的に含む科目である． ※JABEE認定基準1(2)との対応 農業気象学は，「d:当該分野(農業工学関連分野)において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力」の内容を主体的に含み，また「e:種々の科学，技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」の内容を付随的に含む． Agricultural production considerably depends on meteorological environment. Students learn the physical, physiological and ecological fundamentals in relation to meteorological dynamics and its effects on crops in agricultural fields (open- and closed fields). Furthermore, students also learn the prevention of agricultural disasters, adaptive policy to global warming, effective utilization of meteorological resources, meteorological measurement, bioinstrumentation, and environmental control in greenhouses, which are methodology based on agricultural meteorology for sustainable and high profitable agriculture under climate change.
キーワード	気象環境，植物ー環境系輸送現象，植物生理生態，植物環境反応，温暖化，気象災害
履修条件等	気象学(2年生後期:選択必修)を受講していることが望ましい．

PAGE TOP

履修に必要な知識・能力	気象環境と農業（生物生産）に興味を持って授業に臨んで欲しい．また，高校で物理を履修しなかった学生に対しても配慮した構成・内容となっている．

到達目標

No	観点	詳細
1.	A.知識・理解	農業生産場の気象環境の物理的基礎を習得する．生産対象の生物と気象環境との相互関係および植物－環境系の輸送現象に関する物理的・生理生態的基礎を習得する．農業気象災害の発生メカニズムと対策を理解する．農業に対する気候変動・変化の影響に関する知識を理解する．持続的・環境保全的農業に向けた農業気象学的戦略について議論できる能力を養う．
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第 1回 農業気象学概要（分野，沿革，使命，内容）	○		
2.	第 2回 放射の基礎と農業	○		
3.	第 3回 温度の基礎と農業	○		
4.	第 4回 湿度の基礎と農業	○		
5.	第 5回 風の基礎と農業	○		
6.	第 6回 降水の基礎と農業	○		
7.	第 7回 植物－環境系のエネルギー動態	○		
8.	第 8回 植物－環境系の水分動態	○		
9.	第 9回 植物－環境系の炭素動態	○		
10.	第10回 園芸施設の放射・温度環境とその制御	○		
11.	第11回 園芸施設のガス環境とその制御	○		
12.	第12回 農業気象災害と環境ストレス	○		
13.	第13回 気候変動と農業	○		
14.	第14回 持続的農業に向けた農業気象学的戦略①	○		
15.	第15回 持続的農業に向けた農業気象学的戦略②		演習	
16.	第16回 学期末試験		試験	

授業以外での学習にあたって	講義で扱うトピックスの理解度をはかるための中間テスト，レポート，プレゼンを課す．予習は特に必要ないが，復習は確実に行い次回までに不明点を残さないことが重要である．
テキスト	とくに指定せず，授業に使用する資料は授業ごとに適宜配布する
参考書	「生物環境気象学」（浦野慎一ほか：文永堂出版）

	「農学・生態学のための気象環境」(文字信貴ほか:丸善株式会社) 2017/10/18更新
授業資料	適宜配布
成績評価	<table><tr><th>評価方法・観点</th><th>観点No.1</th><th>観点No.2</th><th>観点No.3</th><th>観点No.4</th><th>観点No.5</th><th>観点No.6</th><th>観点No.7</th><th>観点No.8</th><th>備考(欠格条件・割合)</th></tr><tr><td></td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
成績評価基準に関わる補足事項	学期末試験(100点満点で評価)と受講態度(出欠状況, レポートの提出状況, プレゼンの積極性などから100点満点で評価)より配点比率は7:3で判定する. 60点未満を不合格(F)とし, A(90点以上), B(89～80), C(79～70), D(69～60)で成績を評価する. 学期末試験では, 記述を中心とする出題により到達目標1～5の達成度を評価する. また, 受講態度の評価は, 無欠席かつ期日内でのレポート提出に対して満点とし, 欠席回数, 演習問題の未提出・提出遅れの回数に応じて減点する.
ルーブリック	農業気象学のルーブリック.pdf
学習相談	毎週月曜日16:30～17:30をオフィスアワーとする. この時間帯以外でもいつでも質問などを受け付けるが, オフィスアワー以外の場合は事前に, E-mailあるいは研究室電話にて在室を確認すること.
添付ファイル	
その他	【授業の進め方】液晶プロジェクターを利用した説明が中心となる(配布資料有り). 【出席確認】授業冒頭に行う. 15分以内に遅れて来た者は遅刻とし, それ以上の遅れは欠席とする. 【再試験】学期末試験受験者のうち, 出席日数が2/3以上(欠席回数が5回未満)かつレポートをすべて提出した受講生を対象に, 再試験を1回のみ実施する.
更新日付	2017-09-11 15:47:06.019

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	食料流通経済学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE3332J、AGR-AGE3241J
講義題目	Food marketing and Economics
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	必修(compulsory)
単位数	2
担当教員	福田 晋
開講学部・学府	農学部
対象学部等	農政経済学分野(Agricultural Economics)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	1-566
その他 (自由記述欄)	

授業概要	食料・農産物の流通に関わる理論、流通制度(卸売市場法、食糧法、食品表示に関する制度、食品衛生法、JAS法等)及び農業主産地における出荷組織、品目ごとの流通実態の特質を考慮しながら、わが国における食料・農産物の流通を経済学的な視点で講義する。 Learning of food marketing theory, Institution of food distribution and marke, producer's condauct for food distribution and marketing.
キーワード	食料流通機構、卸売市場、市場取引、契約取引、食品の安全性、食品表示
履修条件等	農学部コース共通科目であるアグリフードシステムと農学、ミクロ経済学、政治経済学、生物資源生産科学コースの選択必修科目である流通経済学を履修していることが望ましい。
履修に必要な知識・能力	2年後期に開講される農学部コース共通科目であるミクロ経済学の基本的知識を習得していること、また、生物資源生産科学コースの選択必修科目である流通経済学の基本的知識を身に着けていることが望ましい。

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標	1.	市場及び流通制度	食料・農産物の市場及び流通に必須の制度について正確に理解する
	2.	食料・農産物の流通実態	実際の統計等により、食料・農産物の流通の現状について正確に理解する
	3.	流通経済理論を応用した思考	特定の流通制度の下での流通の現状を流通経済理論の枠組みで説明できる
	4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	オリエンテーション:講義の内容、進め方について講義するとともに、食料流通経済学の講義の目的について説明する。すなわち、食料・農産物の流通問題を理論、制度、実態の3つの観点からとらえることができるようになることの重要性について理解する。	○		
2.	食品の流通機構:流通経済論の基礎的考え方を講義することで、食料・農産物の流通について応用することの重要性について理解する。	○		
3.	食生活の成熟と食料消費の変化:食料・農産物の流通システムを規定する消費の動向とその変化の過程について講義する。	○		
4.	卸売市場制度:わが国独自の生鮮品の卸売市場制度について講義する。その制度が、流通業の構造変化、消費構造の変化、農業構造と農業者の組織の変化と相互規定的であることを理解する。	○		
5.	青果物の流通システム:卸売市場システムの中核をなす青果物を対象に、卸売市場流通の実態と変化及び卸売市場外流通の拡大の動向について講義し、その実態の理論的解釈を行う。	○		
6.	福岡市卸売市場見学:実際の卸売市場でどのような取引が行われているかを、福岡市卸売市場を見学して現場の話を聞くことで理解する。		福岡市卸売市場見学	
7.	米の流通システム:米の流通制度の変遷を理解したうえで、今日のコメ流通システムを理解する。	○		
8.	食肉の流通システム:牛肉、豚肉等の食肉の流通システムについて、卸売市場と産地食肉センターを介した流通システムについて講義する。また、家畜から食肉として流通する過程での安全性確保システムについても理解する。	○		
9.	牛乳・乳製品の流通システム:産地段階の生乳の流通システム、製品段階の牛乳・乳製品の流通システムについて講義する。とりわけ、産地段階の生乳における飲用乳市場と加工乳という用途別市場システムについて理解する。	○		
10.	食品・農産物の輸出入:食品・農産物の貿易に関わる検疫、衛生検査、関税制度について講義するとともに、輸入に関わる国境措置制度についても講義する。そのうえで、食品・農産物の輸出入の実態を把握し、理論的解釈を行う。	○		
11.	外食・中食の成長と食品流通:私たちの食品の消費において、外食と中食の占める割合は極めて高くなった。外食・中食産業の成長と現状及びその特徴について理解する。	○		
12.	食品・農産物流通における安全性の担保:食品の安全性を担保する流通過程の諸制度及びその実態について講義する。	○		
13.	食品・農産物における表示と信頼の確保:食品・農産物に対する消費者の信頼を確保するための表示制度について最新の動向を講義するとともに、表示問題と消費者の信頼確保との関係を理論的に解釈する。	○		
14.	加工食品と6次産業:主要な加工食品の流通システムについて生鮮食品の流通と対比させながら講義する。また、産地段階で農産物に付加価値をつけて加工食品などを製造する6次産業の動向と課題について説明する。	○		
15.	試験:食料・農産物の流通に関して、理論、制度、実態について包括的な理解ができているかという観点から試験を行う。	○		

授業以外での学習にあたって	九州大学WEB学習システムを利用して小テストの課題提出を求める
テキスト	
参考書	日本農業市場学会編「食料・農産物の流通と市場Ⅱ」筑波書房、時子山ひろみ・荏開津典生「フードシステムの経済学 第5版」医歯薬出版株式会社

2017/10/18更新

授業資料	毎回の講義ノートをWEB学習システムを通して配布する。
成績評価	

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	◎						60
	○	○	○						20
	○	○	○						10
	○								10

成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	食料流通経済学のルーブリック.pdf　　食料流通経済学のルーブリック
学習相談	講義のあった月曜日の午後を学習相談の時間帯とする
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-05-02 09:05:17.602

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	環境経済学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE3331J、AGR-AGE3251J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 2時限
必修選択	必修(compulsory)
単位数	2
担当教員	矢部 光保
開講学部・学府	農学部
対象学部等	農政経済学分野(Agricultural Economics)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	1-566
その他 (自由記述欄)	

授業概要	食料・環境・エネルギー問題が発生する制度的社会的原因について経済学的視点から明らかにするとともに、これらの諸問題を解決するための政策手法とそのための資源・環境・エネルギーの効率的利用・配分についての考え方を講義する。加えて、環境価値評価の実践的講義も行う。なお、今年度に限り、サバティカルのため、集中講義を併用して、授業・試験は6月中旬までに実施するので、注意のこと。 This class is to orient students with topics in Environmental Economics, the analytical techniques that policy makers adopt and the food, energy and environmental problems. Student will be able to analyze basic environmental issues with economic methods and tools, and economic evaluation approaches on environment.
キーワード	外部経済、外部不経済、市場の失敗、環境税、環境補助金、直接規制、環境価値の経済評価、廃棄物政策、有機性廃棄物の循環利用
履修条件等	入門レベルのミクロ経済学を履修しておくことが望ましい。
履修に必要な 知識・能力	入門レベルのミクロ経済学

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	環境財の理解	環境財の特徴として、非排除性、非競合性、外部性がある。これらの概念を理解し、現実の環境財について、このような概念を持ちいて説明できるようにする。
2.	環境政策手法の理解	環境政策の代表的手法としては、環境税、環境補助金、直接規制がある。これらの手法の特徴、長所、短所を理解し、現実の環境政策を説明できるようになる。
3.	環境価値の経済評価	環境価値の経済価値には、利用価値、非利用価値がある。さらに、オプション価値、遺贈価値、存在価値に分かれる。これらの価値を理解し、環境の実態に即して説明できるようになる。また、環境価値の評価手法としては、代替法、旅行費用法、仮想評価法、選択実験等いくつかあるので、これらの手法の特徴、長所、短所を理解し、説明できるようになる。
4.	有機性廃棄物の循環利用	家庭生ゴミ、食品残渣、畜産ふん尿等の有機性廃棄物について、再生可能エネルギー利用の視点も含め、循環利用政策を理解し、説明できるようになる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1回：環境と倫理	○		
2.	第2回：市場の失敗と政府の失敗	○		
3.	第3回：農業環境政策と多面的機能	○		
4.	第4回：自然に対する関心の経済評価	○		
5.	第5回：仮想評価法による分析（1）	○		
6.	第6回：仮想評価法による分析（2）	○		
7.	第7回：費用便益と不確実性	○		
8.	第8回：環境政策と経済的手法	○		
9.	第9回：環境保全のための市場利用	○		
10.	第10回：環境税と環境補助金	○		
11.	第11回：課外研修			三連水車保全活動に関する課外調査
12.	第12回：環境許可証の取引	○		
13.	第13回：環境基準と直接規制	○		
14.	第14回：廃棄物処理とデポジット制	○		
15.	第15回：まとめと試験	○		

授業以外での学習にあたって

課外学習を6月3日（土）又は4日（日）の何れかで行うので、注意のこと。参加出来ない場合は、レポート提出でも可とする。

テキスト

栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ（第2版）』有斐閣

参考書

R.K.ターナー、D.ピアス、I.ベイトマン著、大沼あけみ訳『環境経済学入門』東洋経済新報社

授業資料

各講義において、資料を配布する。

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	◎	○					70%

成績評価		○	○	○	○					10%
		○	○	○	○					10%
		○	○	○	○					10%

2017/10/18更新

成績評価基準に関わる補足事項	課外研修の参加を10%とする。ただし、参加できない場合は、レポートで代替できる。
ルーブリック	環境経済学のルーブリック.pdf
学習相談	授業期間中の12時～13時がオフィスアワーであるが、質問等は随時受けつける。
添付ファイル	
その他	今年度は、サバティカルのため、集中講義を併用して、授業・試験は6月中旬までに実施するので、注意のこと。具体的な授業計画は、初回の授業（4月11日）詳しく説明する。
更新日付	2017-04-11 10:03:23.656

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	土壌・環境微生物学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE3322J、AGR-MBI3121J、AGR-FST3422J
講義題目	Soil and Environmental Microbiology
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 2時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	酒井 謙二 田代 幸寛
開講学部・学府	農学部
対象学部等	応用生命化学分野(Agricultural Chemistry)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	5-117
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地球は化学物質に関してほぼ閉じた系であり擬化学平衡が生物により維持されているが，その物質循環の主役は微生物である。特に生物生産の場として重要な土壌中では動植物や環境との相互作用の上に元素と物質の変換が多様な微生物により行われている。一方で，ほとんどの微生物が従来の分離培養を伴う分析法では種名が明らかになっていない．本講では微生物学の重要事項を土壌および環境中に焦点を当てて学んだ後，環境保全，土壌微生物利用，これからの土壌・環境微生物学の展開について講述する。 Transformation of chemicals is the event closed in the earth and their pseudo-equilibriums are kept by living organisms. Microorganisms would be major actors in biotransformation of chemicals in our biosphere. Especially in soil, where is the important place for agricultural production, variety kinds of microorganisms, in conjunction with plants and animals, are involved in the transformation of important elements and chemical compounds. On the other hand, most microorganisms in an natural environment are considered to be not yet-isolated or uncultivable. In this lecture, important aspects in microbiology mainly focusing on soil and environment will be provided and their utilization in environmental protection, and agricultural production will be discussed.
キーワード	土壌微生物 微生物生態 物質循環 農業生産，環境保全，バイオマス変換
履修条件等	基礎微生物学の履修を前提として講義を行う。
履修に必要な 知識・能力	

PAGE TOP

到達目標

No	観点	詳細
1.		授業の達成目標：以下の重要点について理解し説明できることが必要である。 1) 土壌・環境微生物生態系の特徴 2) 土壌・環境微生物分析・研究法 3) 物質循環系において重要な微生物活動 4)農業生産と環境保全の場で重要な微生物活動と利用
2.	B：専門的技能	
3.	C：汎用的技能	
4.	D：態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第一回 履修ガイダンスと基礎微生物学の復習	○		
2.	第二回 土壌・環境微生物学と微生物による地球環境形成の自然史	○		重要事項の調査と整理
3.	第三回 土壌・環境微生物の特徴---分類，系統進化，小動物，植物，原生動物，菌類，細菌	○		重要事項の調査と整理
4.	第四回 微生物生態系の特徴---地圏，水圏における分布，動植物との相互作用	○		重要事項の調査と整理
5.	第五回 土壌・環境微生物分析法---直接観察と間接検出法，培養法と非培養法	○		重要事項の調査と整理
6.	第六回 土壌・環境微生物の代謝生理と増殖---生育環境因子と栄養因子	○		重要事項の調査と整理
7.	第七回 微生物の生化学と物質循環---特殊な生理と化合物変換系，主要元素循環	○		重要事項の調査と整理
8.	第八回 微生物による有機物分解---嫌気分解，好気分解	○		重要事項の調査と整理
9.	第九回 微生物による窒素化合物変換---硝化，脱窒，窒素固定，アンモニア化	○		重要事項の調査と整理
10.	第十回 その他の元素循環と微生物相互作用---イオウ、リン、重金属変換	○		重要事項の調査と整理
11.	第十一回 農業生産と微生物---根圏微生物，根粒菌，菌根菌 病害虫コントロール	○		重要事項の調査と整理
12.	第十二回 微生物と環境保全---農薬分解，排水・廃棄物処理，生物資源利用 生物修復	○		重要事項の調査と整理
13.	第十三回 土壌微生物利用---生物化学・食品工業，微生物資材，組換体利用	○		重要事項の調査と整理
14.	第十四回 難培養微生物と複合微生物系---新たな分子微生物学の展開	○		重要事項の調査と整理
15.	第十五回 期末試験		教場試験	

授業以外での学習にあたって

受講後，毎回の重要事項を学習し，レポート（A4用紙1枚程度）として次回の授業開始時に提出する。

テキスト

主にパワーポイントと配布資料を用いて講述する。

参考書

応用微生物学（文永堂出版），土壌微生物生態学（朝倉書店）
Brock Biology of Microorganisms (Pearson Education Inc.)

授業資料

配布プリント

評価方法・観	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条

成績評価	点									件・割合）
		◎								60
		◎								30
		○								10
成績評価基準に関わる補足事項										
ルーブリック	土壌環境微生物学ルーブリック1604.pdf　　ルーブリック									
学習相談	学習相談：火曜日3，4，5限									
添付ファイル										
その他										
更新日付	2017-04-06 11:55:07.383									

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	農薬化学
科目ナンバリングコード	AGR-MBI3162J、AGR-FST3451J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 2時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	平島 明法
開講学部・学府	農学部
対象学部等	応用生命化学分野(Agricultural Chemistry)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	5-211
その他 (自由記述欄)	

授業概要	農薬の歴史、定義、必要性を説明し、殺虫剤、殺菌剤、除草剤、植物生長調節剤等の主な薬剤について、化学構造と作用機構を詳説する。また、農薬の選択毒性、代謝、抵抗性発現、安全性評価、環境に及ぼす影響などのほか、化学生態学やバイオテクノロジーを利用した植物保護の新技術について解説する。 Pesticides are substances meant for attracting, seducing, and then destroying, or mitigating any pest. They are a class of biocide. The most common use of pesticides is as plant protection products (also known as crop protection products), which in general protect plants from damaging influences such as weeds, plant diseases or insects. This use of pesticides is so common that the term pesticide is often treated as synonymous with plant protection product, although it is in fact a broader term, as pesticides are also used for non-agricultural purposes. The term pesticide includes all of the following: herbicide, insecticide, insect growth regulator, nematicide, termiticide, molluscicide, piscicide, avicide, rodenticide, predacide, bactericide, insect repellent, animal repellent, antimicrobial, fungicide, disinfectant (antimicrobial), and sanitizer.
キーワード	農薬、植物保護、作用機構、選択毒性、代謝、薬剤抵抗性、安全性、環境問題
履修条件等	
履修に必要な 知識・能力	有機化学と生化学の基礎知識が必要

No	観点	詳細

PAGE TOP

到達目標

1.	化学物質の毒性や環境中における挙動について学び、生態系と人類生存との調和を考える基礎知識を習得する。	農薬を含む化学物質の毒性(安全性)について正しく理解できる。農薬は昆虫、植物及び微生物等に対して生理作用を示す化学物質であり、それらの構造と活性の関係及び作用機構等を学習することにより、生命科学の理解を深める。
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第一回 農薬の歴史、定義、必要性	○		
2.	第二回 化学物質の毒性とは	○		
3.	第三回 殺虫剤の構造と作用機構 I	○		
4.	第四回 殺虫剤の構造と作用機構 II	○		
5.	第五回 昆虫成育制御剤	○		
6.	第六回 殺菌剤の構造と作用機構 I	○		
7.	第七回 殺菌剤の構造と作用機構 II	○		
8.	第八回 植物病害抵抗性と薬剤	○		
9.	第九回 除草剤の構造と作用機構 I	○		
10.	第十回 除草剤の構造と作用機構 II	○		
11.	第十一回 植物生長調節剤	○		
12.	第十二回 選択毒性、代謝解毒	○		
13.	第十三回 環境中の挙動、毒性評価と安全性	○		
14.	第十四回 製剤、遺伝子組み換え植物、フェロモン剤	○		
15.	第十五回 生態化学物質、今後の植物保護	○		

授業以外での学習にあたって

テキスト

農薬の科学 -生物制御と植物保護-(桑野栄一ら編著、朝倉書店、2004)
農薬の科学(山下恭平ら著、文永堂、1996)
新しい農薬の科学(宮本純之著、廣川書店、1994)

参考書

授業資料

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎								
	◎								

		◎							

成績評価基準に関わる補足事項	出席状況10%、筆記試験90%農薬の安全性、選択毒性、作用機構、代謝等に関する理解度を評価する。
ルーブリック	農薬化学のルーブリック.pdf
学習相談	木曜日午後5時～6時
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-29 18:51:23.064

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	食品衛生化学
科目ナンバリングコード	AGR-MBI3451J、AGR-FST3141J
講義題目	食品衛生化学 Food Hygienic Chemistry
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 2時限
必修選択	必修(compulsory)
単位数	2
担当教員	宮本 敬久 本城 賢一
開講学部・学府	農学部
対象学部等	食糧化学工学分野(Food Science and Technology)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	4-110
その他 (自由記述欄)	

授業概要	各種の食中毒とその原因ならびに予防法、食品の加工・保存のために使用される食品添加物、食品衛生対策について解説する。また，種々の食品汚染物質の毒性，汚染実態とその対策，食品産業における衛生管理等についても講義する。 The course explain etiology of food borne illness, prevention measures, food additives used for food processing and prolong shelf life of the processed foods. Toxicity of various hazardous contaminants of food, current status of pollution, countermeasures for food sanitation control are also lectured.
キーワード	食中毒、食品衛生法、食品衛生微生物、有毒有害物質、農薬、食品添加物、衛生管理、HACCP Foodborne illness, Food sanitation low, Microbes involved in food hygiene, Hazardous substances, Agrichemicals, Food additives, Sanitation control, HACCP
履修条件等	基礎微生物学を受講していることが望ましい Students are required to have knowledge of basic microbiology.
履修に必要な知識・能力	生物学、生物化学、有機化学、無機化学受講していることが望ましい Credits of Biology, Biochemistry, Organic chemistry, and Inorganic chemistry should be already taken.

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

No	観点	詳細
1.	A 知識・理解/ Knowledge and Understanding	・飲食物および飲食に関係する器具などにより引き起こされる健康上の危害とその要因の理解 ・Understanding of the hazards caused associated with food and food related instruments ・食生活を安全に保つために必要な基礎知識を習得 ・Acquiring basic knowledge required to keep safe food life ・食品衛生問題の発生を未然に防止する方法の理解 ・Understanding of preventive measures on issues of food safety ・食品衛生上の問題解決方法 ・Measures to solve problem on food sanitatoin
2.	B 専門的技能/ Skills and other attributes	食品中の食中毒細菌や自然毒、化学物質などの有害因子のリスク評価および制御法を修得し、これらを利用した衛生管理について計画できる。具体的には、食品原材料に含まれる危害要因を列挙でき，これらによる健康危害の発生を未然に防止する重要管理点を指摘でき、これを管理する基準、モニタリング方法を決定して食品製造における総合衛生管理システムを考えることができる。
3.	C 汎用的技能/ Transferable Skills	飲食物および飲食に関係する器具などにより引き起こされる健康上の危害を未然に防ぎ、食生活を安全に保つために必要な基礎知識を習得し、様々な食環境を正しく改善できる。また、健康的な食生活を送ることができる。
4.	D 態度・志向性/ Status and Value to Society	食品衛生化学の毎回の講義内容に関連する適切なコメントや質問を提出できる。 食品における危害要因低減についての政策決定において，消費者として適切な意見を述べ、国の食品安全政策立案に貢献できる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	食品衛生と食品衛生行政の概要 Food Hygiene and Food sanitation administration	○		教科書p.1-34を事前に読む
2.	食品と微生物 Food bicrobes	○		教科書p.35-54を事前に読む
3.	食中毒の概要、細菌性食中毒(感染型) Foodborne illness by bacteria	○		教科書p.55-82を事前に読む
4.	細菌性食中毒(感染型) Bacterial fodborne illness 1	○		教科書p.55-82を事前に読む
5.	細菌性食中毒(毒素型) Bacterial fodborne illness 2	○		教科書p.55-82を事前に読む
6.	細菌性食中毒(その他) Bacterial fodborne illness 3	○		教科書p.55-82を事前に読む
7.	ウイルス性，その他生物由来食中毒 Foodborne illness by virus	○		教科書p.83-97を事前に読む
8.	化学性食中毒 Foodborne illness by chemicals	○		教科書p.83-97を事前に読む
9.	有害物質による食品汚染1 Toxic substances in food 1	○		教科書p.98-122を事前に読む
10.	有害物質による食品汚染2 Toxic substances in food 2	○		教科書p.98-122を事前に読む
11.	有害物質による食品汚染3 Toxic substances in food 3	○		教科書p.98-122を事前に読む
12.	食品添加物 Food additives	○		教科書p.123-137を事前に読む
13.	食品と寄生虫、害虫 Parasites	○		教科書p.138-156を事前に読む
14.	食品衛生対策 Food hygiene practice	○		教科書p.157-178を事前に読む
15.	まとめおよび期末試験 Examination	○		

授業以外での学習にあたって

事前に教科書の該当部分を読んで理解してくる。
Read the part of text book related to each of the class.

新スタンダード栄養・食物シリーズ8「食品衛生学」一色賢司編，東京化学同人 ISBN 9784807916689

2017/10/18更新

テキスト	New Standard Eiyou/Shokumotu series 8 ″Food Hygiene″ Tokyo Kagaku Dojin
参考書	
授業資料	

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎							
	◎		◎	○					毎回授業で提出させるコメントおよび質問の内容
	○	○	○	○					5回以上欠席した者は欠格

成績評価基準に関わる補足事項	評価方法：毎回授業で提出させる質問内容と達成度評価教場試験により評価する。 評価比率：出席状況・10%；質問状況・20%；達成度評価・70% 達成目標との関連：達成度評価においては，応用力を，質問においては，講義に取り組む姿勢を評価する。 Evaluation depends on the question for each of the class and Examination Evaluation: 10% for record of attendance, 20% for question, 70% for examination Commitment to class will evaluated with Question, ability for application with examination.
ルーブリック	2015食品衛生化学ルーブリック.xlsx.pdf
学習相談	前期毎週木曜日午後5時から午後6時 !st semsester, Thursday, 5PM to 6PM
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-22 09:41:28.262

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	食品保蔵学
科目ナンバリングコード	AGR-MBI3452J、AGR-FST3142J
講義題目	食品保蔵学 Food Preservation
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 金曜日 1時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	本城 賢一 宮本 敬久
開講学部・学府	農学部
対象学部等	食糧化学工学分野(Food Science and Technology)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	4-110
その他 (自由記述欄)	

授業概要	食品の保蔵中の品質変化とその要因、貯蔵変化の防止法などについて講義する。 Lectures concerning changes in quality of food during storage and methods for prevention of quality changes are done.
キーワード	食品、品質、保蔵法、食品成分
履修条件等	
履修に必要な知識・能力	食品衛生化学、食品製造工学を履修しておくことが望ましい。

No	観点	詳細
1.	A 知識、理解	食品保蔵学に関する用語、事項、実施例などについて正確に説明できる。
	B 専門的技	

PAGE TOP

到達目標

2.	能	様々な食品の保蔵技術ならび品質劣化因子について正しく理解し、問題を正しく解決できる。2017/10/18更新
3.	C 汎用的技能	食品保蔵学の知識を利用して様々な食品の品質保持に向けた問題点を正しく理解し、改善案を提案できる。
4.	D 態度 志向性	食品保蔵学を理解し、新しい提案やより深い考察に基づき、関連する適切なコメントや質問を提出できる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	第1回(10/4):食品保蔵学の概要、食品の品質劣化因子(微生物)	○		
2.	第2回(10/13):食品の品質劣化因子(酵素)	○		
3.	第3回(10/20):食品の品質劣化因子(酸素、光)、食品の包装技術について	○		
4.	第4回(10/27):食品の保蔵と水	○		
5.	第5回(11/10):食品保蔵法(乾燥、塩蔵、糖蔵)	○		
6.	第6回(11/17):食品保蔵法(燻煙、酸、発酵)	○		
7.	第7回(11/24):食品保蔵法(高温)	○		
8.	第8回(12/1):食品保蔵法(低温処理)	○		
9.	第9回(12/8):食品保蔵法(化学物質)	○		
10.	第10回(12/15):青果物	○		
11.	第11回(12/22):保蔵中の成分変化(油脂)	○		
12.	第12回(1/15):保蔵中の成分変化(炭水化物/糖質)	○		
13.	第13回(1/19):保蔵中の成分変化(たんぱく質:乳・卵)	○		
14.	第14回(1/26):保蔵中の成分変化(たんぱく質:食肉・魚介類)	○		
15.	第15回(2/2):保蔵中成分変化	○		
16.	第16回(2/9):定期試験			

授業以外での学習にあたって

テキスト

自作の「食品保蔵学」2017テキストを使用する

参考書

日本食品保蔵科学会「食品保蔵・流通技術ハンドブック」建帛社 2006
本間・村田 編「食品加工貯蔵学」東京化学同人 2016

授業資料

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
	◎	◎	◎						50%
			○	◎					20%(授業終了時に回収する質問あるいはコメ

2017/10/18更新

									ント内容により評価する）
		○	○	○	○				20%
	質問解答	○	○		◎				10%（授業ごとに回収される質問に対する解答作成への取り組み）

成績評価基準に関わる補足事項	出席状況・・・20%（4回以上欠席の場合、受験資格なし） 質問・コメント（内容）・・・20% 質問解答状況・・・10% 筆記試験・・・50%
ルーブリック	食品保蔵学ルーブリック Sheet.pdf
学習相談	後期毎週金曜日午後3時から午後5時
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-11 15:51:45.263

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	環境地学
科目ナンバリングコード	AGR-FSC1541J
講義題目	Forest Environment Geo-sciences
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 1時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	水野 秀明
開講学部・学府	農学部
対象学部等	地球森林科学コース(Forestry and Forest Products)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	2-212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	地球森林科学コースに必要な森林環境に関連する地球科学(地形、地質、気候、気象、水文学など)の基礎知識を講義する。 森林環境に関連する地球科学の知識を、おおむね地形、地質、水文、気象などの順(年度により前後する)に複数の教員により講義するとともに、必要に応じて小テストやレポート作成を課す。 The basic knowledge of earth science (topography, geology, climate, weather, hydrology, etc.) related to the forest environment that is required for "The Earth Forest Science Course" is to be explained with multiple teachers.
キーワード	地球科学、森林、地形、地質、気候、気象、水文
履修条件等	特になし
履修に必要な 知識・能力	特になし

No	観点	詳細

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

1.	A:知識	森林環境の理解に必要な地球科学の基礎知識を習得する。
2.	B:専門的技能	
3.	C:汎用的技能	
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	森林流域におけるエネルギー収支 笠原	○		
2.	森林生態系における炭素循環 片山	○		
3.	森林生態系における物質循環 片山	○		
4.	森林と土壌 笠原	○		
5.	森林流域における流出特性 笠原	○		
6.	森林と渓流環境 笠原	○		
7.	河畔域の環境特性 笠原	○		
8.	山地の地質と森林 久保田	○		
9.	山地地形と森林 久保田	○		
10.	火山・地震と森林 久保田	○		
11.	地球規模の気象・荒天と山地災害 久保田	○		
12.	山地局所気象と森林久保田	○		
13.	森林流域における土砂移動現象1 水野	○		
14.	森林流域における土砂移動現象2 水野	○		
15.	森林と土砂移動の関係 水野	○		

授業以外での学習にあたって

担当教員からの指示があれば、レポート課題などに取り組むこと。

テキスト

なし（別途にプリントを配布）

参考書

なし

授業資料

プリントを配布

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	○			○					
	◎			○					
	○			◎					

2017/10/18更新

成績評価基準に関わる補足事項	レポート・小テスト80%、出席点20%が原則。
ルーブリック	環境地学のルーブリック.pdf
学習相談	講義後5分間程度と講義日の午後16時30分から1時間程度。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-22 08:34:54.293

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	環境経営学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE3334J、AGR-FSC1561J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 1時限
必修選択	選択必修(compulsory elective)
単位数	2
担当教員	佐藤 宣子 藤原 敬大 溝上 展也 吉田 茂二郎
開講学部・学府	農学部
対象学部等	地球森林科学コース(Forestry and Forest Products)
対象学年	学部2年(The 2nd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	4-102
その他 (自由記述欄)	

授業概要	21世紀は環境の世紀と言われ、地球温暖化や熱帯林の減少などグローバルな環境問題への対策と同時に地域レベルでの環境管理・経営に関する合意形成と制度設計が求められる。本授業のねらいは、第1に、環境問題を社会経済的視点から把握しうるような、環境経済学の基礎理論を学ぶことである。第2に、持続可能な開発への取り組みと循環型社会形成の課題について、特に森林資源の役割について学ぶことである。第3に、森林管理のための計測やゾーニング手法の基礎を学ぶことである。 21st century is regarded as an environmental century, which should require local-level consensus-building and institutional design related to environmental management as well as global-level environmental measures against warming of the earth and tropical deforestation. This subject aims (1) to learn basic theory of environmental economics, (2) to learn actions for sustainable development and challenges toward promotion of the cyclical society, especially roles of forest resources, and (3) to learn basis of measuring and zoning for forest management.
キーワード	環境経営、地球環境問題、持続可能な発展(Sustainable Development)、地球温暖化、熱帯林、持続可能な森林経営、ゾーニング、環境政策
履修条件等	特になし
履修に必要な 知識・能力	

PAGE TOP

到達目標

No	観点	詳細
1.		環境問題を社会経済的視野から学ぶための基礎的な概念を説明できる。
2.		1992年の地球環境サミット以降の持続可能な開発概念と世界的な取り組みを説明でき、我が国の循環型社会に向けた課題を議論できる。
3.		森林環境管理・経営技術としての計測やゾーニングの基礎概念について説明できる。
4.	D:態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	授業ガイダンス 環境管理・経営に向けた合意形成の必要性	○		
2.	「環境」とは何か、「市場の失敗」「政府の失敗」について	○		
3.	資本の蓄積構造と環境問題～日本からアジアへ～	○		
4.	SD（Sustainable Development）の基礎概念と論点	○		
5.	環境政策の手段、循環型社会の制度と政策	○		
6.	貧困問題と環境問題の関連と解決策の模索	○		
7.	1992年国連環境開発会議の意義と森林原則声明	○		
8.	持続可能な森林経営に向けた制度の展開1（温暖化対策と排出権取引）	○		
9.	持続可能な森林経営に向けた制度の展開2（森林認証制度）	○		
10.	環境管理・経営のための基準と指標	○		
11.	基準と指標を評価するための制度と方法	○		
12.	環境経営のための多段的な計画	○		
13.	環境管理・経営のためのゾーニング	○		
14.	熱帯林の減少と劣化	○		
15.	まとめ	○		
16.	定期試験			

授業以外での学習にあたって

テキスト

環境の経済理論（佐和隆光他編、岩波書店、2002年）
地球温暖化と森林ビジネス第3版（小林紀之、日本林業調査会、2005年）
アジアにおける森林の消失と保全（井上真編著、中央法規、2003年）
森林科学（佐々木惠彦・木平勇吉・鈴木和夫、文永堂出版、2007年）

参考書

授業資料

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
									70%

										30%

成績評価基準に関わる補足事項	出席状況（30%）毎回、出欠表を兼ねて質問と感想の記載を求める。 期末試験（70%）期末試験においては基本的な語句、現在の環境問題と森林の関係性の理解度を評価する。
ルーブリック	160728環境経営学のルーブリック.pdf
学習相談	火曜日 16時30分～17時15分、農学部2号館619号室
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-06 08:09:35.816

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	森林資源環境モニタリング論
科目ナンバリングコード	AGR-FSC2111J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 1時限
必修選択	選択(elective)
単位数	2
担当教員	溝上 展也
開講学部・学府	農学部
対象学部等	地球森林科学コース(Forestry and Forest Products)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	2-517
その他 (自由記述欄)	

授業概要	持続可能な森林経営の実現に不可欠な森林資源のモニタリングについて、その必要性、方法論、国内外の現状と課題を学ぶ。 The students learn the needs, methods, current situations and problems about forest resources monitoring, which is essential for sustainable forest management.
キーワード	持続可能な森林経営、基準と指標、森林認証、データの品質保証、精度と正確度、国家的森林モニタリング、標本調査法、森林調査法、地理情報システム、リモートセンシング
履修条件等	演習林にて開講されるフィールド実習をできるだけ多く履修していることが望ましい。
履修に必要な知識・能力	統計学の基礎。森林調査の基礎。

No	観点	詳細
1.	モニタリングの必要性/重要性	持続可能な森林経営とは何かを「基準と指標」や「森林認証」のキーワードを含めて示しながら、森林資源モニタリングの必要性・重要性について論じることができる。

PAGE TOP

2017/10/18更新

到達目標

2.	モニタリングの方法論	データの品質保証とは何かを「精度と正確度」、「品質保証QAと品質管理QC」のキーワードを概説しながら、論じることができる。
3.	モニタリングの現状と課題	日本や他国の事例を説明しながら、3つのレベルの森林資源モニタリングの現状と課題を論じることができる。
4.	モニタリングのためのRSとGIS	森林モニタリングのツールとしてのリモートセンシングやGISの基礎と現状・課題を論じることができる。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	持続可能な森林経営と森林資源モニタリング：歴史的背景	○		
2.	時速可能な森林経営を支援する取り組み：基準＆指標、森林認証、PDCAサイクル	○		
3.	データの品質保証とは：精度と正確度	○		
4.	データの品質保証とは：品質保証QAと品質管理QC	○		
5.	3つのレベルの森林モニタリング：諸外国（欧米およびアジア）での事例をもとに	○		
6.	3つのレベルの森林モニタリング：日本での事例をもとに	○		
7.	標本調査法：森林調査の基礎	○		
8.	標本調査法：サンプル数、サンプリング誤差、信頼区間等について	○		
9.	森林モニタリングと将来の予測	○		
10.	森林モニタリングにおける地理情報システムの利用	○		
11.	森林モニタリングにおけるリモートセンシングの利用1	○		
12.	森林モニタリングにおけるリモートセンシングの利用2	○		
13.	地球温暖化対策と森林資源環境モニタリング	○		
14.	生物多様性保全と森林資源環境モニタリング	○		
15.	期末テスト	○		

授業以外での学習にあたって

テキスト

参考書

授業資料

毎回配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎	◎	◎	◎					
	○	○	○	○					
	○	○	○	○					
	○	○	○	○					
	◎	◎	◎	◎					

2017/10/18更新

成績評価基準に関わる補足事項	学期末テスト60% ほぼ毎回の小論文40%
ルーブリック	森林資源モニタリング論ルーブリック1.pdf
学習相談	毎日12:00～13:00に受付ます。その他の時間帯を希望する際にはメールmizouenn@gmail.com をください 。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-09-12 16:39:03.655

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	森林水文・水資源学
科目ナンバリングコード	AGR-FSC2142J
講義題目	
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 3時限
必修選択	選択(elective)
単位数	2
担当教員	笠原 玉青 大槻 恭一 片山 歩美 智和 正明
開講学部・学府	農学部
対象学部等	地球森林科学コース(Forestry and Forest Products)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	2-212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	水源地である森林流域の管理を通して、水資源の管理を議論できるようになることを目的に、森林流域における水の循環プロセスを学ぶ。水が循環するプロセスには、降水、蒸発、流出などがあり、森林にはどのような雨が降るのか？ 森に降った雨はどうなるのか？ 渓流の水はいつ、どこから出てくるのか？という疑問に答えられるようになる。また、エネルギーと水の循環の関係、水の循環と物質の循環の関係も学習する。 The overall goal of this course is to learn the effects forest management on water resource. The main focus is on water cycle in forested watersheds, and how the forest management alters the water cycle. In addition, the relation between energy and water cycle and the movement of nutrients and carbon in forested watersheds will be covered.
キーワード	森林、森林管理、水資源、水文 Forests, Forest management, Water Resource, Hydrology
履修条件等	
履修に必要な 知識・能力	環境地学を受講していることが望ましい。

PAGE TOP

到達目標

No	観点	詳細
1.	A:知識・理解	森林流域におけるの水循環・物質循環過程を理解、説明できる。水文統計に加え、水循環モデルの概念を理解できる。
2.	B:専門的技能	森林管理が水循環・物質循環過程に与える影響を理解でき、説明できる。森林管理を通しての水資源管理について議論できる。
3.	C:汎用的技能	講義内容に関連する学際的文献などの情報を検索でき、自ら新しい知見を得ることができる。表計算ソフトで一連の解析ができる。
4.	D:態度・志向性	講義の2/3以上出席し、提出物はすべて提出し、多数の講義において質問をした。講義中議論にも積極的に参加した。

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	森林水文・水資源学序論	○		
2.	流域水文学に用いる水文統計	○		
3.	森林流域における放射	○		
4.	森林流域における放射	○		
5.	森林流域における蒸発散(I)	○		
6.	森林流域における蒸発散(II)	○		
7.	森林土壌における水の保水・通水	○		
8.	森林での炭素循環	○		
9.	森林流域における水質	○		
10.	中間テスト	○		
11.	森林流域における地下での水の流れ	○		
12.	河畔林における水・窒素循環	○		
13.	森林流域における降雨と流出過程 (I)	○		
14.	森林流域における降雨と流出過程 (II)	○		
15.	森林を流れる渓流の環境	○		
16.	期末テスト	○		

授業以外での学習にあたって

テキスト

参考書

授業資料

成績評価

成績評価基準に関わる補足事項

ルーブリック

H28 森林水文水資源学.pdf

学習相談

複数の教員が講義を担当し、教員のオフィスは演習林にあるため、メールで対応します。
笠原(tamao.kasahara@forest.kyushu-u.ac.jp)
大槻(otsuki@forest.kyushu-u.ac.jp)
智和(mchiwa@forest.kyushu-u.ac.jp)
片山(ayumi@forest.kyushu-u.ac.jp)

添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-30 08:43:25.861

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014

シラバス参照

検索結果一覧へ戻る

講義科目名	景観管理学
科目ナンバリングコード	AGR-AEE3325J、AGR-FSC2143J
講義題目	趣のある土水緑の配置
授業科目区分	(農)専攻教育科目 (Agr)Major Subject
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 4時限
必修選択	選択(elective)
単位数	2
担当教員	大槻 恭一 菱 拓雄
開講学部・学府	農学部
対象学部等	地球森林科学コース(Forestry and Forest Products)
対象学年	学部3年(The 3rd year)
開講地区	箱崎地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	Japanese
教室	2-212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	景観の見方、景観のデザイン、景観を変えることによって変化する環境(光や水など)、景観スケールでの生態系の扱い、景観を管理するための視点場の設定法などを学びます。 We will study how to see and design the landscape, how landscape affects the environment (light, water cycle, etc.) and ecosystem, and how to set the perspective field for landscape managements, etc.
キーワード	景観法、景観デザイン、光、色、日照、リモートセンシング、GIS、デザインコード、視点座設定、景観シミュレーション、生態系
履修条件等	特記事項なし
履修に必要な 知識・能力	特記事項なし

No	観点	詳細
1.		景観に関する基礎知識(光、色、放射、影、リモートセンシング、GIS、画像処理)、各種地目における土水緑を配した景観の計画、デザイン、整備、管理方法について学習する。

PAGE TOP

到達目標

2.	B：専門的技能	
3.	C：汎用的技能	
4.	D：態度・志向性	

授業計画

No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
1.	序論（10/10）	○		
2.	景観の見方1（10/17）	○		
3.	景観の見方2（10/24）	○		
4.	景観における日射と影（10/31）	○		
5.	景観管理演習(11/7)		スケールに即したスケッチ	
6.	空間のデザイン（11/14）	○		
7.	地形のデザイン（11/21）	○		
8.	地形と流出の関係（11/28）	○		
9.	景観生態学で扱うスケール（12/5）	○		
10.	12. 生態系の多様性の生成要因（12/12）	○		
11.	生態系の多様性がもたらす機能（12/19）	○		
12.	デザインコード（1/9）	○		
13.	視点場設定1（1/16）	○		
14.	視点場設定2（1/23）	○		
15.	景観管理学まとめ（1/23）	○		
16.	テスト（2/6）			

授業以外での学習にあたって

テキスト

参考書

景観デザイン：市坪誠ら著、コロナ社、東京、2006
エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法：小川総一郎著、理工図書、東京、2009
景観生態学：Turnerら著、文一総合出版、東京、2004
生態学入門第2版：日本生態学会編、東京化学同人、東京、2012
生物多様性と生態学：宮下直ら著、朝倉書店、東京、2012

授業資料

講義中、各授業に関するプリントを配布する。

成績評価

評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考（欠格条件・割合）
	◎								
	○								
	○								

2017/10/18更新

	○
成績評価基準に関わる補足事項	
ルーブリック	H29 景観管理学ルーブリック.pdf
学習相談	火曜日12:00～13:00に農学部2号館2階演習林控室で対応。
添付ファイル	
その他	授業に関する問い合わせ：大槻恭一 Tel. 092-948-3107/3100 E-mail: otsuki@forest.kyushu-u.ac.jp
更新日付	2017-09-23 16:09:23.132

検索結果一覧へ戻る

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2014